

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                           |             |                       |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------|-------------|-----------------------|
| 授業科目名：情報倫理                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | 教員の免許状取得のための<br>必修科目      | 単位数：<br>2単位 | 担当教員名：会田和弘<br>担当形態：単独 |
| 科 目                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | 教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報） |             |                       |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 教科に関する専門的事項<br>情報社会・情報倫理  |             |                       |
| 授業のテーマ及び到達目標                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |                           |             |                       |
| <p>現在の社会は、高度に発展したデジタル技術によって格段に便利になった反面、ウィルス感染、ネットワークやサーバへの攻撃、詐欺や誹謗中傷、著作権侵害などの課題を抱えている。本科目では、これらのリスクを正しく捉え適切に対処できるようになる為、下記①②③を目標とする。</p> <p>①サイバー攻撃へ対策</p> <p>デジタル社会へのサイバー攻撃についての理解を深め、被害者だけではなく加害者になることがないように、適正な技術的な対応や法にそった利用ができる。</p> <p>②デジタル社会におけるプライバシーや著作権などへの理解</p> <p>デジタル社会におけるプライバシーや著作権の保護の重要性を自覚し、それに関連する法律の内容を理解できる。</p> <p>③情報倫理の必要性</p> <p>安全安心豊かなデジタル社会を実現するためには、技術的対策や法律のみに頼るのではなく、倫理的にいかに行動すべきかを判断できる。</p> |                           |             |                       |
| 授業の概要                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |                           |             |                       |
| <p>本講義では、インターネット社会が抱える問題を「誰が」「なぜ」「どのような手法」の視点で整理した上で、技術・法律の面からどのような対策がとられているかを概観する。その上で倫理的対策の必要性を探る。</p> <p>その一方で、行き過ぎた個人情報や著作権などの保護は、社会性、文化の発展などに悪影響を及ぼす。それら例から活用と保護を両立させる必要性を理解し、その際に私たち一人一人がどのような倫理的態度をとるべきかを検討する。</p>                                                                                                                                                                                                      |                           |             |                       |
| 授業計画                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |                           |             |                       |
| <p>第1回：イントロダクション、インターネット社会の光と陰。</p> <p>インターネットが私たちにもたらした利便性や新しい生活やビジネスの展開の一方で起こっている「影」の部分の概観し、それらを整理するいくつかの視点について解説する。講義の進め方についても説明する。</p> <p>第2回：デジタルへの攻撃と対策1「ユーザーへの攻撃」</p> <p>インターネット詐欺の実態などユーザーを騙す手法と、被害に遭わない為の対策について解説する。</p> <p>第3回：デジタルへの攻撃と対策2「コンピュータとネットワークへの攻撃1」</p>                                                                                                                                                  |                           |             |                       |

ウイルスによるデータ破壊や不正侵入など被害の実態、それらへの対策方法について解説する。

#### 第4回：デジタルへの攻撃と対策3「コンピュータやネットワークへの攻撃2」

本授業を理解する為に必要なネットワーク技術に関する知識についてまとめ、インターネット基盤への攻撃の実態と手法とそれらへの対策方法について解説する。

#### 第5回：デジタルへの攻撃と対策4「コンピュータやネットワークへの攻撃3」

SQL インジェクションなど、公開されている Web アプリケーションへの攻撃の手法と、それらへの対策方法について解説する。サーバを管理する社会的責任についても説明する。

#### 第6回：デジタルへの攻撃と対策5「その他の対策」

パスワードの管理、ユーザー認証、クライアント認証、暗号の活用など日頃から必要とされる技術的対策について解説する。

#### 第7回：情報セキュリティ対策とは

情報セキュリティが守るものは何か、どのような手法があるのか、セキュリティポリシーとは何かについて。その中で「リスク」とは何か、ゼロリスクの偏重、リスクの多重化についても触れる。

#### 第8回：技術的対策のまとめ

第1～7回で扱った内容を振り返り、デジタル社会への攻撃、それらへの技術的対策について整理する。その上で、技術と倫理について検討する。

#### 第9回：デジタル社会と法1「不正アクセス禁止法他」

インターネットの進展に伴う法整備の必要性和例。不正アクセス禁止法、プロバイダ責任制限法、ウイルス作成罪などについて解説する。また、誹謗中傷にあった際の発信者開示請求と表現の自由など相反する権利から法的対策の難しさにもふれる。

#### 第10回：デジタル社会と法2「プライバシーの保護」

デジタル社会におけるプライバシー侵害、肖像権の侵害、個人情報とプライバシーとの相違点について解説する。

#### 第11回：デジタル社会と法3「個人情報保護法とその課題」

個人情報保護法の概要、個人情報保護法の弊害、個人情報活用の必要性和その課題について解説する。

#### 第12回：デジタル社会と法4「著作権の保護」

知的財産保護の重要性、著作権法の基礎について解説する。

#### 第13回：デジタル社会と法5「デジタル時代の著作権」

デジタル著作物の特徴と、それを守るため付け加えられた法律、DRMやNFTなど保護技術について解説する。海賊版サイト問題にも触れる。

#### 第14回：デジタル社会と法6「保護と活用」

著作物の2次使用、名誉毀損と表現の自由、発信者情報開示と通信の秘密、プライバシーと地

域での情報共有などデジタル社会ではそれぞれの権利や利害が相反することも少なくない。いくつかの裁判事例から争点や判決を吟味し、デジタル時代の法のあり方について検討する。

#### 第15回：デジタル社会と情報倫理

本講義全体を振り返り、重要な要点を整理する。その上で、技術的に可能で法も規制しない行為、過剰な保護にどう対応するか、その時倫理が果たす役割と重要性について検討する。

#### 定期試験

#### テキスト

会田和弘著「情報セキュリティ入門 情報倫理を学ぶ人のために 第2版」共立出版 2021

#### 参考書・参考資料等

佐々木良一他著 「ITリスク学 ―「情報セキュリティ」を超えて―」 共立出版 2016

ダニエル・J・ソロブ著「プライバシーなんていない」 勁草書房 2017

山本隆司、奥邨弘司著「フェア・ユースの考え方」 太田出版 2010

その他、講義にてその都度紹介する

#### 学生に対する評価

授業の感想や質問（授業への積極的な参加）、確認テストの実施状況と点数、第8回終了後のレポートの提出状況および内容、定期試験の点数で評価する。

確認テストは自動採点システムを使用する。レポートは、講義中に扱った内容を各自がさらに理解を深める為に調べ学習を中心とする。定期試験では、デジタルが抱える問題とその解決方法についての基本的事項の理解度を確認するもの、インターネット社会における倫理的態度のあり方についてなどを出題する。

評価は次の基準で行う。授業への積極的な参加（10%）、確認テスト（30%）、レポート（20%）、学力考査（40%）。

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |                                    |         |                       |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------|---------|-----------------------|
| 授業科目名：プログラムの設計と実現Ⅰ                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 教員の免許状取得のための必修科目                   | 単位数：2単位 | 担当教員名：堀内靖雄<br>担当形態：単独 |
| 科 目                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）          |         |                       |
| 施行規則に定める科目区分又は事項等                                                                                                                                                                                                                                                                                    | 教科に関する専門的事項<br>コンピュータ・情報処理（実習を含む。） |         |                       |
| 授業のテーマ及び到達目標                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                                    |         |                       |
| 手続き型言語であるC言語の簡単なプログラムを独力で記述できるようになることを学習目標とする。将来、コンピュータを使いこなせるようになるためには、プログラミングの基礎を身につけることは非常に重要である。その中でも手続き型言語は計算方法（アルゴリズム）を考える基礎を身につけるために最適である。本講義ではC言語を用いて、プログラミング能力を身に付け、アルゴリズム構築の実際について学習する。                                                                                                    |                                    |         |                       |
| 授業の概要                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                                    |         |                       |
| コンピュータプログラミングの基礎を学ぶ。手続き型言語であるC言語を用いて、プログラミング能力を身に付け、アルゴリズム構築の実際について学習する。本講義で体得した技術は今後のプログラミングの学習や実践において非常に重要となる。本講義ではプログラミングの基本となる、変数、条件分岐、繰り返し、配列、関数を学習し、アルゴリズム構築の基本的な能力を身に付ける。その後、C言語のプログラミングに必要となる、文字列、ポインタ、再帰、構造体、ファイル入出力の各方法を理解する。最後に、大規模プログラミングのためのモジュール化、高度なポインタの使い方としての自己参照構造体によるリスト構造を学習する。 |                                    |         |                       |
| 授業計画                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |                                    |         |                       |
| 第1回：C言語プログラムのコンパイルと実行                                                                                                                                                                                                                                                                                |                                    |         |                       |
| 第2回：変数                                                                                                                                                                                                                                                                                               |                                    |         |                       |
| 第3回：条件分岐                                                                                                                                                                                                                                                                                             |                                    |         |                       |
| 第4回：繰り返し                                                                                                                                                                                                                                                                                             |                                    |         |                       |
| 第5回：配列                                                                                                                                                                                                                                                                                               |                                    |         |                       |
| 第6回：関数                                                                                                                                                                                                                                                                                               |                                    |         |                       |
| 第7回：基本形・再帰                                                                                                                                                                                                                                                                                           |                                    |         |                       |
| 第8回：文字・文字列                                                                                                                                                                                                                                                                                           |                                    |         |                       |
| 第9回：ポインタ                                                                                                                                                                                                                                                                                             |                                    |         |                       |
| 第10回：文字列とポインタ                                                                                                                                                                                                                                                                                        |                                    |         |                       |
| 第11回：ポインタと配列                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                                    |         |                       |
| 第12回：構造体                                                                                                                                                                                                                                                                                             |                                    |         |                       |
| 第13回：ファイル入出力                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                                    |         |                       |
| 第14回：モジュールプログラミング                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                                    |         |                       |
| 第15回：リスト構造                                                                                                                                                                                                                                                                                           |                                    |         |                       |

定期試験

テキスト

新版 明解C言語 入門編 柴田望洋著 ソフトバンク

参考書・参考資料等

C言語に関しては多数の書籍が出版されているので、各自、自分の能力や好みに応じて、参考書を用意すると良い。C言語の設計哲学について知りたい人はC言語を作った人の本、B. W. カーニハン、D. M. リッチー著、石田晴久訳「プログラミング言語C第2版」(The C Programming Language 2nd Edition)が有用。

学生に対する評価

講義中の演習課題(40%)と期末試験(60%)にて評価する。

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |                                    |             |                       |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------|-------------|-----------------------|
| 授業科目名：プログラムの設計と実現Ⅱ                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 教員の免許状取得のための<br>選択科目               | 単位数：<br>2単位 | 担当教員名：堀内靖雄<br>担当形態：単独 |
| 科 目                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）          |             |                       |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 教科に関する専門的事項<br>コンピュータ・情報処理（実習を含む。） |             |                       |
| 授業のテーマ及び到達目標                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                                    |             |                       |
| オブジェクト指向言語であるJava言語の簡単なプログラムを記述できるようになることを学習目標とする。大規模なプログラム開発において、オブジェクト指向プログラミングの考え方を理解することは非常に重要である。本講義では既にC言語を学習した受講生を対象とし、C言語と比較しながら、Java言語の基礎ならびにオブジェクト指向プログラミングの基礎を学ぶ。                                                                                                                                                                                                                                                    |                                    |             |                       |
| 授業の概要                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |                                    |             |                       |
| オブジェクト指向言語によるプログラミングの基礎を学ぶ。Java言語のプログラミングを身に付けることにより、大規模なシステム設計の基本となるオブジェクト指向プログラミングの考え方を学習する。本講義では既にC言語を学習した受講生を対象とし、C言語と比較しながら、Java言語の基礎を学ぶ。基本項目として、(1)変数(2)条件分岐(3)繰り返し(4)配列(5)メソッドについて学習し、C言語と同様に簡単なJavaプログラムが書ける能力を身に付ける。その後、オブジェクト指向プログラミングの学習項目として、(6)オブジェクト・クラス(7)カプセル化(8)継承(9)ポリモルフィズムなどオブジェクト指向プログラミング基礎内容を体得する。最後に実践的なJavaプログラミングのために(10)例外(11)ファイル入出力(12)マルチスレッド(13)抽象クラス・インタフェースなどについて学習し、実用的なJavaプログラムを記述できるようにする。 |                                    |             |                       |
| 授業計画                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |                                    |             |                       |
| 第1回：Javaプログラムのコンパイルと実行                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |                                    |             |                       |
| 第2回：変数・条件分岐                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |                                    |             |                       |
| 第3回：くり返し                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |                                    |             |                       |
| 第4回：統合開発環境                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |                                    |             |                       |
| 第5回：配列                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |                                    |             |                       |
| 第6回：メソッド                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |                                    |             |                       |
| 第7回：オブジェクト指向とクラス                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                                    |             |                       |
| 第8回：カプセル化                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |                                    |             |                       |
| 第9回：継承                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |                                    |             |                       |
| 第10回：例外処理                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |                                    |             |                       |
| 第11回：アレイリスト                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |                                    |             |                       |
| 第12回：ファイル入出力                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                                    |             |                       |

第13回：リンクトリスト

第14回：マルチスレッド

第15回：抽象クラスとインタフェース

定期試験

テキスト

指定なし

参考書・参考資料等

Java言語に関しては多数の書籍が出版されているので、各自、自分の能力や好みに応じて、参考書を用意すると良い。たとえば、結城浩著：Java言語プログラミングレッスン，SBクリエイティブ（上・下）、川場隆著：わかりやすいJava，秀和システム（入門編／オブジェクト指向入門編／オブジェクト指向編）等。

学生に対する評価

講義中の演習課題(40%)と期末試験(60%)にて評価する。

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |                                   |             |                       |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------|-------------|-----------------------|
| 授業科目名：プログラムの設計と実現Ⅲ                                                                                                                                                                                                                                                                              | 教員の免許状取得のための<br>選択科目              | 単位数：<br>2単位 | 担当教員名：石山智明<br>担当形態：単独 |
| 科 目                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）         |             |                       |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等                                                                                                                                                                                                                                                                           | 教科に関する専門的事項<br>コンピュータ・情報処理（実習を含む） |             |                       |
| 授業のテーマ及び到達目標<br>各種のアルゴリズムについて理解を含めるとともに，計算量について講述する．同時に演習も併用して理解を深める．                                                                                                                                                                                                                           |                                   |             |                       |
| 授業の概要<br>情報・データサイエンス分野で用いる代表的なアルゴリズムの理論を学ぶ．特に計算量について基礎的な理解を深めるとともに，それらアルゴリズムを具体的なプログラミング言語を用いて実現する手法について学ぶ．理解を深めるため，一部で演習を併用する．具体的な授業項目は以下の通り；(1)アルゴリズムの計算量，(2)高速乗算，(3)非線形方程式の解法，(4)連立一次方程式の解法，(5)整列アルゴリズム，(6)多変数多項式                                                                            |                                   |             |                       |
| 授業計画<br>第1回：アルゴリズムの計算量<br>第2回：高速乗算<br>第3回：高速乗算の応用<br>第4回：非線形方程式の解法<br>第5回：非線形方程式の解法、応用<br>第6回：連立一次方程式の解法<br>第7回：連立一次方程式の解法、応用<br>第8回：連立一次方程式の解法、実際<br>第9回：基本的な整列アルゴリズム<br>第10回：分割統治法を用いた整列アルゴリズム<br>第11回：データ構造を用いた整列アルゴリズム<br>第12回：方程式の根<br>第13回：数値積分<br>第14回：ユークリッドの互除法<br>第15回：多変数多項式<br>定期試験 |                                   |             |                       |
| テキスト<br>特になし。                                                                                                                                                                                                                                                                                   |                                   |             |                       |
| 参考書・参考資料等<br>講義中に適宜紹介する。                                                                                                                                                                                                                                                                        |                                   |             |                       |



学生に対する評価

レポート50%，試験50%で評価する。

|                                                                                                                                                                                                                         |                                    |              |                      |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------|--------------|----------------------|
| 授業科目名：<br>プログラム演習Ⅰ                                                                                                                                                                                                      | 教員の免許状取得のための<br>必修科目               | 単位数：<br>1 単位 | 担当教員名：田中緑<br>担当形態：単独 |
| 科 目                                                                                                                                                                                                                     | 教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）          |              |                      |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等                                                                                                                                                                                                   | 教科に関する専門的事項<br>コンピュータ・情報処理（実習を含む。） |              |                      |
| 授業のテーマ及び到達目標<br>テーマ：実際の計算機上でC言語によるプログラミングについて学ぶ<br>到達目標：<br>①「プログラムの設計と実現Ⅰ」により講義された内容の定着<br>②C言語のプログラミングを通じたコンピュータの動作の理解<br>③代表的なデータ構造とアルゴリズムの理解                                                                        |                                    |              |                      |
| 授業の概要<br>本授業では、同セメスタ開講の「プログラムの設計と実現Ⅰ」の講義に基づいて、実際の計算機上でのプログラム演習を行う。Linuxのプログラミング環境におけるC言語プログラミングを通してコンピュータの動作を説明し、代表的なアルゴリズムおよびその設計方法を紹介する。各回では関連事項の解説を行った後、プログラミング課題を課す。                                                |                                    |              |                      |
| 授業計画<br>第1回：環境構築<br>第2回：コンパイルと実行<br>第3回：変数<br>第4回：条件分岐<br>第5回：繰り返し<br>第6回：配列<br>第7回：関数<br>第8回：基本形・再帰<br>第9回：文字列<br>第10回：ポインタ<br>第11回：ポインタと配列<br>第12回：構造体1<br>第13回：構造体2<br>第14回：ファイル入出力1<br>第15回：ファイル入出力2<br>定期試験は実施しない。 |                                    |              |                      |
| テキスト<br>新・明解C言語 入門編（柴田望洋著、SBクリエイティブ）                                                                                                                                                                                    |                                    |              |                      |

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配布する。

学生に対する評価

各回で出された演習課題に対するレポート（100％）にて評価する。

レポートは主に以下の事項に関して総合的に評価する。

- ・プログラムが正常に動作するか（エラー等がなく実行可能か）
- ・適切な結果を得ることができているか
- ・コードが適切に書かれているか（無駄なコードやわかりにくいコードがないか）
- ・適切なコメントが記述されているか

|                                                                                                                                                                                                                                                                                 |                                    |              |                       |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------|--------------|-----------------------|
| 授業科目名：<br>プログラム演習Ⅱ                                                                                                                                                                                                                                                              | 教員の免許状取得のための<br>選択科目               | 単位数：<br>1 単位 | 担当教員名：梅澤 猛<br>担当形態：単独 |
| 科 目                                                                                                                                                                                                                                                                             | 教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）          |              |                       |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等                                                                                                                                                                                                                                                           | 教科に関する専門的事項<br>コンピュータ・情報処理（実習を含む。） |              |                       |
| 授業のテーマ及び到達目標<br>テーマ：実機上でJava言語によるオブジェクト指向型のプログラミング言語について学ぶ<br>到達目標：①「プログラムの設計と実現II」により講義された内容を定着すること<br>②Java言語のプログラミングを通してオブジェクト指向型のプログラミング言語の<br>考え方と動作を理解すること                                                                                                                |                                    |              |                       |
| 授業の概要<br>本演習では、同セメスター開講の「プログラムの設計と実現II」の講義に基づいて、実際の<br>計算機上でのプログラム演習を行う。Java言語によるプログラミングを通してオブジェクト指<br>向型プログラミング言語の考え方と動作を説明し、代表的なアルゴリズムおよびその設計方法<br>を紹介する。週毎に関連事項の解説を行った後、プログラミング課題を課す。                                                                                        |                                    |              |                       |
| 授業計画<br>第1回：Javaプログラミングの基本<br>第2回：変数<br>第3回：条件分岐<br>第4回：繰り返し<br>第5回：配列<br>第6回：オブジェクト指向とクラス<br>第7回：カプセル化<br>第8回：コンストラクタ<br>第9回：クラスの継承<br>第10回：オーバーロードとオーバーライド<br>第11回：例外処理（1）（例外の対処）<br>第12回：例外処理（2）（例外の生成）<br>第13回：テキストファイル入出力<br>第14回：ウィンドウ・キーボード入力<br>第15回：まとめ<br>定期試験は実施しない。 |                                    |              |                       |
| テキスト<br>特になし                                                                                                                                                                                                                                                                    |                                    |              |                       |
| 参考書・参考資料等                                                                                                                                                                                                                                                                       |                                    |              |                       |

週毎に授業資料を公開する

学生に対する評価

週毎に出す演習課題に対するレポート（100%）にて評価する。レポートは主に以下の事項に関して総合的に評価する。

- ・プログラムが正常に動作するか（エラー等がなく実行可能か）
- ・適切な結果を得ることができているか
- ・コードが適切に書かれているか（無駄なコードやわかりにくいコードがないか）
- ・適切なコメントが記述されているか

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |                                    |         |                       |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------|---------|-----------------------|
| 授業科目名：コンピュータシステム入門                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 教員の免許状取得のための必修科目                   | 単位数：2単位 | 担当教員名：難波一輝<br>担当形態：単独 |
| 科 目                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）          |         |                       |
| 施行規則に定める科目区分又は事項等                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 教科に関する専門的事項<br>コンピュータ・情報処理（実習を含む。） |         |                       |
| 授業のテーマ及び到達目標<br>データサイエンスを支えるPCやスーパーコンピュータ，スマートフォンなどの携帯機器，IoT機器，ロボット，ゲーム機，家電製品，自動車，航空機など今日のほとんどあらゆる機器を構成するコンピュータシステムについて，本講義ではその基本構造と動作について修得することを目的とする。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |                                    |         |                       |
| 授業の概要<br>コンピュータシステムの特にハードウェアに関する基本的知識について講義する。具体的にコンピュータシステムにおける数や記号の表現原理，コンピュータの基本構造(CPU，記憶装置，入出力装置，オペレーティングシステム，ネットワークシステム)，コンピュータを構成する論理回路，コンピュータを直接操作するアセンブリ言語などについて述べる。                                                                                                                                                                                                                                                                                              |                                    |         |                       |
| 授業計画<br>第1回：コンピュータシステム概論I（位取り記数法/バイナリデータ）<br>第2回：コンピュータシステム概論II（ノイマン型コンピュータ）<br>第3回：ブール代数と論理関数I（ブール代数の基礎）<br>第4回：ブール代数と論理関数II（カルノー図）<br>第5回：論理回路－組み合わせ回路I（論理ゲート）<br>第6回：論理回路－組み合わせ回路II（加減算器）<br>第7回：論理回路－組み合わせ回路III（乗算器）<br>第8回：論理回路－組み合わせ回路IV（実数）<br>第9回：論理回路－順序回路I（フリップフロップ/レジスタ）<br>第10回：論理回路－順序回路II（順序回路の設計）<br>第11回：論理回路－順序回路III（データパス）<br>第12回：論理回路－順序回路IV（SRAM/DRAM）<br>第13回：プロセッサの基礎I（アセンブリ言語）<br>第14回：プロセッサの基礎II（機械語命令の実行）<br>第15回：プロセッサの基礎III（CPUの性能評価）<br>定期試験 |                                    |         |                       |
| テキスト<br>伊藤秀男，倉田是著，「入門計算機システム」，朝倉書店                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |                                    |         |                       |
| 参考書・参考資料等                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |                                    |         |                       |

|                                             |
|---------------------------------------------|
| 特になし                                        |
| 学生に対する評価                                    |
| 講義で行う演習（20%）および定期試験（80%）の成績によって目標の到達度を評価する。 |

|                                                                                       |                                    |             |                         |
|---------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------|-------------|-------------------------|
| 授業科目名： インタプリタとコンパイラ                                                                   | 教員の免許状取得のための<br>選択科目               | 単位数：<br>2単位 | 担当教員名： 今泉貴史<br>担当形態： 単独 |
| 科 目                                                                                   | 教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）          |             |                         |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等                                                                 | 教科に関する専門的事項<br>コンピュータ・情報処理（実習を含む。） |             |                         |
| 授業のテーマ及び到達目標                                                                          |                                    |             |                         |
| ・ プログラミング言語処理系がプログラムを解析・実行する過程を理解することを目標とする。<br>・ 設定ファイルの読み込みなどに応用できることを目標とする。        |                                    |             |                         |
| 授業の概要                                                                                 |                                    |             |                         |
| 本講義ではインタプリタおよびコンパイラなどのプログラミング言語処理系について講義する。字句解析、構文解析からコード生成や実行にいたるまで、言語処理系全域に亘りとり上げる。 |                                    |             |                         |
| 授業計画                                                                                  |                                    |             |                         |
| 第1回： ガイダンス                                                                            |                                    |             |                         |
| 第2回： プログラミング言語処理系の概要                                                                  |                                    |             |                         |
| 第3回： 文法と言語                                                                            |                                    |             |                         |
| 第4回： 字句解析1（パターンと状態遷移機械）                                                               |                                    |             |                         |
| 第5回： 字句解析2（FSAと正規表現）                                                                  |                                    |             |                         |
| 第6回： 下向き構文解析1（LL(1)文法）                                                                |                                    |             |                         |
| 第7回： 下向き構文解析2（構文解析期の生成）                                                               |                                    |             |                         |
| 第8回： 上向き構文解析1（LR構文解析法）                                                                |                                    |             |                         |
| 第9回： 上向き構文解析2（構文解析表の生成）                                                               |                                    |             |                         |
| 第10回： 意味解析                                                                            |                                    |             |                         |
| 第11回： 誤りの処理                                                                           |                                    |             |                         |
| 第12回： 実行記憶域と仮想マシン                                                                     |                                    |             |                         |
| 第13回： コード生成                                                                           |                                    |             |                         |
| 第14回： 最適化                                                                             |                                    |             |                         |
| 第15回： 各種プログラミング言語                                                                     |                                    |             |                         |
| 定期試験                                                                                  |                                    |             |                         |
| テキスト                                                                                  |                                    |             |                         |
| 授業中に適宜資料を配布する。                                                                        |                                    |             |                         |
| 参考書・参考資料等                                                                             |                                    |             |                         |
| 中田育男著，コンパイラ作りながら学ぶ，オーム社                                                               |                                    |             |                         |
| 学生に対する評価                                                                              |                                    |             |                         |
| 宿題（40%）、定期試験（40%）、小テスト（10%）、コメントシート（10%）                                              |                                    |             |                         |



|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |                               |             |                       |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------|-------------|-----------------------|
| 授業科目名：<br>分散情報処理                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | 教員の免許状取得のための<br>必修科目          | 単位数：<br>2単位 | 担当教員名：白木厚司<br>担当形態：単独 |
| 科 目                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）     |             |                       |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 教科に関する専門的事項<br>情報システム（実習を含む。） |             |                       |
| 授業の到達目標及びテーマ                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |                               |             |                       |
| <p>銀行のオンラインシステムやインターネット上のアプリケーションなど、分散処理技術を活用している情報システムは多く見受けられる。この分散処理の仕組みについて学び、実現するうえでどのような技術的な課題があるのかを理解する。また、分散システムと集中システムを比較することで分散ファイルシステムや共有メモリなどの情報システムの仕組みや課題について理解すること、分散処理と並列処理と比較することで構造的な仕組みや課題について理解することを目的とする。なお、これまではユーザとしてほとんど意識せずに利用してきた分散処理技術について、現場で活用されている事例を他者に分かりやすく説明できるようになることを目標とする。</p> |                               |             |                       |
| 授業の概要                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |                               |             |                       |
| <p>近年、様々な情報をコンピュータで扱うようになり、単一のコンピュータだけではなくネットワークでつながれた複数のコンピュータによって情報を処理する分散システムが多くの場合で活用されている。分散システムと集中システムを比較することで情報システムの仕組みや課題について学習する。また、分散処理と並列処理と比較することで構造的な仕組みや課題についても学習する。</p>                                                                                                                              |                               |             |                       |
| 授業計画                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                               |             |                       |
| 第1回～第10回で分散システムの仕組みや応用事例について、第11回・第12回で分散システムで重要となるアルゴリズムについて、第13回・第14回で並列処理との違いについてそれぞれ学び、第15回で講義の総まとめと確認を行う。                                                                                                                                                                                                      |                               |             |                       |
| 第1回 ガイダンス・分散システムの紹介                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |                               |             |                       |
| 第2回 分散システムの概要・種類                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                               |             |                       |
| 第3回 通信、名前付け                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                               |             |                       |
| 第4回 アーキテクチャ、プロセス                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                               |             |                       |
| 第5回 クライアントサーバ、時計と同期                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |                               |             |                       |
| 第6回 フォールトトレラント性、セキュリティ                                                                                                                                                                                                                                                                                              |                               |             |                       |
| 第7回 分散ファイルとオブジェクト、分散 Web システム                                                                                                                                                                                                                                                                                       |                               |             |                       |
| 第8回 パーベイシブシステムと分散組込みシステム、密結合型分散システムにおける排他制御                                                                                                                                                                                                                                                                         |                               |             |                       |
| 第9回 分散システムアプリケーション事例                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                               |             |                       |

第10回 分散システムのまとめと確認

第11回 分散スナップショット、リーダー選挙問題

第12回 分散相互排除問題、放送型通信

第13回 並列処理と分散処理、システム構成

第14回 実行制御、同期機構

第15回 講義の総まとめと確認

テキスト

水野忠則監修、「未来へつなぐデジタルシリーズ 31 分散システム」共立出版、ISBN:978-4-320-12351-9。

参考書・参考資料等

講義資料はWebに掲載。

学生に対する評価

まとめの試験（50%）、各回の課題（50%）で評価する。

|                                                                                                                                                                             |                               |              |                        |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------|--------------|------------------------|
| 授業科目名：<br>情報工学実験IA                                                                                                                                                          | 教員の免許状取得のための<br>必修科目          | 単位数：<br>1 単位 | 担当教員名：計良 宥志<br>担当形態：単独 |
| 科 目                                                                                                                                                                         | 教科及び教科の指導法に関する専門的事項（高等学校 情報）  |              |                        |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等                                                                                                                                                       | 教科に関する専門的事項<br>情報システム（実習を含む。） |              |                        |
| 授業のテーマ及び到達目標<br>4年次で行なう卒業研究のための基本となるように計画されている。本実験では、与えられたことをこなすだけでなく、自ら問題を見つけ、それを解決する能力が問われている。各教員から配布されるテキストを良く理解することはもちろんのこと、それ以外の書籍文献等も参照し、情報工学のより深い理解を目標とする。           |                               |              |                        |
| 授業の概要<br>本実験では、深層学習による画像の分類に関する実習を行う。深層ニューラルネットワーク、勾配法、ネットワークに対する摂動とそれに対する対策に関する知識・技術を習得する。                                                                                 |                               |              |                        |
| 授業計画<br>1回当たり3時限の実験を5回にわたって行う。<br><br>第1回：画像分類実験（深層ニューラルネットワークの基礎）<br>第2回：画像分類実験（深層ニューラルネットワークの学習）<br>第3回：画像分類実験（ネットワークに対する摂動とその対策）<br>第4回：画像分類実験（発展的事項）<br>第5回：画像分類実験（まとめ） |                               |              |                        |
| テキスト<br>実験テキスト（情報・データサイエンス学部にて作成）を配布する。                                                                                                                                     |                               |              |                        |
| 参考書・参考資料等<br>特になし                                                                                                                                                           |                               |              |                        |
| 学生に対する評価<br>深層ニューラルネットワークの学習に関する理解および実装の習得を目標とする。レポート（100%）により目標の到達度を総合的に評価する。                                                                                              |                               |              |                        |

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                               |             |                       |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------|-------------|-----------------------|
| 授業科目名：オペレーティングシステム                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 教員の免許状取得のための<br>選択科目          | 単位数：<br>2単位 | 担当教員名：北神正人<br>担当形態：単独 |
| 科 目                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | 教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）     |             |                       |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 教科に関する専門的事項<br>情報システム（実習を含む。） |             |                       |
| 授業のテーマ及び到達目標<br>オペレーティングシステムを構成する各機能について、その仕組みや実現方法を理解する。<br>計算機システムの保護や高信頼化の手法を理解する。                                                                                                                                                                                                                   |                               |             |                       |
| 授業の概要<br>ユーザやアプリケーションプログラムと計算機ハードウェアとのインタフェースであるオペレーティングシステムについてその概念や実装方法について解説する。また、計算機システムの保護や高信頼化の手法について解説する。                                                                                                                                                                                        |                               |             |                       |
| 授業計画<br>第1回：OSとは<br>第2回：実行管理<br>第3回：同期・通信<br>第4回：デバイス管理<br>第5回：記憶装置管理<br>第6回：仮想記憶<br>第7回：ファイルシステム<br>第8回：前半のまとめ<br>第9回：ネットワーク<br>第10回：並列分散処理とユーザインタフェース<br>第11回：計算機システムの保護とセキュリティ1（暗号とデータ保護）<br>第12回：計算機システムの保護とセキュリティ2（マルウェアとセキュリティ）<br>第13回：計算機システムの高信頼化<br>第14回：システムの信頼性とその評価<br>第15回：後半のまとめ<br>定期試験 |                               |             |                       |
| テキスト<br>大澤範高著「オペレーティングシステム」コロナ社 ISBN:978-4-339-02707-5                                                                                                                                                                                                                                                  |                               |             |                       |
| 参考書・参考資料等<br>特になし                                                                                                                                                                                                                                                                                       |                               |             |                       |
| 学生に対する評価<br>毎回の小テスト（40％）および、第8回、第15回のまとめの後のテストの点（各30％）を基に評価する。                                                                                                                                                                                                                                          |                               |             |                       |

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |                           |      |            |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------|------|------------|
| 授業科目名：                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 教員の免許状取得のための              | 単位数： | 担当教員名：黒岩眞吾 |
| 時系列信号処理                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 選択科目                      | 2単位  | 担当形態：単独    |
| 科 目                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報） |      |            |
| 施行規則に定める                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | 教科に関する専門的事項               |      |            |
| 科目区分又は事項等                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 情報システム（実習を含む。）            |      |            |
| 授業のテーマ及び到達目標                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |                           |      |            |
| 授業のテーマ：                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |                           |      |            |
| アナログ信号を計算機に取り込んだデジタル信号から特徴を抽出し，分析や機械学習に用いる一連の技術を学ぶ。                                                                                                                                                                                                                                                                                 |                           |      |            |
| 到達目標：                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |                           |      |            |
| <ul style="list-style-type: none"><li>・ アナログ信号と離散時間信号やデジタル信号の等価性や差異を理解し説明できる。</li><li>・ ラプラス変換，<math>z</math>変換，フーリエ級数展開，フーリエ変換，デジタルフーリエ変換の関連性を理解し，それらを活用したデジタル信号処理プログラムを実現できる。</li><li>・ 音声信号を例として時系列信号を分析するための特徴抽出法を理解すると共に，信号の読み込みから特徴抽出までの一連の処理をプログラムとして実現できる。</li><li>・ 時系列特徴ベクトル（多次元時系列信号）を対象とした機械学習をプログラムとして実現できる。</li></ul> |                           |      |            |
| 授業の概要                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |                           |      |            |
| はじめに，サンプリング定理， $z$ 変換，フィルタリング等のデジタル信号処理の基礎を学びます．次に，デジタルフーリエ変換等を用いてデジタル信号を特徴ベクトルの時系列信号（多次元時系列信号）として表現・可視化する方法を学びます．最後に，可変長の多次元時系列信号を対象としたクラスタリング，パターンマッチング，深層学習による識別手法を学びます．なお，各項目においてPythonを用いた演習を実施し，各々の処理をプログラムとして設計・実現するスキルも身につけます。                                                                                              |                           |      |            |
| 授業計画                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                           |      |            |
| プログラミング演習の一部は予習2時間，復習2時間の範囲で講義時間外の課題として実施します。                                                                                                                                                                                                                                                                                       |                           |      |            |
| 第1回：時系列信号処理とは                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |                           |      |            |
| 第2回：サンプリング定理                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |                           |      |            |
| 第3回：デジタル信号からアナログ信号の復元（プログラミング演習を含む）                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |                           |      |            |
| 第4回： $z$ 変換と逆 $z$ 変換                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                           |      |            |
| 第5回： $z$ 変換を用いた線形差分方程式の解法                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |                           |      |            |
| 第6回：デジタルフィルタ（プログラミング演習を含む）                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |                           |      |            |
| 第7回：インパルス応答の測定と頭部伝達関数（プログラミング演習を含む）                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |                           |      |            |
| 第8回：音声生成モデルと聴覚モデル                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |                           |      |            |

第9回：フーリエ級数展開再考（プログラミング演習を含む）

第10回：窓関数と短時間フーリエ変換（プログラミング演習を含む）

第11回：音響特徴量（プログラミング演習を含む）

第12回：フレーム処理と時系列信号の可視化（プログラミング演習を含む）

第13回：時系列信号のクラスタリング（プログラミング演習を含む）

第14回：時系列信号のパターンマッチング（プログラミング演習を含む）

第15回：DNNを用いた単語音声認識（プログラミング演習を含む）

定期試験

テキスト

各回で使用するスライド および Jupyter Notebook形式ファイルをWeb上で配布

参考書・参考資料等

『信号・システム理論の基礎—フーリエ解析、ラプラス変換、 $z$ 変換を系統的に学ぶ』足立 修一（コロナ社，2014）

『Pythonで学ぶ音声認識』高島遼一（インプレス，2021）

学生に対する評価

定期試験（50%），プログラミング演習のレポート（50%）

|                                                                                                                                                                                                                                                                            |                               |              |                       |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------|--------------|-----------------------|
| 授業科目名：<br>最適化理論                                                                                                                                                                                                                                                            | 教員の免許状取得のための<br>選択科目          | 単位数：<br>2 単位 | 担当教員名：関屋大雄<br>担当形態：単独 |
| 科 目                                                                                                                                                                                                                                                                        | 教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）     |              |                       |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等                                                                                                                                                                                                                                                      | 教科に関する専門的事項<br>情報システム（実習を含む。） |              |                       |
| 授業のテーマ及び到達目標                                                                                                                                                                                                                                                               |                               |              |                       |
| <p>最適化は情報工学・データサイエンスのみならず、経済学などの他の学問分野、さらには具体的コスト削減などビジネス分野においても必要不可欠な普遍的問題である。最適化はAI分野（機械学習、深層学習）におけるアルゴリズムの本質でもある。</p> <p>本講義を通じて、最適化の定義、その具体例を知ること、実社会における最適化の必要性、重要性を理解する。さらに、計算複雑性、具体的最適化アルゴリズムを理解する。そのうえでいくつかの最適化アルゴリズムを自ら実装し、活用できるようになることを目的する。</p>                 |                               |              |                       |
| 授業の概要                                                                                                                                                                                                                                                                      |                               |              |                       |
| <p>最適化はあらゆる産業で共通して現れる課題であり、目的関数を最大化（または最小化）する最適なパラメータの組み合わせを探索する問題に帰着する。また、その探索方法として様々なアルゴリズムが提案されており、その基本を理解することが重要である。本講義では、まず最適化問題の分類、有名な最適化問題について説明する。さらに、計算複雑性について学ぶ。そのうえで、具体的最適化アルゴリズムの原理を理解した上で、最急降下法、遺伝的アルゴリズム、粒子群最適化等のいくつかの最適化アルゴリズムを実装し、具体的ベンチマーク問題を解く実習を行う。</p> |                               |              |                       |
| 授業計画                                                                                                                                                                                                                                                                       |                               |              |                       |
| 第1回：最適化問題とは：最適化問題の定義・最適化問題の具体例                                                                                                                                                                                                                                             |                               |              |                       |
| 第2回：最適化問題の分類：線形計画問題と非線形計画問題、有名なベンチマーク問題                                                                                                                                                                                                                                    |                               |              |                       |
| 第3回：計算の複雑さとアルゴリズム（1）（クラスP, NP）                                                                                                                                                                                                                                             |                               |              |                       |
| 第4回：計算の複雑さとアルゴリズム（2）NP完全, NP困難）                                                                                                                                                                                                                                            |                               |              |                       |
| 第5回：最適化アルゴリズムの紹介（1）：シンプレックス法                                                                                                                                                                                                                                               |                               |              |                       |
| 第6回：最適化アルゴリズムの紹介（2）：緩和法、分枝限定法                                                                                                                                                                                                                                              |                               |              |                       |
| 第7回：最適化アルゴリズムの紹介（3）：2分法、ニュートン法                                                                                                                                                                                                                                             |                               |              |                       |
| 第8回：最適化アルゴリズムの紹介（4）：遺伝的アルゴリズム、焼きなまし法                                                                                                                                                                                                                                       |                               |              |                       |
| 第9回：最適化アルゴリズムの紹介（5）：粒子群最適化法、アントコロニー最適化法                                                                                                                                                                                                                                    |                               |              |                       |
| 第10回：シンプレックス法の実装と具体的最適化（1）：アルゴリズム実装                                                                                                                                                                                                                                        |                               |              |                       |
| 第11回：シンプレックス法の実装と具体的最適化（2）：線形計画問題の解法                                                                                                                                                                                                                                       |                               |              |                       |
| 第12回：ニュートン法の実装と具体的最適化（1）：アルゴリズム実装                                                                                                                                                                                                                                          |                               |              |                       |
| 第13回：ニュートン法の実装と具体的最適化（2）：代数方程式の球根                                                                                                                                                                                                                                          |                               |              |                       |
| 第14回：粒子群最適化法の実装と具体的最適化（1）：アルゴリズム実装                                                                                                                                                                                                                                         |                               |              |                       |

第15回：粒子群最適化法の実装と具体的最適化（2）：組合わせ最適化問題の解法  
定期試験

テキスト：講義中に資料を配布する。また資料はweb上に掲載する。

参考書・参考資料等

本講義に関する書籍は数多く出版されている。講義の中で適宜紹介する。ここにはそのいくつかを示す。

線形計画法の基礎と応用（シリーズ オペレーションズ・リサーチ）（坂和 正敏）朝倉書店 2012

メタヒューリスティクスと応用（相吉 英太郎，安田 恵一郎）電気学会 2007

非線形最適化法に関する研究とその数学ソフトウェアの開発（八巻直一）静岡学術出版 2018

学生に対する評価

定期試験 50%、演習レポート50%で評価する。



|                                                                                                                                                                                                                    |                               |             |                        |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------|-------------|------------------------|
| 授業科目名：<br>機械学習Ⅰ                                                                                                                                                                                                    | 教員の免許状取得のための<br>選択科目          | 単位数：<br>2単位 | 担当教員名：川本 一彦<br>担当形態：単独 |
| 科 目                                                                                                                                                                                                                | 教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）     |             |                        |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等                                                                                                                                                                                              | 教科に関する専門的事項<br>情報システム（実習を含む。） |             |                        |
| 授業のテーマ及び到達目標                                                                                                                                                                                                       |                               |             |                        |
| <ul style="list-style-type: none"><li>・機械学習の基本モデルとその学習アルゴリズムを理解することを目標とする。</li><li>・機械学習アルゴリズムを評価できるようになることを目標とする。</li><li>・教師あり学習と教師なし学習の違いを説明できることを目標とする。</li><li>・機械学習が社会でどのように利用されているかを理解することを目標とする。</li></ul> |                               |             |                        |
| 授業の概要                                                                                                                                                                                                              |                               |             |                        |
| 機械学習の基本的な仕組みを説明し、どのようなことができるのか、なぜできるのか、どのように使えばよいかを理解させることを目的とする。この講義では、深層学習そのものは取り上げないが、深層学習へのつながりや発展を意識し、線形回帰、ロジスティック回帰、パーセプトロン等の深層学習の基礎となる教師あり学習を中心に講述する。同時に、バイアス・分散トレードオフ、過剰適合、汎化等の基礎学習理論や学習アルゴリズムについても解説する。   |                               |             |                        |
| 授業計画                                                                                                                                                                                                               |                               |             |                        |
| 第1回：機械学習概論                                                                                                                                                                                                         |                               |             |                        |
| 第2回：回帰のための教師あり学習の基礎：線形回帰モデル                                                                                                                                                                                        |                               |             |                        |
| 第3回：線形回帰モデルの最適化                                                                                                                                                                                                    |                               |             |                        |
| 第4回：線形回帰モデルの正則化：リッジ回帰とラッソ回帰                                                                                                                                                                                        |                               |             |                        |
| 第5回：分類のための教師あり学習の基礎：ロジスティック回帰とパーセプトロン                                                                                                                                                                              |                               |             |                        |
| 第6回：パーセプトロンとロジスティック回帰の最適化                                                                                                                                                                                          |                               |             |                        |
| 第7回：サポートベクターマシン                                                                                                                                                                                                    |                               |             |                        |
| 第8回：ニューラルネットワークの基礎                                                                                                                                                                                                 |                               |             |                        |
| 第9回：ニューラルネットワークの学習                                                                                                                                                                                                 |                               |             |                        |
| 第10回：木に基づく教師あり学習：回帰木と分類木                                                                                                                                                                                           |                               |             |                        |
| 第11回：アンサンブル学習                                                                                                                                                                                                      |                               |             |                        |
| 第12回：教師なし学習の基礎：クラスタリングと次元圧縮                                                                                                                                                                                        |                               |             |                        |
| 第13回：次元圧縮の応用                                                                                                                                                                                                       |                               |             |                        |
| 第14回：機械学習アルゴリズムの評価                                                                                                                                                                                                 |                               |             |                        |
| 第15回：機械学習の応用事例                                                                                                                                                                                                     |                               |             |                        |
| 定期試験                                                                                                                                                                                                               |                               |             |                        |
| テキスト                                                                                                                                                                                                               |                               |             |                        |
| 自作教材を配布する。                                                                                                                                                                                                         |                               |             |                        |

参考書・参考資料等

C.M. ビショップ, パターン認識と機械学習 (上), 丸善出版, 2012

T.Hastie他, 統計的学習の基礎ーデータマイニング・推論・予測ー, 共立出版, 2014

M.Mohri他, Foundations of Machine Learning (2<sup>nd</sup> edition), The MIT Press, 2018

G.James他, An Introduction to Statistical Learning (2<sup>nd</sup> edition), Springer, 2021

A.Zhang他, Dive into Deep Learning, Cambridge University Press, 2023

学生に対する評価

演習の配点を40点, 定期試験の配点を60点し, 100点満点で目標の到達度を評価する。

|                                                                                                                                                                |                               |             |                     |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------|-------------|---------------------|
| 授業科目名：<br>情報工学実験Ⅱ                                                                                                                                              | 教員の免許状取得のための<br>選択科目          | 単位数：<br>2単位 | 担当教員名：<br>川本一彦、白木厚司 |
|                                                                                                                                                                |                               |             | 担当形態：複数             |
| 科 目                                                                                                                                                            | 教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）     |             |                     |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等                                                                                                                                          | 教科に関する専門的事項<br>情報システム（実習を含む。） |             |                     |
| 授業の到達目標及びテーマ                                                                                                                                                   |                               |             |                     |
| 少人数のチームにより、プロジェクト開発を学ぶことを目的とする。具体的には、チーム内の戦略や目標を相談しながら設定し、チーム内の各学生の役割分担を明確にし、お互いにコミュニケーションを取りながら課題を遂行できることを達成目標とする。さらに、プレゼンテーションの能力も養い、全学生の前で適切な発表を行うことも目標とする。 |                               |             |                     |
| 授業の概要                                                                                                                                                          |                               |             |                     |
| 少人数のチームに分かれてプロジェクト計画を立案し、ロボット製作を行う。課題ごとに競技会を行った後、作製したロボットについて、戦略や工夫した点などに関するプレゼンテーションを行う。                                                                      |                               |             |                     |
| 授業計画                                                                                                                                                           |                               |             |                     |
| 6名程度でチームを構成し役割分担してロボット製作を行い、競技会を行う。課題は、ライントレースおよびセンサを用いた自動追従のタイムトライアルなどからなる。課題の後に、工夫した点などについてのプレゼンテーションを行う。                                                    |                               |             |                     |
| 第1回 ガイダンス・プロジェクト計画の立案                                                                                                                                          |                               |             |                     |
| 第2回 ライントレースカーの設計                                                                                                                                               |                               |             |                     |
| 第3回 ライントレースカーの製作                                                                                                                                               |                               |             |                     |
| 第4回 ライントレースカーの動作テスト                                                                                                                                            |                               |             |                     |
| 第5回 ライントレースカーの改良                                                                                                                                               |                               |             |                     |
| 第6回 ライントレース競技会（前半チームの競技）                                                                                                                                       |                               |             |                     |
| 第7回 ライントレース競技会（後半チームの競技）                                                                                                                                       |                               |             |                     |
| 第8回 ライントレースカーのプレゼンテーション大会                                                                                                                                      |                               |             |                     |
| 第9回 自動追従カーの設計                                                                                                                                                  |                               |             |                     |
| 第10回 自動追従カーの製作                                                                                                                                                 |                               |             |                     |
| 第11回 自動追従カーの動作テスト・改良                                                                                                                                           |                               |             |                     |
| 第12回 自動追従競技会（前半チームの競技）                                                                                                                                         |                               |             |                     |
| 第13回 自動追従競技会（後半チームの競技）                                                                                                                                         |                               |             |                     |
| 第14回 自動追従カーのプレゼンテーション大会                                                                                                                                        |                               |             |                     |
| 第15回 プロジェクトの総括                                                                                                                                                 |                               |             |                     |

テキスト

最初のガイダンスで実験テキストを配布する。適宜Webで公開する。

参考書・参考資料等

特になし

学生に対する評価

各回の活動報告、競技会の結果、プレゼンテーション評価、およびプロジェクトを総括する報告書（100%）を基に、主に以下の事項に関して総合的に評価する。

各回の活動報告

- ・チーム活動報告として、目標やタスク、達成度が明確に記載されているか
- ・個人活動報告として、目標やタスク、達成度が明確に記載されているか

競技会の結果

- ・各競技の課題を達成できたか

プレゼンテーション評価

- ・独自性や技術的工夫点が明確に述べられているか
- ・きちんとした論理展開、結果に対する考察がなされているか
- ・スライドの見やすさやプレゼンテーションの話し方など、聴衆にわかりやすくなっているか

報告書

- ・プロジェクトとして、全体の目標やタスク、達成度が明確に記載されているか
- ・独自性や技術的工夫点が明確に記載されているか
- ・成果物および競技会の結果、およびそれらに対する考察が記載されているか

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                                   |         |                              |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------|---------|------------------------------|
| 授業科目名：コンピュータネットワーク                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 教員の免許状取得のための必修科目                  | 単位数：2単位 | 担当教員名：NGUYEN KIEN<br>担当形態：単独 |
| 科 目                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | 教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）         |         |                              |
| 施行規則に定める科目区分又は事項等                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 教科に関する専門的事項<br>情報通信ネットワーク（実習を含む。） |         |                              |
| 授業のテーマ及び到達目標                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |                                   |         |                              |
| <p>Computer networks, such as the Internet, are indispensable as the foundation for information distribution. The essential knowledge for understanding computer networks includes their architectural principles, layering concepts, and communication protocols. This lecture introduces the principles of each layer, from the application layer to the physical layer of the TCP/IP model, and each layer's representative protocols. Students will also gain practical insights by practicing socket programming and open-source networking tools.</p> <p>インターネットを代表するコンピュータネットワークは、情報流通の基盤としてなくてはならない存在である。アーキテクチャ原理、レイヤー概念、通信プロトコルはコンピュータネットワークを理解するうえでもっとも重要な知識である。本講義では、TCP/IPモデルのアプリケーション層から物理層までの各層の原理と、各層の代表的なプロトコルを紹介する。また、ソケットプログラミングやオープンソースのネットワークツールの実習を行うことで、実践的技術を習得する。</p> |                                   |         |                              |
| 授業の概要                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |                                   |         |                              |
| <p>This lecture will provide comprehensive knowledge for understanding computer networks. It takes the top-down approach to clarify the Internet protocols from the top to bottom layers. Moreover, the lecture introduces wireless technologies, security issues, and several advanced networking topics. Besides, the lecture introduces socket programming and networking tools to deepen the protocols' knowledge in practice.</p> <p>本講義では、コンピュータネットワークを理解するための総合的な知識を学ぶ。トップダウンアプローチにより、インターネットプロトコルを最上層から最下層まで明らかにする。さらに、ワイヤレス技術、セキュリティ、およびいくつかの高度なネットワークの話題について紹介する。そのほか、ソケットプログラミングやネットワークツールも紹介し、プロトコルの実践的な知識を深める。</p>                                                                                                                                                                |                                   |         |                              |
| 授業計画                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |                                   |         |                              |
| 第1回：Introduction 導入                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |                                   |         |                              |
| 第2回：Computer Networks and the Internet コンピュータネットワークとインターネット                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                                   |         |                              |
| 第3回：Network Parameters and Layering Architecture ネットワークパラメータとレイヤリングアーキテクチャ                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |                                   |         |                              |

第4回：Application Layer アプリケーション層

第5回：Socket Programming ソケットプログラミング

第6回：Transport Layer トランスポート層

第7回：Transport Layer Congestion Control トランスポート層の輻輳制御

第8回：Network Layer: Data Plane ネットワーク層: データプレーン

第9回：Network Layer: Control Plane ネットワーク層: コントロール プレーン

第10回：Link layer and LANs リンク層とLAN

第11回：Wireless and Mobile Networks (1): Wi-Fi Network ワイヤレス モバイル ネットワーク (1): Wi-Fi ネットワーク

第12回：Wireless and Mobile Networks (2): Cellular Network ワイヤレス モバイル ネットワーク (2): セルラー ネットワーク

第13回：Security in Computer Networks コンピュータ ネットワークのセキュリティ

第14回：Advanced Networking Topics 高度なネットワークのトピック

第15回：Summary 総まとめ

定期試験

テキスト

Lecture materials will be available online.

講義資料はWebに掲載。

参考書・参考資料等

参考書：Computer Networking: A Top-Down Approach 7th edition, James Kurose, Keith Ross (Pearson Publisher), ISBN:0133594149

学生に対する評価

Evaluation will be based on an examination (50%), a report (45%), and regular marks based on class participation and attitude (5%).

試験(50%)、レポート(45%)、授業への参加状況・参加姿勢に基づく平常点(5%)で評価する。

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                                   |             |                              |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------|-------------|------------------------------|
| 授業科目名：<br>情報工学実験IC                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 教員の免許状取得のための<br>必修科目              | 単位数：<br>1単位 | 担当教員名：NGUYEN KIEN<br>担当形態：単独 |
| 科 目                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | 教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）         |             |                              |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 教科に関する専門的事項<br>情報通信ネットワーク（実習を含む。） |             |                              |
| 授業のテーマ及び到達目標<br><br>Understanding communication protocols is essential in the Internet era. This lecture aims to teach communication protocols through experiments. The students will be able to build a small-scale communication system and understand the protocols.<br>インターネット時代には、通信プロトコルの理解が不可欠である。本講義の目的は、実験を通して通信プロトコルを学ことにある。本実験を通じて、小規模な通信システムを構築し、プロトコルを理解することができる。                                                                          |                                   |             |                              |
| 授業の概要<br><br>The students will practice installing UNIX OS for a computer (i.e., host), then connecting hosts and networking devices to form a network. Moreover, they will conduct experiments to understand the meanings and roles of layers 1 to 4 in the TCP/IP layering model.<br>コンピュータ（＝ホスト）にUNIX OSをインストールし、ホストとネットワーク機器を接続してネットワークを形成する実習を行う。また、TCP/IPのレイヤ1～4の意味と役割を理解するための実験も行う。                                                              |                                   |             |                              |
| 授業計画<br><br>Total five experiments, each lasting three lecture periods.<br>1 回当たり 3 時限の実験を 5 回にわたって行う。<br><br>第 1 回：Network 1 (TCP/IP model, Physical layer) ネットワーク 1（TCP/IPモデル、物理層）<br>第 2 回：Network 2 (Link layer, Network layer) ネットワーク 2（リンク層、ネットワーク層）<br>第 3 回：Network 3 (Transport layer) ネットワーク 3（トランスポート層）<br>第 4 回：Network 4 (Building networks) ネットワーク 4（ネットワーク構築）<br>第 5 回：Network 5 (Summary, Report guidance) ネットワーク 5（ネットワーク実験まとめ、レポート指導） |                                   |             |                              |
| テキスト<br><br>The experiment textbook will be distributed.<br>実験テキスト（情報工学コースにて作成）を配布する。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |                                   |             |                              |
| 参考書・参考資料等<br><br>特になし                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |                                   |             |                              |

学生に対する評価

Attendance at all experiments and submission of reports by the due date are prerequisites for earning credits. Evaluation will be based on the attitude (30%) and the content of the reports (70%).

全ての実験に出席し、期限までにレポートを提出することが単位を習得するための前提条件である。評価は、実験態度（30%）とレポート内容（70%）によって行う。



|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |                                   |             |                       |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------|-------------|-----------------------|
| 授業科目名：情報理論                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 教員の免許状取得のための<br>選択科目              | 単位数：<br>2単位 | 担当教員名：須鎗弘樹<br>担当形態：単独 |
| 科 目                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）         |             |                       |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | 教科に関する専門的事項<br>情報通信ネットワーク（実習を含む。） |             |                       |
| 授業の到達目標及びテーマ                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                                   |             |                       |
| 情報源符号化（データ圧縮）と通信路符号化（誤り訂正符号化）を理解することを目的とする。具体的には、受講生が次の事項を関連・系統づけて説明できることを目標にする。情報源符号化（データ圧縮）と通信路符号化（誤り訂正符号化）、様々な情報量、情報源と通信路のモデル、情報源符号化定理、具体的な情報源符号化法、通信路符号化定理、符号の誤り訂正能力、簡単な誤り検出訂正符号（線形符号、ハミング符号）。 観点別の目標は、次の通りである。 ①知識・理解：情報源符号化と通信路符号化の原理について理解できる。 ②思考・判断：限界となるエントロピー・通信路容量の大まかな見積もりができる。 ③関心・意欲：新しい情報源符号化と通信路符号化について、一定の理解できる。 ④態度：限られた時間内に限界の見積もりを計算できる。 ⑤技能・表現：情報源符号化と通信路符号化に関してわかり易く他者に説明できる。 |                                   |             |                       |
| 授業の概要                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                                   |             |                       |
| 情報伝達過程における効率性（データ圧縮）と信頼性（誤り訂正）の限界を定量的に与える、シャノン（創始者の名前）の情報理論について講義する。第4セメスターまでに習った情報数学・確率論が情報科学・情報工学でどのように役立つのかがわかるように講義する。                                                                                                                                                                                                                                                                           |                                   |             |                       |
| 授業計画                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |                                   |             |                       |
| 情報数学・確率論の基礎を修得した後に、情報科学・情報工学の理論的基礎である情報理論について、下記の予定で講義および演習を行う。授業で用いるスライド原稿(pdf)は、授業前日に、下記の授業のホームページからダウンロード・印刷して、授業に持参することが望ましい。教科書とスライド原稿の両方を使って授業を進めるので、それらで予習を十分行っておくことが望まれる。授業中に話したことは、授業に持参したスライド原稿に適時記入していくと良いノートができるはずである。また、理解を確かめる小問を用意しており、スライド原稿に予め記載している。                                                                                                                               |                                   |             |                       |
| 1. 情報理論の歴史的背景・学問的位置づけ                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                                   |             |                       |
| 2. 情報理論で習う情報源符号化と通信路符号化の通信における意味とそれらの具体例                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |                                   |             |                       |
| 3. 情報源符号化を定量的に表すための、エントロピーなどの基本的な情報量の導入                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |                                   |             |                       |

4. 情報源符号化（データ圧縮）を実現する符号化に要請される3つの条件とデータ圧縮の限界を示す情報源符号化定理
5. 情報源符号化（データ圧縮）の基本的かつ具体的な符号化法であるシャノン・ファノ符号化とハフマン符号化
6. 情報源符号化（データ圧縮）のより実際的な符号化法であるランレングス符号化とユニバーサル符号化
7. 情報源符号化のまとめ
8. 通信路符号化（誤り訂正符号化）のための、通信路のモデル・誤りの種類・誤り検出・訂正のための冗長性の利用の導入
9. 通信路符号化（誤り訂正符号化）の定量化のための、符号空間・誤り率
10. 通信路符号化（誤り訂正符号化）の定量化のための、通信路モデルの数学的表現の導入
11. 通信路符号化（誤り訂正符号化）の定量化のための、条件付エントロピー・相互情報量
12. 通信路符号化（誤り訂正符号化）の定量化のための、通信路容量などの情報量の導入
13. 通信路符号化（誤り訂正符号化）の基本的かつ具体的な符号化法（パリティ検査符号・ハミング符号）
14. ハミング符号の誤り検出・訂正方法・符号化と復号化の論理回路
15. 通信路符号化のまとめ

テキスト

マルチメディア時代の情報理論（コロナ社）

参考書・参考資料等

特になし

学生に対する評価

原則として、出席回数11回以上の前提条件のもと、中間試験と期末試験で成績を評価する。前半7回の講義内で中間試験を、後半8回の講義内で期末試験を実施し、その平均（中間試験50%、期末試験50%）が最終的な評価点になる。

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |                                   |             |                         |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------|-------------|-------------------------|
| 授業科目名：符号理論                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 教員の免許状取得のための<br>選択科目              | 単位数：<br>2単位 | 担当教員名：藤原 祐一郎<br>担当形態：単独 |
| 科 目                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校一種 情報）       |             |                         |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 教科に関する専門的事項<br>情報通信ネットワーク（実習を含む。） |             |                         |
| 授業のテーマ及び到達目標<br>Students are expected to learn the fundamentals of coding theory and improve their mathematical maturity. This course is designed to help students acquire the knowledge and skills required for self-teaching more advanced topics in coding theory and reading expository papers on coding theory aimed at students and nonexperts.<br>本授業では符号理論の基礎を講義する。受講生は符号理論の基礎の修得に加え、数学的に成熟することが期される。本講義の受講生は、授業での基礎知識の修得を通し、本講義では扱わない、より高度な符号理論を独習することや、学生や非専門家に向けた符号理論の解説論文から更なる知識を主体的に得ることが可能となることを到達目標にされたい。                                                                                    |                                   |             |                         |
| 授業の概要<br>This course offers an undergraduate-level introduction to coding theory, a mathematical theory of error correction which has found a broad range of applications in various areas including computer science, biology, and electrical engineering. This course showcases many aspects of coding theory and covers the core concepts in coding theory and quintessential applications in science and engineering.<br>符号理論とは、意図しない変化や欠落からデジタル情報を保護する技術の枠組みを与える基礎理論であり、計算機科学から生命科学、電気電子工学に至るまで、様々な応用が発見されてきた数学理論である。本講義では、この広大な符号理論の根幹となる諸概念や、科学や工学における符号理論の典型的応用例の中から、学部入門水準のものを幅広く取り上げる。            |                                   |             |                         |
| 授業計画<br>The basics of linear algebra, discrete mathematics, and probability theory will be reviewed in the first weeks. The topics in coding theory include bounds on the parameters of error-correcting codes, syndrome decoding of linear codes, and connections to discrete mathematics. Advanced material may vary depending on students' interest.<br>本講義は線形代数学、離散数学、確率論それぞれの基礎を復習することから始まる。本講義で学修する基礎的符号理論の内容例としては、誤り訂正符号についてのパラメータ限界、線形符号のシンδροーム復号、離散数学との繋がりが挙げられる。講義内で取り上げる発展的内容については受講生の興味に応じる。<br>第1回：What is coding theory? A mathematical theory of error correction<br>符号理論の背景と誤り訂正理論としての生い立ち |                                   |             |                         |

|                                                                                                                                             |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第 2 回 : Review of mathematics for coding theory: discrete mathematics and linear algebra<br>符号理論における離散数学と線形代数学                              |
| 第 3 回 : Review of mathematics for coding theory: linear algebra and probability theory<br>符号理論における線形代数学と確率論                                 |
| 第 4 回 : Mathematical models of noisy channels and codes for suppressing noise<br>通信路の数理, 雑音制御と符号                                            |
| 第 5 回 : Fundamental bounds for codes: Necessary conditions<br>符号の基本的理論限界: 達成不可能性                                                            |
| 第 6 回 : Fundamental bounds for codes: Sufficient conditions<br>符号の基本的理論限界: 達成可能性                                                            |
| 第 7 回 : Coding theory as extremal set theory and linear algebra<br>極値集合論としての符号理論, 線形代数学としての符号理論                                             |
| 第 8 回 : Syndrome decoding of linear codes<br>線形符号のシンδροーム復号                                                                                 |
| 第 9 回 : Neural networks and coding theory: bit error rate<br>ニューラルネットワークと符号理論: ビット誤り率                                                       |
| 第 10 回 : Artificial intelligence and coding theory: block error rate<br>人工知能と符号理論: ブロック誤り率                                                  |
| 第 11 回 : Coding theory for pseudorandomness<br>擬似的無作為性のための符号理論                                                                              |
| 第 12 回 : Coding theory for algorithms: derandomization and parallelization<br>アルゴリズムのための符号理論: 脱乱択化と並列化                                      |
| 第 13 回 : Coding theory in bioinformatics: group testing<br>生命情報科学における符号理論: グループテスト                                                          |
| 第 14 回 : Coding theory in bioinformatics and electrical and electronics engineering:<br>self-synchronization<br>生命情報科学と電気電子工学における符号理論: 自己同期 |
| 第 15 回 : Summary and concluding remarks<br>符号理論の基礎 総まとめ                                                                                     |
| Final exam<br>定期試験                                                                                                                          |
| テキスト<br>The Theory of Error-Correcting Codes<br>(MacWilliams and Sloane 著, Elsevier North Holland)                                          |
| 参考書・参考資料等                                                                                                                                   |

|                |
|----------------|
| 授業中に適宜資料を配布する. |
| 学生に対する評価       |
| 定期試験 (100%)    |

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |                                            |          |                       |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------|----------|-----------------------|
| 授業科目名：マルチメディア工学入門                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 教員の免許状取得のための必修科目                           | 単位数：2 単位 | 担当教員名：眞鍋佳嗣<br>担当形態：単独 |
| 科 目                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）                  |          |                       |
| 施行規則に定める科目区分又は事項等                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 教科に関する専門的事項<br>マルチメディア表現・マルチメディア技術（実習を含む。） |          |                       |
| 授業のテーマ及び到達目標                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |                                            |          |                       |
| 本科目の学習目標は、昨今の情報処理技術において、基本的かつ有用であるマルチメディア工学の基礎理論を受講生が理解し、処理プログラムを構築できるようになることである。特に、画像や音声信号は数学的な枠組みで表現され、解析的に解かれることが多く、それらの理解を目指す。具体的な達成目標は以下のとおりである。(1) デジタル画像・音声などの情報メディアを理解し、特にマルチメディア信号の入出力方法を理解できる。(2) 2 値画像、カラー画像、分光画像の違いと、それらの特性を理解できる。(3) 画像空間および周波数空間における簡易な画像処理を理解し、計算機シミュレーションで実現できる。(4) 画像の直交変換符号化を理解できる。(5) 3 次元画像や動画像への考え方を展開できる。なお、試験前には習得内容を振り返り、達成目標に到達しているかを確認することが望ましい。 |                                            |          |                       |
| 授業の概要                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |                                            |          |                       |
| 情報画像システムの設計、コンピュータビジョン、コンピュータグラフィックスに必要なマルチメディア技術のうち、デジタル画像および音声に関する基礎的事項について、特にカラー画像の変換を中心に講述する。                                                                                                                                                                                                                                                                                          |                                            |          |                       |
| 授業計画                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |                                            |          |                       |
| 第 1 回：マルチメディア総論                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |                                            |          |                       |
| 第 2 回：画像・音声の入出力                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |                                            |          |                       |
| 第 3 回：音声信号・画像信号と周波数                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |                                            |          |                       |
| 第 4 回：色の表現                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |                                            |          |                       |
| 第 5 回：画像・音声のデジタル表現                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                                            |          |                       |
| 第 6 回：カラー画像                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                                            |          |                       |
| 第 7 回：画像・音声の変換符号化　～DFT, DCT～                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |                                            |          |                       |
| 第 8 回：画像の変換符号化                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |                                            |          |                       |
| 第 9 回：画像処理                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |                                            |          |                       |
| 第 1 0 回：3 次元画像処理                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |                                            |          |                       |
| 第 1 1 回：動画像処理                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |                                            |          |                       |
| 第 1 2 回：画像認識                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |                                            |          |                       |
| 第 1 3 回：画像・音声シミュレーション                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |                                            |          |                       |
| 第 1 4 回：VR／AR 技術                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |                                            |          |                       |
| 第 1 5 回：全体のまとめ                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |                                            |          |                       |
| 定期試験                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |                                            |          |                       |

|                                          |
|------------------------------------------|
| テキスト<br>適宜資料を配布する                        |
| 参考書・参考資料等<br>特になし                        |
| 学生に対する評価<br>レポート（３０％）と期末試験（７０％）によって評価する。 |

|                                                                                                                                                                               |                                             |             |                       |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------|-------------|-----------------------|
| 授業科目名：<br>情報工学実験IB                                                                                                                                                            | 教員の免許状取得のための<br>必修科目                        | 単位数：<br>1単位 | 担当教員名：矢田紀子<br>担当形態：単独 |
| 科 目                                                                                                                                                                           | 教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）                   |             |                       |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等                                                                                                                                                         | 教科に関する専門的事項<br>・マルチメディア表現・マルチメディア技術（実習を含む。） |             |                       |
| 授業のテーマ及び到達目標<br>本実験は、4年次で行なう卒業研究のための基本となるように計画されている。本実験では、学生が与えられた実験をこなすだけでなく、自ら問題を見つけ、それを解決する能力を養うことを目的とする。具体的には、実験前に予習を行い、注意深く実験をして考察を行い、レポートとして期限までにまとめあげることが達成目標とする。      |                                             |             |                       |
| 授業の概要<br>本実験ではデジタル画像をコンピュータ内部で処理・加工する実習を行う。画像入出力、画像合成、画質評価、画質改善法に関する技術を習得する。                                                                                                  |                                             |             |                       |
| 授業計画<br>1 回当たり 3 時限の実験を 5 回にわたって行う。<br><br>第 1 回：画像処理 1（画像の入出力）<br>第 2 回：画像処理 2（クロマキー合成処理）<br>第 3 回：画像処理 3（画質評価）<br>第 4 回：画像処理 4（画像フィルタリング）<br>第 5 回：画像処理 5（画像処理実験まとめ、レポート指導） |                                             |             |                       |
| テキスト<br>実験テキスト（情報・データサイエンス学科にて作成）を配布する。                                                                                                                                       |                                             |             |                       |
| 参考書・参考資料等<br>特になし                                                                                                                                                             |                                             |             |                       |
| 学生に対する評価<br>全ての実験に出席し、期限までにレポートを提出することが単位を習得するための前提条件である。1つの課題でも期限までにレポート提出できない場合には、単位は認められない。評価は、実験態度（20％）とレポート内容（80％）によって行う。                                                |                                             |             |                       |



|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |                                            |             |                       |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------|-------------|-----------------------|
| 授業科目名：コンピュータグラフィックス                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 教員の免許状取得のための<br>選択科目                       | 単位数：<br>2単位 | 担当教員名：久保尋之<br>担当形態：単独 |
| 科 目                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）                  |             |                       |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 教科に関する専門的事項<br>マルチメディア表現・マルチメディア技術（実習を含む。） |             |                       |
| 授業のテーマ及び到達目標                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |                                            |             |                       |
| 本科目の到達目標は、昨今の情報処理技術において有用であるコンピュータグラフィックスの基礎理論を受講生が理解し、簡単な処理プログラムを構築できるようになることである。具体的な達成目標は、以下の通りである。(1)モデリングとレンダリングの考え方を理解できる。(2)フォトリアリスティックレンダリングやイメージベーストレンダリングなどのレンダリング技術について、それらの特性を理解できる。(3)簡易なコンピュータグラフィックス技術を理解し、計算機で実現できる。(4)身の回りの物体のコンピュータグラフィックス表現へ考え方を展開できる。なお、試験前には習得内容を振り返り、達成目標に到達しているかを確認することが望ましい。 |                                            |             |                       |
| 授業の概要                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |                                            |             |                       |
| 映像再現として有用なコンピュータグラフィックスに関する基礎的事項について、ジオメトリベースとイメージベーストの双方の技術を講述する。また、実習によって、実応用の一端に触れる。                                                                                                                                                                                                                             |                                            |             |                       |
| 授業計画                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                                            |             |                       |
| 第1回：コンピュータグラフィックスの歴史と基礎                                                                                                                                                                                                                                                                                             |                                            |             |                       |
| 第2回：2次元図形、ポリゴンの表現                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |                                            |             |                       |
| 第3回：カメラモデル、座標系と座標変換                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |                                            |             |                       |
| 第4回：イベントドリブンプログラミング                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |                                            |             |                       |
| 第5回：透視投影変換、ウィンドウ変換                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |                                            |             |                       |
| 第6回：隠面消去法、Zバッファ法                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                                            |             |                       |
| 第7回：物理ベースアニメーション                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                                            |             |                       |
| 第8回：モデリング                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |                                            |             |                       |
| 第9回：シェーディング・ライティング                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |                                            |             |                       |
| 第10回：2次元画像、HDR                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |                                            |             |                       |
| 第11回：テクスチャマッピング                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |                                            |             |                       |
| 第12回：リアルタイムシェーダ言語                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |                                            |             |                       |
| 第13回：拡散反射モデルと鏡面反射モデル、BRDF                                                                                                                                                                                                                                                                                           |                                            |             |                       |
| 第14回：イメージベーストレンダリング                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |                                            |             |                       |
| 第15回：全体のまとめ                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                                            |             |                       |
| 定期試験                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                                            |             |                       |

テキスト

ビジュアル情報処理 -CG・画像処理入門- [改訂新版]、公益財団法人画像情報教育振興協会（CG-ARTS協会）

参考書・参考資料等

倉持紀子著、CG Magic：レンダリング、オーム社

学生に対する評価

実習レポート（50％）と期末試験（50％）によって評価する。期末試験において不正行為が発覚した場合には不可とする。

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |                                            |             |                       |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------|-------------|-----------------------|
| 授業科目名：<br>デジタル画像処理                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | 教員の免許状取得のための<br>選択科目                       | 単位数：<br>2単位 | 担当教員名：堀内隆彦<br>担当形態：単独 |
| 科 目                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | 教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）                  |             |                       |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 教科に関する専門的事項<br>マルチメディア表現・マルチメディア技術（実習を含む。） |             |                       |
| 授業のテーマ及び到達目標                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |                                            |             |                       |
| 本科目の学習目標は、昨今の情報処理技術において、基本的かつ有用であるデジタル画像処理の基礎理論を受講生が理解し、処理プログラムを構築できるようになることである。特に、他講義で学ぶデータドリブンな方法ではなく、数学的な枠組みで解析的に解くことができる方法を取り上げる。具体的な達成目標は以下のとおりである。(1) デジタル画像が扱われる情報メディアを理解し、それらの入出力方法を理解できる。(2) 2値画像、カラー画像、分光画像の違いと、それらの特性を理解できる。(3) 画像空間および周波数空間における簡易な画像処理を理解し、計算機シミュレーションで実現できる。(4) 画像の直交変換符号化を理解できる。(5) 3次元画像や動画像への考え方を展開できる。(6) 画像認識の基礎理論を理解できる。なお、試験前には習得内容を振り返り、達成目標に到達しているかを確認することが望ましい。 |                                            |             |                       |
| 授業の概要                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |                                            |             |                       |
| 情報画像システムの設計、コンピュータビジョン、機械学習、コンピュータグラフィックスに必要なデジタル技術のうち、デジタル画像に関する基礎的事項について、特にカラー画像の変換を中心に講述する。                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                                            |             |                       |
| 授業計画                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |                                            |             |                       |
| 第1回：情報メディア総論                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |                                            |             |                       |
| 第2回：画像の入出力                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |                                            |             |                       |
| 第3回：画像空間と周波数空間                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                                            |             |                       |
| 第4回：分光画像とカラー画像                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                                            |             |                       |
| 第5回：デジタルハーフトーニング                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |                                            |             |                       |
| 第6回：画像の変換符号化                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |                                            |             |                       |
| 第7回：画像の変換符号化実習                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                                            |             |                       |
| 第8回：画質改善                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |                                            |             |                       |
| 第9回：2値画像処理                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |                                            |             |                       |
| 第10回：特徴抽出                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |                                            |             |                       |
| 第11回：3次元画像処理                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |                                            |             |                       |
| 第12回：動画像処理                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |                                            |             |                       |
| 第13回：画像認識                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |                                            |             |                       |
| 第14回：画像処理実習                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |                                            |             |                       |
| 第15回：全体のまとめ                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |                                            |             |                       |

|                                                                     |
|---------------------------------------------------------------------|
| 定期試験                                                                |
| テキスト<br>適宜資料を配布する。                                                  |
| 参考書・参考資料等<br>田村秀行、斎藤英雄：「コンピュータ画像処理（改訂2版）」、オーム社                      |
| 学生に対する評価<br>レポート（50％）と期末試験（50％）によって評価する。期末試験において不正行為が発覚した場合には不可とする。 |

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                           |             |                       |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------|-------------|-----------------------|
| 授業科目名：<br>情報と職業                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | 教員の免許状取得のための<br>必修科目      | 単位数：<br>2単位 | 担当教員名：黒岩眞吾<br>担当形態：単独 |
| 科 目                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | 教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報） |             |                       |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 教科に関する専門的事項<br>情報と職業      |             |                       |
| 授業のテーマ及び到達目標<br>授業のテーマ：<br>情報と職業についての関わり、情報分野に関する職業人としてのあり方等を理解する。<br>到達目標：<br>就職活動や進学を考える時期の受講者が、AI時代において「人が働く意味」を自身で考え各自の働くことの意義を確立するとともに、情報技術者の様々な働き方を理解した上で、それらを他者に説明できることを到達目標とする。                                                                                                                                                                                                            |                           |             |                       |
| 授業の概要<br>情報分野に産業界で活躍される研究者・技術者を講師として招き、ご講演いただく。さまざまな情報分野の進展、職業倫理を含む職業観等についてご教授いただくことにより、情報と職業についての関わり、情報分野に関する職業人としてのあり方等を理解する。また、講義を通じ学んだことを活かし、情報化による労働環境のこれまでの変化や、人工知能の発展に伴い今後どのような労働環境の変化が起こっていくかを、イノベーション対話の手法を用い議論・考察をすることで、情報技術の発展に伴い変化していく人々の生き方・働き方を考える力及び伝える力を身につける。                                                                                                                     |                           |             |                       |
| 授業計画<br>情報分野に関して産業界で活躍している研究者・技術者を毎週交代で講師として招き、講演する（第3回～第12回）。実際の順番は講師の都合により異なる。<br>第1回：職業倫理、知的財産権<br>第2回：情報通信業界の俯瞰、情報通信分野の仕事と必要なスキル<br>第3回：ソフトウェア工学分野で活躍される研究者・技術者が当該分野の進展、職業観等について講演する。<br>第4回：データベース分野で活躍される研究者・技術者が当該分野の進展、職業観等について講演する。<br>第5回：人工知能分野で活躍される研究者・技術者が当該分野の進展、職業観等について講演する。<br>第6回：画像処理分野で活躍される研究者・技術者が当該分野の進展、職業観等について講演する。<br>第7回：音声・信号処理分野で活躍される研究者・技術者が当該分野の進展、職業観等について講演する。 |                           |             |                       |

第8回：情報通信ネットワーク分野で活躍される研究者・技術者が当該分野の進展、職業観等について講演する。

第9回 情報セキュリティ分野で活躍される研究者・技術者が当該分野の進展、職業観等について講演する。

第10回 情報理論分野で活躍される研究者・技術者が当該分野の進展、職業観等について講演する。

第11回 情報システム設計・管理分野で活躍される研究者・技術者が当該分野の進展、職業観等について講演する。

第12回 計算機ハードウェア分野で活躍される研究者・技術者が当該分野の進展、職業観等について講演する。

第13回 情報化によるこれまでの労働環境の変化及び人工知能の発展に伴う近未来の労働環境の変化に関する対話型実習（１）：調査・議論

第14回 情報化によるこれまでの労働環境の変化及び人工知能の発展に伴う近未来の労働環境の変化に関する対話型実習（２）：プレゼンテーション資料の作成

第15回 情報化によるこれまでの労働環境の変化及び人工知能の発展に伴う近未来の労働環境の変化に関する対話型実習（３）：プレゼンテーション及び討論

テキスト

特になし（講演のスライドをPDFで配布）

参考書・参考資料等

『情報と職業（改訂2版）』駒谷 昇一・他，オーム社（2015）

「イノベーション対話ツール」の開発について（文部科学省） [http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shinkou/sangaku/1347910.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shinkou/sangaku/1347910.htm)

学生に対する評価

第2回～第12回の講義の最後の10分を利用して、講演内容をレポートにまとめて提出する共に、次週までを期限に当該分野における新事業の提案をレポートとして作成し提出する。また、第13回～第15回で実施した対話に基づく資料を提出する。授業への参加状況・参加姿勢に基づく平常点（20%）とレポート点（80%）により評価する。

|                                                                                                                                                                                                                                                                               |                        |      |            |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------|------|------------|
| 授業科目名：                                                                                                                                                                                                                                                                        | 教員の免許状取得のための           | 単位数： | 担当教員名：辰己丈夫 |
| 情報科教育法Ⅰ                                                                                                                                                                                                                                                                       | 必修科目                   | 2 単位 | 担当形態：単独    |
| 科 目                                                                                                                                                                                                                                                                           | 教科及び教科の指導法に関する科目       |      |            |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等                                                                                                                                                                                                                                                         | 各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。） |      |            |
| 授業のテーマ及び到達目標                                                                                                                                                                                                                                                                  |                        |      |            |
| 高等学校の教科「情報」（共通教科、専門教科の両方）の授業を、教員として継続的に担当できるようになることを、この授業の目標とします。                                                                                                                                                                                                             |                        |      |            |
| 高等学校の教科「情報」の教育について概説し、教員として必要な項目を学修することを目標とする。まず、なぜ高等学校に「情報教育」が導入されるようになったのかについて、技術の進歩や、社会環境の変化などを取り上げながら、文部省指導要領解説などを用いて説明する。また、授業実施時に工夫が必要な箇所について説明する。授業中には、インターネットを用いた情報検索による先験的事例の調査を行い、各自の考えをレビューするとともに、学習指導案の作成・レビュー、模擬授業も行う。さらに、中学校や大学での教育内容との関連についても取り上げ、連携に必要な知識を学ぶ。 |                        |      |            |
| 授業計画                                                                                                                                                                                                                                                                          |                        |      |            |
| 第1回：情報教育とはなにか。「教育の情報化」との違い。高等学校における教科化の経緯：高等学校における情報科の成立の経緯や、その目的の歴史的な変遷について述べる。また、現在の高校の情報教育の現場の状況について、認識をアップデート（更新）する。                                                                                                                                                      |                        |      |            |
| 第2回：共通教科「情報」と 専門教科「情報」の内容について：共通教科「情報」の内容について、科目「情報Ⅰ」「情報Ⅱ」のそれぞれについて述べる。また、専門教科「情報」の位置づけや、中学校との接続、高大接続についても議論を行う。                                                                                                                                                              |                        |      |            |
| 第3回：学習指導案とは何か。情報科の学習指導案について：共通必修履修科目「情報Ⅰ」の設置の目的、学習目標、その意義、効果について議論を行う。その後、学習指導案について概略を述べる。                                                                                                                                                                                    |                        |      |            |
| 第4回：「情報Ⅰ」の内容に応じた学習指導案のレビュー（プログラミング その1）：プログラミングの指導案について提出を受け、レビューをしながら適切な学習指導案の作成の能力を養う。アルゴリズム、モデル化とシミュレーションについても議論する。                                                                                                                                                        |                        |      |            |
| 第5回：「情報Ⅰ」の内容に応じた学習指導案のレビュー（プログラミング その2）：プログラミングの指導案について提出を受け、2回目のレビューをしながら適切な学習指導案の作成の能力を養う。各種プログラミング言語の授業実施上の違いについても紹介する。                                                                                                                                                    |                        |      |            |
| 第6回：「情報Ⅰ」の内容に応じた学習指導案のレビュー（データの分析 その1）：データの分析の指導案について提出を受け、レビューをしながら適切な学習指導案の作成の能力を養う。統計的な考え方、尺度、相関、データベースについても議論する。                                                                                                                                                          |                        |      |            |
| 第7回：「情報Ⅰ」の内容に応じた学習指導案のレビュー（データの分析 その2）：データの分                                                                                                                                                                                                                                  |                        |      |            |

析の指導案について提出を受け、2回目のレビューをしながら適切な学習指導案の作成の能力を養う。

第8回：「情報I」の内容に応じた学習指導案のレビュー（情報デザイン その1）：情報デザインの指導案について提出を受け、レビューをしながら適切な学習指導案の作成の能力を養う。メディアリテラシー、情報倫理・情報モラルについても議論する。

第9回：「情報I」の内容に応じた学習指導案のレビュー（情報デザイン その2）：情報デザインの指導案について提出を受け、2回目のレビューをしながら適切な学習指導案の作成の能力を養う。

第10回：「情報I」の内容に応じた学習指導案のレビュー（情報ネットワーク その1）：情報ネットワークの指導案について提出を受け、レビューをしながら適切な学習指導案の作成の能力を養う。情報システム・Webシステムについても議論する。

第11回：「情報I」の内容に応じた学習指導案のレビュー（情報ネットワーク その2）：情報ネットワークの指導案について提出を受け、2回目のレビューをしながら適切な学習指導案の作成の能力を養う。

第12回：テスト問題による生徒評価、テスト問題案の作成（その1）：生徒評価に必要なテスト問題の作成について議論を行う。

第13回：テスト問題案のレビュー（その1）：テスト問題案のレビューを行い、テスト問題の作成能力を養う。特に、定期試験問題や、授業中の評価について議論する。

第14回：テスト問題案のレビュー（その2）：テスト問題案の2回目のレビューを行い、テスト問題の作成能力を養う。

第15回：情報科の教員としてあり続けるために：情報科の教員としての資質・能力を保つために、社会教育（成人教育）の立場で議論する。

#### テキスト

(1) 情報科教育法(改訂3版) 久野 靖 / 辰己 丈夫 監修 オーム社

定価2,640円(税込) 2016年8月 ISBN978-4-274-21920-7

(2) 「情報I」 (116 日文 情I 710) 文部科学省検定済教科書 高等学校情報科

黒上春夫、堀田龍也、村井純・編、日本文教出版（定価は文部科学省が公示した価格）

#### 参考書・参考資料等

・文部科学省ウェブサイト 高等学校学習指導要領、同解説

#### 学生に対する評価

授業では、課題が出されます。各自で教科書や文部科学省のウェブサイト、各教育センターのサイトなどを見て、課題を達成することが求められます。ほぼ毎回、授業中に課題を発表するので、期限までに成果物を提出してください。その出来を判断して成績を付けます。提出物を授業中にレビューをしながら、フィードバックを行う。

レポート（20%）、学習指導案（30%）、模擬授業（10%）、プレゼンテーション（20%）、筆記試験（0%）、各作業への貢献（20%）を総合して評定する。



|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                        |             |                                |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------|-------------|--------------------------------|
| 授業科目名：<br>情報科教育法Ⅱ                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 教員の免許状取得のための<br>必修科目   | 単位数：<br>2単位 | 担当教員名：<br>大橋 真也<br>担当形態：<br>単独 |
| 科 目                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | 教科及び教科の指導法に関する科目       |             |                                |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。） |             |                                |
| 授業のテーマ及び到達目標<br>高等学校の教科「情報」（共通教科、専門教科の両方）の授業を、教員として継続的に担当できるようになることを、この授業の目標とします。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |                        |             |                                |
| 授業の概要<br>教科「情報」で必要とされる情報倫理（モラル）やメディア・リテラシー、情報デザイン、プログラミングの教育法、データサイエンスの教育法、カリキュラム・マネジメントを意識した他教科との連携、生徒評価（特に観点別評価）、授業評価と自己点検などについても取り上げます。<br>また、授業を実施するコンピューターームの設計、校内ネットワークの運用や、生徒が授業・実習でコンピュータを使う際の管理・運用の方針について、実際のPCの設定やネットワーク構築に関する知識を学びます。<br>さらに、指導と評価の一体化を意識した授業プランの立て方や評価の方法についての理解を学習指導案の作成や模擬授業を通して深めます。                                                                                                                            |                        |             |                                |
| 授業計画<br>第 1回：情報科教員の現状と課題<br>第 2回：高等学校学習指導要領とその内容<br>第 3回：カリキュラム・マネジメントの考え方<br>第 4回：教科書と教材<br>第 5回：メディアリテラシーとその考え方<br>第 6回：情報モラルとその指導法<br>第 7回：情報デザインとその実習<br>第 8回：プログラミングとその考え方<br>第 9回：データサイエンスの活用と実習<br>第10回：指導と評価の一体化<br>第11回：学習指導案の書き方<br>第12回：模擬授業の実施<br>第13回：授業評価・自己点検の方法<br>第14回：学校における情報機器やネットワークの運用・活用<br>第15回：まとめとこれからの情報教育<br>定期試験<br>なお、すべての講義で「インターネットを用いたオンライン学習，コラボレーションツールを用いたグループワーク実習等、新しい授業手法，インターネットを用いた先進的な授業例」などの実習をします。 |                        |             |                                |

テキスト

参考書・参考資料等

高等学校学習指導要領解説情報編，文部科学省，開隆堂，2019

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料，国立教育政策研究所，2021

高等学校情報科「情報Ⅰ」教員研修用教材，文部科学省

高等学校情報科「情報Ⅱ」教員研修用教材，文部科学省

学生に対する評価

レポート（40％）、学習指導案（10％）、模擬授業（20％）、筆記試験（20％）、各作業への貢献（10％）を総合して評定する。

シラバス：教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目

|                                                                                                                            |                         |             |                             |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------|-------------|-----------------------------|
| 授業科目名：憲法                                                                                                                   | 教員の免許状取得のための<br>必修科目    | 単位数：<br>2単位 | 担当教員名：齊藤 愛<br>担当形態：クラス分け・単独 |
| 科 目                                                                                                                        | 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目 |             |                             |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項                                                                                                       | 日本国憲法                   |             |                             |
| 授業のテーマ及び到達目標                                                                                                               |                         |             |                             |
| 本講義の到達目標は、①憲法とはどのような法なのかを知ること、②「個人の尊重」という考え方について学ぶこと、③日本国憲法の基調をなす重要な原則について理解を深めること、④人権・統治に関する基礎的な知識を身につけることにあります。          |                         |             |                             |
| 授業の概要                                                                                                                      |                         |             |                             |
| 初学者を対象に、主として、日本国憲法の基本原理を講義します。具体的には、日本国憲法の核心原理である「個人の尊厳」や、そこから導き出される重要な原則（国民主権、基本的人権の尊重、平和主義）について解説し、その上で、人権概論・統治概論を講義します。 |                         |             |                             |
| 授業計画                                                                                                                       |                         |             |                             |
| 第1回 憲法総論（憲法とは何か・人権思想・「個人の尊重」）                                                                                              |                         |             |                             |
| 第2回 日本国憲法の制定過程                                                                                                             |                         |             |                             |
| 第3回 9条（平和主義）                                                                                                               |                         |             |                             |
| 第4回 13条（幸福追求権・自己決定権その他）                                                                                                    |                         |             |                             |
| 第5回 13条（自己情報コントロール権）                                                                                                       |                         |             |                             |
| 第6回 14条（平等に関する学説）                                                                                                          |                         |             |                             |
| 第7回 14条（平等に関する判例）                                                                                                          |                         |             |                             |
| 第8回 19条（思想・良心の自由）                                                                                                          |                         |             |                             |
| 第9回 20条（信教の自由）                                                                                                             |                         |             |                             |
| 第10回 21条（二重の基準論）                                                                                                           |                         |             |                             |
| 第11回 21条（マスメディアの表現の自由）                                                                                                     |                         |             |                             |
| 第12回 22条（職業選択の自由）・23条（学問の自由）                                                                                               |                         |             |                             |
| 第13回 日本国憲法と大日本帝国憲法                                                                                                         |                         |             |                             |
| 第14回 国民主権と議院内閣制                                                                                                            |                         |             |                             |
| 第15回 学期末試験                                                                                                                 |                         |             |                             |
| 第16回 統治規定・総括                                                                                                               |                         |             |                             |
| テキスト                                                                                                                       |                         |             |                             |
| 長谷部恭男『憲法（第8版）』[新世社]                                                                                                        |                         |             |                             |
| 長谷部恭男ら編『憲法判例百選Ⅰ（第7版）』[有斐閣]                                                                                                 |                         |             |                             |
| 参考書・参考資料等                                                                                                                  |                         |             |                             |
| 齊藤愛『異質性社会における『個人の尊重』』[弘文堂]                                                                                                 |                         |             |                             |
| 安西文雄ら『憲法学の現代的論点』[有斐閣]2006年                                                                                                 |                         |             |                             |
| 長谷部恭男『憲法と平和を問いなおす』[筑摩書房（新書）]                                                                                               |                         |             |                             |
| 学生に対する評価                                                                                                                   |                         |             |                             |
| 定期試験（100％）により成績をつけます。講義内容に対する理解度、文章構成などを総合的に評価します。                                                                         |                         |             |                             |

シラバス：教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目

|                                                                                                                                                         |                         |             |                              |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------|-------------|------------------------------|
| 授業科目名：憲法                                                                                                                                                | 教員の免許状取得のための<br>必修科目    | 単位数：<br>2単位 | 担当教員名：手塚 崇聡<br>担当形態：クラス分け・単独 |
| 科 目                                                                                                                                                     | 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目 |             |                              |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項                                                                                                                                    | 日本国憲法                   |             |                              |
| 授業のテーマ及び到達目標                                                                                                                                            |                         |             |                              |
| この授業では、①憲法の意義を理解し、説明することができること、②人権の理念と意義を理解し、説明することができること、③日本国憲法が保障する人権の意義と限界をそれぞれ理解し、説明することができること、④日本国憲法に規定される統治構造について理解し、説明することができることを目標とします。         |                         |             |                              |
| 授業の概要                                                                                                                                                   |                         |             |                              |
| 日本国憲法とは人権を保障するために、国家権力を抑制するための法とされています。この授業は、日本国憲法における人権規定の意味と国（政府）の仕組み（統治機構）について、学説や裁判例を参照しながら、その内容を解説します。また最近の人権問題を扱いながら、国会、裁判所、行政の役割（憲法価値の実現）を解説します。 |                         |             |                              |
| 授業計画                                                                                                                                                    |                         |             |                              |
| 第1回 本授業の方針および憲法学の基本構造（授業の方針の説明、憲法の存在意義やその基本的な構造                                                                                                         |                         |             |                              |
| 第2回 基本的人権総論①（人権概念の誕生と発展の歴史、憲法上保障される人権とは何か）                                                                                                              |                         |             |                              |
| 第3回 基本的人権総論②（人権保障の適用範囲と限界、人権の主体）                                                                                                                        |                         |             |                              |
| 第4回 包括的な人権、憲法と国際法（幸福追求権とは何か、自己決定権、プライバシー権、人権の国際的保障）                                                                                                     |                         |             |                              |
| 第5回 法の下での平等（平等の意味、射程、限界、現代的発展）                                                                                                                          |                         |             |                              |
| 第6回 精神的自由権①（思想・良心の自由の意義と限界、信教の自由の意義と限界、政教分離）                                                                                                            |                         |             |                              |
| 第7回 精神的自由権②（表現の自由の意義と限界、集会・結社の自由の意義と限界、学問の自由の意義と限界）                                                                                                     |                         |             |                              |
| 第8回 経済的自由権（職業選択の自由の意義と限界、居住移転の自由の意義と限界、財産権の意義と限界）                                                                                                       |                         |             |                              |
| 第9回 社会権（生存権の意義と限界、教育を受ける権利の意義と限界、労働基本権の意義と限界）                                                                                                           |                         |             |                              |
| 第10回 刑事手続上の権利（令状主義、不利益供述の禁止、死刑）                                                                                                                         |                         |             |                              |
| 第11回 平和主義（安全保障制度、国際平和協力活動の限界、近年の問題）                                                                                                                     |                         |             |                              |
| 第12回 国民主権と象徴天皇制（国民主権の意味、象徴天皇の地位と権能、皇室、近年の問題）                                                                                                            |                         |             |                              |
| 第13回 立法（権力分立、国会の地位と構造、国会の権能、解散、議員定数不均衡）                                                                                                                 |                         |             |                              |
| 第14回 行政（議院内閣制、組織、内閣の権限、内閣総理大臣の権限）                                                                                                                       |                         |             |                              |
| 第15回 司法（司法権の意義、組織・構成、司法権の独立、違憲審査制、審査基準、司法権の限界）                                                                                                          |                         |             |                              |
| テキスト                                                                                                                                                    |                         |             |                              |
| 駒村圭吾編『プレステップ憲法 <第3版>』（弘文堂、2021年）                                                                                                                        |                         |             |                              |

シラバス：教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目

|            |
|------------|
| 参考書・参考資料等  |
| なし         |
| 学生に対する評価   |
| レポート（100%） |

シラバス：教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |                              |              |                                  |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------|--------------|----------------------------------|
| 授業科目名：<br>からだと動き                                                                                                                                                                                                                                                                                     | 教員の免許状取得のための<br>選択科目         | 単位数：<br>1 単位 | 担当教員名：杉山英人、岩井幸博<br>担当形態：クラス分け・単独 |
| 科 目                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目 |              |                                  |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 体育                           |              |                                  |
| 授業の到達目標及びテーマ                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                              |              |                                  |
| この授業では基本的な動きとは何かを理解し、様々な運動やスポーツ種目を通して基本的な動きを経験することで動けるからだを身につけることを目標にします。                                                                                                                                                                                                                            |                              |              |                                  |
| 【目標】                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |                              |              |                                  |
| ・ 基本的な動きを身につけ、動きを組み合わせることができる。                                                                                                                                                                                                                                                                       |                              |              |                                  |
| ・ 他者の動きや感覚に共感し、コミュニケーションをとることができる。                                                                                                                                                                                                                                                                   |                              |              |                                  |
| ・ 運動やスポーツを楽しみ、実践する場を自ら作り出すことができる。                                                                                                                                                                                                                                                                    |                              |              |                                  |
| 授業の概要                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                              |              |                                  |
| 運動やスポーツは人間の基本的な動きである、歩く、走る、跳ぶ、投げる、捕る、打つ、蹴るなどの組み合わせで成り立っています。この基本的な動きを様々な運動やスポーツ種目を通じて改めて経験し、自己のからだを自在に動かせる基礎を身につける授業を行います。また、他者との関わりの中で自己だけでなく他者のからだと動きにも気づき、お互いを高め合うことができる場を作りたいと思います。                                                                                                              |                              |              |                                  |
| 具体的には運動遊びなどを通して、他者とコミュニケーションを図りながら身体を動かします。基本的な動きである、歩く、走る、跳ぶ、投げる、打つ、捕る、蹴るなどを含む運動遊びやスポーツ種目を実践します。取り入れる運動遊びやスポーツ種目は受講者の経験や授業の進行状況に応じて適宜内容を組み立てます。歩く、走るなどの動きは鬼ごっこ系の遊び、走る、跳ぶなどの動きはなわとびや障害物を跳び越える遊び、投げる、捕る、打つ、蹴るなどの動きは球技系のスポーツや、その他の用具などを工夫して経験します。運動やスポーツが苦手な方でも取り組みやすいように易しい動きから難しい動きへと順序立てて経験してもらいます。 |                              |              |                                  |
| 授業計画                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |                              |              |                                  |
| 第 1 回：ガイダンス                                                                                                                                                                                                                                                                                          |                              |              |                                  |
| 第 2 回：歩く・走る動作① 自己紹介ゲーム（歩く・走る・止まる）                                                                                                                                                                                                                                                                    |                              |              |                                  |
| 第 3 回：歩く・走る動作② 落とさない遊び（歩く・走る・打つ・投げる・捕る）                                                                                                                                                                                                                                                              |                              |              |                                  |
| 第 4 回：歩く・走る動作③ バランス系の遊び（バランスをとって歩く）スラックラインなど                                                                                                                                                                                                                                                         |                              |              |                                  |
| 第 5 回：走る・跳ぶ・投げる・捕る① 長なわ跳び（走る・跳ぶ）                                                                                                                                                                                                                                                                     |                              |              |                                  |
| 第 6 回：走る・跳ぶ・投げる・捕る② フライングディスク（走る・投げる・捕る）                                                                                                                                                                                                                                                             |                              |              |                                  |
| 第 7 回：走る・跳ぶ・投げる・捕る③ フライングディスク（アルティメット）                                                                                                                                                                                                                                                               |                              |              |                                  |
| 第 8 回：走る・蹴る① いろいろなボールを用いた蹴る遊び（走る・蹴る・止める）                                                                                                                                                                                                                                                             |                              |              |                                  |
| 第 9 回：走る・蹴る② 蹴る動きで落とさない遊び、目標に向かって蹴る                                                                                                                                                                                                                                                                  |                              |              |                                  |
| 第 1 0 回：走る・蹴る③ 仲間の動きを予測してパスを出す                                                                                                                                                                                                                                                                       |                              |              |                                  |
| 第 1 1 回：投げる・打つ① 道具を用いて打つ遊び                                                                                                                                                                                                                                                                           |                              |              |                                  |
| 第 1 2 回：投げる・打つ② ボールや羽根などを投げる動き                                                                                                                                                                                                                                                                       |                              |              |                                  |

シラバス：教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目

|                                                 |
|-------------------------------------------------|
| 第13回：投げる・打つ③ バットやラケットの形状と体の使い方                  |
| 第14回：投げる・打つ④ 相手が打ちやすいように物を投げる                   |
| 第15回：授業の振り返りとまとめ                                |
| テキスト                                            |
| なし                                              |
| 参考書・参考資料等                                       |
| 「体育授業を変えるコーディネーション運動65選」（東根明人：明治図書出版：2006年）     |
| 学生に対する評価                                        |
| レポート20%、平常点評価70%、その他10%（実技課題の達成度、授業時間外に取り組んだ内容） |

シラバス：教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目

|                                                                                                                                                                        |  |                      |                              |              |  |                |  |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|----------------------|------------------------------|--------------|--|----------------|--|
| 授業科目名：<br>空手                                                                                                                                                           |  | 教員の免許状取得のための<br>選択科目 |                              | 単位数：<br>1 単位 |  | 担当教員名：麓正樹、谷木龍男 |  |
|                                                                                                                                                                        |  |                      |                              |              |  | 担当形態：クラス分け・単独  |  |
| 科 目                                                                                                                                                                    |  |                      | 教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目 |              |  |                |  |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項                                                                                                                                                   |  |                      | 体育                           |              |  |                |  |
| 授業の到達目標及びテーマ                                                                                                                                                           |  |                      |                              |              |  |                |  |
| <div>・ 突き、蹴り、受けなどの基本技術を身に着ける。</div> <div>・ 空手道をスポーツ科学的見地からとらえ、その構造を理解できる。</div> <div>・ 日本の伝統的武術の 1 つである空手道は、人間の闘争本能にもとづいた対人技能として、きわめて興味深い特質を備えている。その特質について理解できる。</div> |  |                      |                              |              |  |                |  |
| 授業の概要                                                                                                                                                                  |  |                      |                              |              |  |                |  |
| 空手道の基本的な技術の実践を通じて、自らの身体と心、他者の身体と心、そしてその関連について理解を深める。基本技術と呼吸法、フットワークと基本技術の協調および型ができるようになる。                                                                              |  |                      |                              |              |  |                |  |
| 授業計画                                                                                                                                                                   |  |                      |                              |              |  |                |  |
| 第 1 回：授業概要の説明                                                                                                                                                          |  |                      |                              |              |  |                |  |
| 第 2 回：その場基本 1（その場突き、逆突き、前蹴りとミット打ち）                                                                                                                                     |  |                      |                              |              |  |                |  |
| 第 3 回：その場基本 2（受け）                                                                                                                                                      |  |                      |                              |              |  |                |  |
| 第 4 回：その場基本 3（様々な種類の突きと蹴り）                                                                                                                                             |  |                      |                              |              |  |                |  |
| 第 5 回：移動基本 1（順突きと逆突き）                                                                                                                                                  |  |                      |                              |              |  |                |  |
| 第 6 回：移動基本 2（順突き、逆突きと蹴り、および方向転換を伴う移動基本）                                                                                                                                |  |                      |                              |              |  |                |  |
| 第 7 回：フットワークと打撃との協調 1（ジャンプとすり足からの攻撃）                                                                                                                                   |  |                      |                              |              |  |                |  |
| 第 8 回：フットワークと打撃との協調 2（様々なステップからの打撃）                                                                                                                                    |  |                      |                              |              |  |                |  |
| 第 9 回：複合技術 1（突きと蹴りの組み合わせ）                                                                                                                                              |  |                      |                              |              |  |                |  |
| 第 1 0 回：複合技術 2（受けと突き蹴りの組み合わせ）                                                                                                                                          |  |                      |                              |              |  |                |  |
| 第 1 1 回：ミットと人に対する打ち込み（打撃のコントロール）                                                                                                                                       |  |                      |                              |              |  |                |  |
| 第 1 2 回：触り組手（四肢体幹へのタッチと間合い）                                                                                                                                            |  |                      |                              |              |  |                |  |
| 第 1 3 回：形（4 方向に想定した相手への攻防技術）                                                                                                                                           |  |                      |                              |              |  |                |  |
| 第 1 4 回：基本と形の発表                                                                                                                                                        |  |                      |                              |              |  |                |  |
| 第 1 5 回：授業内容のまとめ                                                                                                                                                       |  |                      |                              |              |  |                |  |
| テキスト                                                                                                                                                                   |  |                      |                              |              |  |                |  |
| なし                                                                                                                                                                     |  |                      |                              |              |  |                |  |



シラバス：教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目

参考書・参考資料等

- ・「空手道教範－改訂版－」（公益財団法人全日本空手道連盟：シナノ印刷：2015年）
- ・「空手道－伝統的武道の心と技を学ぼう」（全日本空手道連盟：ベースボールマガジン社：2009年）
- ・「強くなる空手 動きの方程式」（藤田幸雄：福昌堂：1995年）
- ・「カラテ解剖学」（藤田幸雄：福昌堂：1993年）

学生に対する評価

平常点得点70％、その他30％（技能を評価するために、第1-13回までの授業中後半部分で1～2回発表を行い、第14回目に最終発表を行う。）

シラバス：教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目

|                                                                                                                                |                              |              |                                   |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------|--------------|-----------------------------------|
| 授業科目名：<br>ゴルフ                                                                                                                  | 教員の免許状取得のための<br>選択科目         | 単位数：<br>1 単位 | 担当教員名：下永田修二、金田晃一<br>担当形態：クラス分け・単独 |
| 科 目                                                                                                                            | 教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目 |              |                                   |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項                                                                                                           | 体育                           |              |                                   |
| 授業の到達目標及びテーマ                                                                                                                   |                              |              |                                   |
| 目的：ゴルフの技能を身につけるための方法を理解する。ゴルフのルールやエチケット、マナーを学ぶ。                                                                                |                              |              |                                   |
| 目標：将来の自身の生活に生かせるような基本的態度を身につける。受講生同士で積極的にコミュニケーションを取りながら協力し合い、主体的に取り組む姿勢を身につける。                                                |                              |              |                                   |
| 授業の概要                                                                                                                          |                              |              |                                   |
| 静止しているボールを、用具の性能を活かしながら、遠くにしかも正確に打つためには何が必要か理解し、実践できるように育成していく。合理的、効率的なスイングを目指しての打球練習にとどまらず、VTR等を通してゴルフをめぐるさまざまな事柄について、情報提供する。 |                              |              |                                   |
| 授業計画                                                                                                                           |                              |              |                                   |
| 第1回：ガイダンス、ゴルフとは？                                                                                                               |                              |              |                                   |
| 第2回：ショートスイング1（グリップとアドレス）                                                                                                       |                              |              |                                   |
| 第3回：ショートスイング2（スイングクロックとスタンスの関係）                                                                                                |                              |              |                                   |
| 第4回：ハーフスイング1（肘と手首の使い方）                                                                                                         |                              |              |                                   |
| 第5回：ハーフスイング1（ビジネスゾーンの考え方）                                                                                                      |                              |              |                                   |
| 第6回：フルスイング1（ゴルフにおける「フル」の考え方）                                                                                                   |                              |              |                                   |
| 第7回：フルスイング2（クラブパスやフェースの向きと打球との関係）                                                                                              |                              |              |                                   |
| 第8回：ロングアイアンでのショット                                                                                                              |                              |              |                                   |
| 第9回：アプローチショット                                                                                                                  |                              |              |                                   |
| 第10回：ドライバーショット                                                                                                                 |                              |              |                                   |
| 第11回：ウッド系クラブでのショット                                                                                                             |                              |              |                                   |
| 第12回：パッティング                                                                                                                    |                              |              |                                   |
| 第13回：模擬ラウンドゲーム                                                                                                                 |                              |              |                                   |
| 第14回：ゴルフスイングのまとめ                                                                                                               |                              |              |                                   |
| 第15回：ゴルフのラウンドプレーに向けて                                                                                                           |                              |              |                                   |
| テキスト                                                                                                                           |                              |              |                                   |
| なし                                                                                                                             |                              |              |                                   |
| 参考書・参考資料等                                                                                                                      |                              |              |                                   |
| 「PGA カレッジゴルフテキスト」（日本プロゴルフ協会監修、公益財団法人日本プロゴルフ協会）                                                                                 |                              |              |                                   |
| 「PGA ジュニア基本ゴルフ教本」（日本プロゴルフ協会監修、公益財団法人日本プロゴルフ協会）                                                                                 |                              |              |                                   |
| 「ザ・ビジネスゾーン」（小原大二郎著、ゴルフライブ）                                                                                                     |                              |              |                                   |

シラバス：教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目

学生に対する評価

レポート20%、平常点評価60%、その他20%（技術評価）

シラバス：教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目

|                                                                                                                                                                                                                      |  |                              |  |              |  |                    |  |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|------------------------------|--|--------------|--|--------------------|--|
| 授業科目名：<br>サッカー                                                                                                                                                                                                       |  | 教員の免許状取得のための<br>選択科目         |  | 単位数：<br>1 単位 |  | 担当教員名：金子保敏、安藤啓、來海郁 |  |
|                                                                                                                                                                                                                      |  |                              |  |              |  | 担当形態：クラス分け・単独      |  |
| 科 目                                                                                                                                                                                                                  |  | 教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目 |  |              |  |                    |  |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項                                                                                                                                                                                                 |  | 体育                           |  |              |  |                    |  |
| 授業の到達目標及びテーマ                                                                                                                                                                                                         |  |                              |  |              |  |                    |  |
| <ul style="list-style-type: none"><li>・サッカー型競技の基本的な技術と戦術を人に説明できる。</li><li>・サッカー型競技のルールを理解し、観戦においてルールを討議できるようになる。</li><li>・自らがプレーを楽しめると同時に、参加者全員が興ずる方法論を考えることができる。</li><li>・自身の健康管理に適度な運動が必要であることを理解し活用できる。</li></ul> |  |                              |  |              |  |                    |  |
| 授業の概要                                                                                                                                                                                                                |  |                              |  |              |  |                    |  |
| サッカー型競技の特性と楽しさについて、基本技術及び基本戦術を通して説明する。参加者全員が楽しめる場づくりとルール作りの方法を提示し実践する。健康づくりの観点から身体運動の重要性を教示する。                                                                                                                       |  |                              |  |              |  |                    |  |
| 授業計画                                                                                                                                                                                                                 |  |                              |  |              |  |                    |  |
| 第 1 回：ガイダンス                                                                                                                                                                                                          |  |                              |  |              |  |                    |  |
| 第 2 回：基本技術の習得（キックとシュート）、ゲーム                                                                                                                                                                                          |  |                              |  |              |  |                    |  |
| 第 3 回：基本技術の習得（ドリブルとフェイク）、ゲーム                                                                                                                                                                                         |  |                              |  |              |  |                    |  |
| 第 4 回：基本戦術の習得（オフェンス）、ゲーム                                                                                                                                                                                             |  |                              |  |              |  |                    |  |
| 第 5 回：自己評価とリーグ戦に向けての目標をまとめる                                                                                                                                                                                          |  |                              |  |              |  |                    |  |
| 第 6 回：基本戦術の習得（ディフェンス）、ゲーム                                                                                                                                                                                            |  |                              |  |              |  |                    |  |
| 第 7 回：チーム分け、リーグ戦ガイダンス、チームアイスブレイク、練習ゲーム                                                                                                                                                                               |  |                              |  |              |  |                    |  |
| 第 8 回：チーム練習、リーグ戦（クォーターコート）                                                                                                                                                                                           |  |                              |  |              |  |                    |  |
| 第 9 回：チーム練習、リーグ戦（クォーターコート、チームミーティング）                                                                                                                                                                                 |  |                              |  |              |  |                    |  |
| 第 1 0 回：チーム練習、リーグ戦（クォーターコート、チーム戦術を深める）                                                                                                                                                                               |  |                              |  |              |  |                    |  |
| 第 1 1 回：チーム練習、リーグ戦（ハーフコート）                                                                                                                                                                                           |  |                              |  |              |  |                    |  |
| 第 1 2 回：チーム練習、リーグ戦（ハーフコート、チームミーティング）                                                                                                                                                                                 |  |                              |  |              |  |                    |  |
| 第 1 3 回：チーム練習、リーグ戦（クォーターコート、チーム戦術を深める）                                                                                                                                                                               |  |                              |  |              |  |                    |  |
| 第 1 4 回：チーム練習、リーグ戦（オールコート）                                                                                                                                                                                           |  |                              |  |              |  |                    |  |
| 第 1 5 回：授業のまとめ                                                                                                                                                                                                       |  |                              |  |              |  |                    |  |
| テキスト                                                                                                                                                                                                                 |  |                              |  |              |  |                    |  |
| なし                                                                                                                                                                                                                   |  |                              |  |              |  |                    |  |
| 参考書・参考資料等                                                                                                                                                                                                            |  |                              |  |              |  |                    |  |
| 「見方が変わるサッカーサイエンス」（浅井武、布目寛幸著、岩波書店）                                                                                                                                                                                    |  |                              |  |              |  |                    |  |
| 学生に対する評価                                                                                                                                                                                                             |  |                              |  |              |  |                    |  |
| レポート 3 0 %、平常点評価 6 0 %、その他 1 0 %（リーグ戦の結果）                                                                                                                                                                            |  |                              |  |              |  |                    |  |

シラバス：教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |                              |              |                             |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------|--------------|-----------------------------|
| 授業科目名：<br>ソフトボール                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 教員の免許状取得のための<br>選択科目         | 単位数：<br>1 単位 | 担当教員名：小泉佳右<br>担当形態：クラス分け・単独 |
| 科 目                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目 |              |                             |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 体育                           |              |                             |
| 授業の到達目標及びテーマ                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |                              |              |                             |
| 【目的】<br>ソフトボール競技の種目特性を、体力・技能及び戦術的側面から理解し、実践する。自らの健康に留意し、生涯にわたる健康保持のためのスポーツ活動の在り方を学習する。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                              |              |                             |
| 【達成目標】<br>・スポーツ活動に積極的に参加し、健康を保持増進するための身体活動量を確保する。<br>・集団として、練習や試合の円滑な運営に協力し、その手法や考え方を説明できる。<br>・基礎的な運動技能のポイントを説明でき、体得できる。<br>・仲間と連携し、自他の長所を生かしながらチームの目的を果たすための手段を考え、チームにおける役割を果たすことができる。<br>・ルールおよび戦術を学習し、それに基づいたプレーの選択ができる。                                                                                                                                                                                          |                              |              |                             |
| 授業の概要                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |                              |              |                             |
| 基礎技術の修得・確認とゲームとを繰り返しながら、ベースボール型競技に必要な技術の向上を図り、動きやルールを学習してもらう。個の能力と集団としてのコンビネーションとを高める作業を経て、ソフトボールならではの競技特性を提示する。また、生涯にわたって身体活動やスポーツ活動をどのように確保するかについて、考えるきっかけとする。                                                                                                                                                                                                                                                      |                              |              |                             |
| 授業計画                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |                              |              |                             |
| 第 1 回：ガイダンス（履修カードの作成、フォーム入力、授業の進め方）、ストレッチング<br>第 2 回：キャッチボール、ゴロ・フライを捕る<br>第 3 回：ボールを強く打つ<br>第 4 回：ゲームの進め方<br>第 5 回：ゲームの中で強く打つ、ゲーム<br>第 6 回：ソフトボールの投球、ゲーム<br>第 7 回：状況を考えて打つ、ゲーム<br>第 8 回：中継プレイ、ゲーム<br>第 9 回：打撃動作を評価する、ゲーム<br>第 1 0 回：チーム戦術を考える（守備）、ゲーム<br>第 1 1 回：チーム戦術を考える（攻撃）、ゲーム<br>第 1 2 回：チーム戦術を考える（発展）、ゲーム<br>第 1 3 回：日常の身体活動量および生活リズム調査（準備と実施）<br>第 1 4 回：日常の身体活動量および生活リズム調査（実施と結果の評価）<br>第 1 5 回：ルール・用語・基礎戦術調べ |                              |              |                             |
| テキスト                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |                              |              |                             |

シラバス：教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目

|                                                                                                       |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| なし                                                                                                    |
| 参考書・参考資料等<br>「元日本代表に学ぶソフトボールピッチング」(ソフトボールマガジン編集部・増淵まり子：ベースボール・マガジン社：2013年)                            |
| 学生に対する評価<br>レポート20%、平常点評価60%、その他20%(技術修得度・コンビネーションやコミュニケーションの習得度10%、円滑な準備・片付け・練習や試合運営などへの協力に対する評価10%) |

シラバス：教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |  |                              |  |              |  |                     |  |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|------------------------------|--|--------------|--|---------------------|--|
| 授業科目名：<br>ダンス                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |  | 教員の免許状取得のための<br>選択科目         |  | 単位数：<br>1 単位 |  | 担当教員名：寺山由美、七澤<br>朱音 |  |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |  |                              |  |              |  | 担当形態：クラス分け・単独       |  |
| 科 目                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |  | 教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目 |  |              |  |                     |  |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |  | 体育                           |  |              |  |                     |  |
| 授業の到達目標及びテーマ                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |  |                              |  |              |  |                     |  |
| <ul style="list-style-type: none"><li>・「踊る」ことについて体得・理解できる。</li><li>・自分自身の身体の表現性と感性を高めることができる。</li><li>・自らの現状の体力を知り、体力を維持向上することができる。</li></ul>                                                                                                                                                                                    |  |                              |  |              |  |                     |  |
| 授業の概要                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |  |                              |  |              |  |                     |  |
| <p>この授業は「対面授業科目（一部オンデマンド形メディア授業）」です。対面授業では、体ほぐしやストレッチ等を行って心と体を整えたり、律動的なダンスを行うことで体力不足を補ったり身体の表現性を探求したりします。オンデマンド型メディア授業では、小レポートの作成や部屋でできる簡単なストレッチやダンスを行います。</p> <p>リズムダンスのジャンルとしては「ジャズダンス」や「ステージダンス」に近いものになります。他に、「ヒップホップ」の基礎も少し取り上げます。様々な音源に合わせてコンビネーションステップを踏むことで、ダンスや音楽性の変化を感じ取ることもできます。授業ではこの他に、ダンスの歴史や理論にも振れ、知識も深めていきます。</p> |  |                              |  |              |  |                     |  |
| 授業計画                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |  |                              |  |              |  |                     |  |
| 第 1 回：ガイダンス・本授業の学習内容の確認・受講者の自己紹介                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |  |                              |  |              |  |                     |  |
| 第 2 回：体ほぐし／リズムに乗ってみよう（簡単なステップを踏み、リズムに乗る基礎をつくる）                                                                                                                                                                                                                                                                                   |  |                              |  |              |  |                     |  |
| 第 3 回：体ほぐし／リズムコンビネーション A（8 カウント× 4 セット＝3 2 カウント）に挑戦する                                                                                                                                                                                                                                                                            |  |                              |  |              |  |                     |  |
| 第 4 回：体ほぐし／リズムコンビネーション AB（A の続きに新しいステップ B が加わる）に挑戦する                                                                                                                                                                                                                                                                             |  |                              |  |              |  |                     |  |
| 第 5 回：体ほぐし／リズムコンビネーション ABC（AB の続きに新しいステップ C が加わる）に挑戦する                                                                                                                                                                                                                                                                           |  |                              |  |              |  |                     |  |
| 第 6 回：体ほぐし／リズムコンビネーション ABCD（ABC の続きに新しいステップ D が加わる）に挑戦する                                                                                                                                                                                                                                                                         |  |                              |  |              |  |                     |  |
| 第 7 回：体ほぐし／リズムコンビネーション ABCDE（ABCD の続きに新しいステップ E が加わる）に挑戦する                                                                                                                                                                                                                                                                       |  |                              |  |              |  |                     |  |
| 第 8 回：体ほぐし／リズムコンビネーション ABCDEF／ヒップホップに挑戦①（ヒップホップに特有なダウン・アップのリズムやベーシックなステップに挑戦します）                                                                                                                                                                                                                                                 |  |                              |  |              |  |                     |  |
| 第 9 回：体ほぐし／リズムコンビネーション ABCDEF／ヒップホップに挑戦②／チームのオリジナルパートの練習①（ここまで学習したすべての基礎練習をつなげて行います）                                                                                                                                                                                                                                             |  |                              |  |              |  |                     |  |
| 第 1 0 回：体ほぐし／リズムコンビネーション ABCDEF／チームのオリジナルパートの練習②（こ                                                                                                                                                                                                                                                                               |  |                              |  |              |  |                     |  |

シラバス：教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>これまで学習したすべての基礎練習をつなげて行います)</p> <p>第11回：体ほぐし／リズムコンビネーション ABCDEF／チームのオリジナルパートの練習③／モダンダンスに挑戦</p> <p>第12回：体ほぐし／リズムコンビネーション ABCDEF／チームのオリジナルパートの練習④／モダンダンスのブラッシュアップ</p> <p>第13回：体ほぐし／リズムコンビネーション ABCDEF／チームのオリジナルパートの練習⑤／モダンダンスの仕上げ</p> <p>第14回：体ほぐし／リズムコンビネーション ABCDEF ＋ チームのオリジナルパート『ダンス作品発表会』</p> <p>第15回：ダンス作品鑑賞会</p> |
| <p>テキスト</p> <p>なし</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| <p>参考書・参考資料等</p> <p>「新・苦手な運動が好きになるスポーツのコツ①」（七澤朱音：ゆまに書房：2013年）</p>                                                                                                                                                                                                                                                       |
| <p>学生に対する評価</p> <p>レポート30％（毎回の小レポート（コメントペーパー含む）、まとめのレポートなど）、平常点評価60％（毎回の活動への参加状況、オンデマンド型メディア授業における動画視聴状況、グループ活動への貢献度）、その他10％（発表会に向けた準備と作品内容）</p>                                                                                                                                                                        |



シラバス：教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |                              |              |                             |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------|--------------|-----------------------------|
| 授業科目名：<br>テニス                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 教員の免許状取得のための<br>選択科目         | 単位数：<br>1 単位 | 担当教員名：出雲輝彦<br>担当形態：クラス分け・単独 |
| 科 目                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目 |              |                             |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 体育                           |              |                             |
| 授業の到達目標及びテーマ<br>・最終的にダブルスのゲームを楽しむことができるようになる。<br>・ダブルスゲームを楽しむために必要なテニスの技術、知識、ルール及びマナーを修得する。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |                              |              |                             |
| 授業の概要<br>初めてテニスをする学生でも、3 回目の実技授業からダブルスのゲームを楽しむことができるようになります。授業では、基本技術の修得、ゲーム形式の課題練習、授業外課題を段階的に行い、テニスの技術、知識、ルール及びマナーを修得し、最終的にチーム対抗戦で盛り上がります。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |                              |              |                             |
| 授業計画<br>第 1 回：オリエンテーション、テニスコートについての理解<br>第 2 回：初心者のためのファイブ・ステップ・ドリル（5SD）<br>第 3 回：5SD の復習と初級用サービス&リターン練習<br>第 4 回：基礎練習とダブルス簡易ゲーム、テニスの 4 大会（グランドスラム）についての理解<br>第 5 回：基礎練習とダブルス簡易ゲーム、テニスコートネットの高さ調整法についての理解<br>第 6 回：ボレー技術の修得とダブルス簡易ゲーム、テニス技術についての理解～グラウンド・ストロークの打ち方～<br>第 7 回：ダブルスの陣形（雁行陣）理解と簡易ゲーム<br>第 8 回：正式ルールに基づくダブルスゲーム<br>第 9 回：チーム分けとチーム別練習<br>第 1 0 回：チーム対抗戦の進め方の理解とチーム別練習<br>第 1 1 回：チーム対抗戦（基礎技術の確認）<br>第 1 2 回：チーム対抗戦（応用技術の確認）<br>第 1 3 回：チーム対抗戦（各自で課題設定）<br>第 1 4 回：チーム対抗戦（各自で課題実践）<br>第 1 5 回：テニス Q&A とまとめ |                              |              |                             |
| テキスト<br>なし                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |                              |              |                             |
| 参考書・参考資料等<br>「テニス教本」（日本プロテニス協会：日本スポーツ企画出版社：2018 年）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                              |              |                             |
| 学生に対する評価                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |                              |              |                             |

シラバス：教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目

レポート44%（授業外課題レポート…6点満点×6回、メディア授業課題レポート…8点満点×1回）、平常点評価56%（実技パフォーマンス…4点満点×14回）

シラバス：教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |                              |              |                             |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------|--------------|-----------------------------|
| 授業科目名：<br>バスケットボール                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | 教員の免許状取得のための<br>選択科目         | 単位数：<br>1 単位 | 担当教員名：松本沙羅<br>担当形態：クラス分け・単独 |
| 科 目                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目 |              |                             |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 体育                           |              |                             |
| 授業の到達目標及びテーマ<br>・健康・体力作りの視点からバスケットボールを通じて自分の体に対する気づくことができる。<br>・バスケットボール競技の理解を深め、ルールの理解、技術習得の過程を理解できる。<br>・スキルの習得やゲームを行う過程において、仲間とコミュニケーションをとり、チームワークを高めていくことができる。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |                              |              |                             |
| 授業の概要<br>チームスポーツであるバスケットボール競技の魅力を探るとともに、コミュニケーション能力やチームワークなどを養う。また、健康・体力作りという視点で競技を捉え、運動生理学やスポーツ医学などの様々な視点からアプローチすることにより、スポーツへの理解を深める。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |                              |              |                             |
| 授業計画<br>第 1 回：ガイダンス（履修カードの作成）・自己紹介<br>第 2 回：ウォーミングアップ、ストレッチングについての説明と実践、バスケットボール競技の特性・ルールについての理解<br>第 3 回：バスケットボール個人技術①（ボールコントロール）<br>第 4 回：バスケットボール個人技術②（ドリブル、シュート）<br>第 5 回：バスケットボール個人技術③（パス）<br>第 6 回：グループ技術①（2 対 2、3 対 3 の実践的な練習を通して技術を養う。）<br>第 7 回：グループ技術②（スクリーンなどの技術の習得）<br>第 8 回：チームでウォーミングアップを組み立てる<br>第 9 回：チーム戦術①（ゲームを通じてチーム戦術を考える。）<br>第 1 0 回：チーム戦術②（ゲームを通じてチーム戦術を考える。）<br>第 1 1 回：リーグ戦①（個人技術の確認）<br>第 1 2 回：リーグ戦②（グループ技術の確認）<br>第 1 3 回：リーグ戦③（個人戦術、グループ戦術の確認）<br>第 1 4 回：リーグ戦④（チーム内での役割を認識し、チームワークを高めながら、ゲームを行う。）<br>第 1 5 回：総括 |                              |              |                             |
| テキスト<br>なし                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                              |              |                             |
| 参考書・参考資料等                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |                              |              |                             |

シラバス：教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目

|                                               |
|-----------------------------------------------|
| 「バスケットボール 勝つためのフォーメーション」（日高哲朗・恩塚亨：マイナビ：2015年） |
|-----------------------------------------------|

|          |
|----------|
| 学生に対する評価 |
|----------|

|                                                                     |
|---------------------------------------------------------------------|
| 平常点評価100%（実技授業への取り組みと共に、他の学生とのコミュニケーション、リーダーシップなどの観点から総合的に評価を行います。） |
|---------------------------------------------------------------------|

シラバス：教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目

|                                                                                                                          |                              |              |                               |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------|--------------|-------------------------------|
| 授業科目名：<br>バドミントン                                                                                                         | 教員の免許状取得のための<br>選択科目         | 単位数：<br>1 単位 | 担当教員名：吉岡信彦、谷藤千香、船橋大介、藁科侑希、白井巧 |
|                                                                                                                          |                              |              | 担当形態：クラス分け・単独                 |
| 科 目                                                                                                                      | 教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目 |              |                               |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項                                                                                                     | 体育                           |              |                               |
| 授業の到達目標及びテーマ                                                                                                             |                              |              |                               |
| バドミントンの特性を理解し、基礎的な技術を習得できる。また、自分自身の能力を最大限活かしたゲームを展開する能力を養うことができる。さらに、クラス全体がレベルアップし、楽しくゲームをできるようにするには、自分が何をすべきかを考え、行動できる。 |                              |              |                               |
| 授業の概要                                                                                                                    |                              |              |                               |
| バドミントンの文化を学習し、その魅力を享受する。また、バドミントンの基本的な技術を習得し、ゲームを楽しむ。自分自身の能力を最大限に活かし、ゲームの工夫を通して、自分自身や他者との関係などを見つめる機会として欲しい。              |                              |              |                               |
| 授業計画                                                                                                                     |                              |              |                               |
| 第 1 回：ガイダンス及びラケット&シャトル遊び                                                                                                 |                              |              |                               |
| 第 2 回：ラケット&シャトル遊び（ゲーム）                                                                                                   |                              |              |                               |
| 第 3 回：ラリーを楽しむ                                                                                                            |                              |              |                               |
| 第 4 回：各種フラインクの理解と習得                                                                                                      |                              |              |                               |
| 第 5 回：バドミントンの動きづくり                                                                                                       |                              |              |                               |
| 第 6 回：ルールの理解と実践                                                                                                          |                              |              |                               |
| 第 7 回：バドミントンの技術を考える                                                                                                      |                              |              |                               |
| 第 8 回：移動を伴ったラリーを楽しむ                                                                                                      |                              |              |                               |
| 第 9 回：バドミントンのための身体づくり                                                                                                    |                              |              |                               |
| 第 1 0 回：ゲームを楽しむ（ルールの理解/シングルス）                                                                                            |                              |              |                               |
| 第 1 1 回：ゲームを楽しむ（ルールの理解/ダブルス）                                                                                             |                              |              |                               |
| 第 1 2 回：バドミントン大会①（相手をどう崩すか工夫する）                                                                                          |                              |              |                               |
| 第 1 3 回：バドミントン大会②（問題点を修正しながらゲームを楽しむ）                                                                                     |                              |              |                               |
| 第 1 4 回：バドミントンの今後をデザインする                                                                                                 |                              |              |                               |
| 第 1 5 回：バドミントンの特徴を考える                                                                                                    |                              |              |                               |
| テキスト                                                                                                                     |                              |              |                               |
| なし                                                                                                                       |                              |              |                               |
| 参考書・参考資料等                                                                                                                |                              |              |                               |
| ・「バドミントンの指導理論 1」阿部一佳、渡辺雅弘 著、日本バドミントン指導者連盟                                                                                |                              |              |                               |
| ・「バドミントンの歴史に学ぶ」阿部一佳、渡辺雅弘 著、日本バドミントン指導者連盟                                                                                 |                              |              |                               |

シラバス：教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目

学生に対する評価

レポート45%（最終課題）、平常点評価55%（実技の参加状況および授業についてのコメント）

シラバス：教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目

|                                                                                                                                                                                                                                                      |                              |              |                             |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------|--------------|-----------------------------|
| 授業科目名：<br>バレーボール                                                                                                                                                                                                                                     | 教員の免許状取得のための<br>選択科目         | 単位数：<br>1 単位 | 担当教員名：浪越一喜<br>担当形態：クラス分け・単独 |
| 科 目                                                                                                                                                                                                                                                  | 教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目 |              |                             |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項                                                                                                                                                                                                                                 | 体育                           |              |                             |
| 授業の到達目標及びテーマ                                                                                                                                                                                                                                         |                              |              |                             |
| ソフトバレーボールの活動を通して、自身の身体と向き合い、その変化・向上を体感し、スポーツの文化的価値を享受することを目的とする。                                                                                                                                                                                     |                              |              |                             |
| ①ソフトバレーボールに必要な技術を身に付け、ゲームにつなげることができる。                                                                                                                                                                                                                |                              |              |                             |
| ②楽しむために自ら課題を発見し、課題解決及び向上のために活動を工夫することができる。                                                                                                                                                                                                           |                              |              |                             |
| ③ゲームをより楽しむためにチームの課題・役割を理解し、主体的に関わり、リーグ戦等のマネジメントをすることができる。                                                                                                                                                                                            |                              |              |                             |
| 授業の概要                                                                                                                                                                                                                                                |                              |              |                             |
| バレーボールは、ラリーを楽しみ、ネットを介して相手コートに如何にして落球させるかという攻防を味わう種目であるが、そのバレーボールの抵抗条件となっている「痛い」「怖い」「経験者との差異」等が軽減され、いつでも、だれでも、いつまでも生涯にわたってスポーツを楽しむために開発されたものがソフトバレーボールである。抵抗条件が軽減され、ラリーやゲームを楽しみ、必要な技術を無理なく学習できるのも利点といえる。このソフトバレーボールを通して、生涯にわたってスポーツを親しむ態度が培えればと考えている。 |                              |              |                             |
| 授業計画                                                                                                                                                                                                                                                 |                              |              |                             |
| 第 1 回：ガイダンス（全体及び種目別）                                                                                                                                                                                                                                 |                              |              |                             |
| 第 2 回：バレーボールの基本的な動きづくり                                                                                                                                                                                                                               |                              |              |                             |
| 第 3 回：ソフトバレーボールの基本的なルールの理解とオーバーハンドパス及びアンダーハンドパスの技術の復習                                                                                                                                                                                                |                              |              |                             |
| 第 4 回：チーム（グループ）編成とチーム内でのパス連携                                                                                                                                                                                                                         |                              |              |                             |
| 第 5 回：スパイク動作の獲得                                                                                                                                                                                                                                      |                              |              |                             |
| 第 6 回：コミュニケーションの必要性を理解し、試しのゲームを通してチームの特徴を把握し、課題をみつける                                                                                                                                                                                                 |                              |              |                             |
| 第 7 回：チームの課題を改善するための取り組み（練習）とゲーム                                                                                                                                                                                                                     |                              |              |                             |
| 第 8 回：ゲームの構造を理解し、ソフトバレーボールのゲームを楽しむ                                                                                                                                                                                                                   |                              |              |                             |
| 第 9 回：ソフトバレーボールのゲームを楽しむ                                                                                                                                                                                                                              |                              |              |                             |
| 第 1 0 回：チーム（グループ）再編とルールの工夫                                                                                                                                                                                                                           |                              |              |                             |
| 第 1 1 回：フォーメーションを意識した役割の確認とソフトバレーボールのゲームを楽しむ                                                                                                                                                                                                         |                              |              |                             |
| 第 1 2 回：ゲームの運営及びゲーム（チーム内での動きの効率化、正確さとリズム）                                                                                                                                                                                                            |                              |              |                             |
| 第 1 3 回：ゲームの運営及びゲーム（チーム戦術、攻撃パターンの考案）                                                                                                                                                                                                                 |                              |              |                             |
| 第 1 4 回：ゲームの運営及びゲーム（フォーメーションの実施）                                                                                                                                                                                                                     |                              |              |                             |
| 第 1 5 回：総括                                                                                                                                                                                                                                           |                              |              |                             |
| テキスト                                                                                                                                                                                                                                                 |                              |              |                             |

シラバス：教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目

|                                                                                    |
|------------------------------------------------------------------------------------|
| なし                                                                                 |
| <p>参考書・参考資料等</p> <p>「しっかり学んで絶対にうまくなる!ソフトバレーボールの教科書」(日本ソフトバレーボール連盟：日本文芸社：2020年)</p> |
| <p>学生に対する評価</p> <p>授業への参加姿勢(70%)、技術修得度(10%)、リーダーシップ能力(10%)、協調性(10%)から総合的に評価する。</p> |



シラバス：教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目

|                                                                                                                            |                              |              |                         |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------|--------------|-------------------------|
| 授業科目名：<br>フィットネス                                                                                                           | 教員の免許状取得のための<br>選択科目         | 単位数：<br>1 単位 | 担当教員名：上野朋子、林悠<br>佳、谷木龍男 |
|                                                                                                                            |                              |              | 担当形態：クラス分け・単独           |
| 科 目                                                                                                                        | 教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目 |              |                         |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項                                                                                                       | 体育                           |              |                         |
| 授業の到達目標及びテーマ                                                                                                               |                              |              |                         |
| ・フィジカル・トレーニング（マシン・トレーニング、自重トレーニング、体幹トレーニング、HIIT など）を実施できる。                                                                 |                              |              |                         |
| ・メンタル・トレーニング（リラクセーショントレーニング）を実施できる。                                                                                        |                              |              |                         |
| 授業の概要                                                                                                                      |                              |              |                         |
| 生涯に渡ってフィットネス（健康）を維持するためには、正しい生活習慣と正しいトレーニングのやり方を学び、身につけ、実践し、習慣化することが必要である。本授業では、基本的な生活習慣とフィジカル・トレーニングとメンタル・トレーニングを学習・実践する。 |                              |              |                         |
| 授業計画                                                                                                                       |                              |              |                         |
| ※すべての授業の最初と最後にストレッチとリラクセーションを行う。                                                                                           |                              |              |                         |
| 第 1 回：ガイダンス                                                                                                                |                              |              |                         |
| 第 2 回：マシン・トレーニング 1（フィジカル・トレーニングの原理・原則，効果などについて学ぶ。）                                                                         |                              |              |                         |
| 第 3 回：マシン・トレーニング 2（マシンで最大筋力を測定する（1 回目）。）                                                                                   |                              |              |                         |
| 第 4 回：マシン・トレーニング 3（最大筋力の 80%の負荷で 10 回 3 セットのマシン・トレーニングを行う。）                                                                |                              |              |                         |
| 第 5 回：マシン・トレーニング 4 & 自重トレーニング 1（自重トレーニングのフォーム、留意点、効果などを学ぶ。マシン・トレーニング後に自重トレーニングを行う。）                                        |                              |              |                         |
| 第 6 回：マシン・トレーニング 5 & 自重トレーニング 2（マシン・トレーニング後に自重トレーニングを行う。）                                                                  |                              |              |                         |
| 第 7 回：マシン・トレーニング 6 & 自重トレーニング 3（マシンで最大筋力を測定する（2 回目）。マシン・トレーニング後に自重トレーニングを行う。）                                              |                              |              |                         |
| 第 8 回：マシン・トレーニング 7 & HIIT と体幹トレーニング 1（HIIT と体幹トレーニングのやり方、留意点、効果などを学ぶ。マシン・トレーニング後に HIIT と体幹トレーニングを行う。）                      |                              |              |                         |
| 第 9 回：マシン・トレーニング 8 & HIIT と体幹トレーニング 2（マシン・トレーニング後に HIIT と体幹トレーニングを行う。）                                                     |                              |              |                         |
| 第 1 0 回：マシン・トレーニング 9 & HIIT と体幹トレーニング 3（マシン・トレーニング後に HIIT と体幹トレーニングを異なる組合せで行う。）                                            |                              |              |                         |
| 第 1 1 回：マシン・トレーニング 1 0 & HIIT と体幹トレーニング 4（マシンで最大筋力を測定する（3 回目）。マシン・トレーニング後に HIIT と体幹トレーニングを行う。）                             |                              |              |                         |
| 第 1 2 回：メンタル・トレーニング（メンタル・トレーニングのやり方、留意点、効果などを学ぶ。）                                                                          |                              |              |                         |

シラバス：教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目

|                                                                                                                                                        |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>第13回：総合的トレーニング1（マシン・トレーニング後に、HIITと体幹トレーニングを総合的に行う。）</p> <p>第14回：総合的トレーニング2（マシンで最大筋力を測定する（4回目）。マシン・トレーニング後にHIITと体幹トレーニングを総合的に行う。）</p> <p>第15回：総括</p> |
| <p>テキスト</p> <p>なし</p>                                                                                                                                  |
| <p>参考書・参考資料等</p> <p>「世界一効率がいい最高の運動」（川田浩志：かんき出版：2019年）</p>                                                                                              |
| <p>学生に対する評価</p> <p>レポート20%（期末レポートを課す）、平常点評価60%、その他20%（授業外学習の取り組み状況を総合的に評価する。）</p>                                                                      |

シラバス：教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目

|                                                                                                           |  |                              |              |                                       |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|------------------------------|--------------|---------------------------------------|
| 授業科目名：<br>ニュー・スポーツ                                                                                        |  | 教員の免許状取得のための<br>選択科目         | 単位数：<br>1 単位 | 担当教員名：藤井和彦、齋藤<br>武利、西野明、岩井幸博、佐<br>野智樹 |
|                                                                                                           |  |                              |              | 担当形態：クラス分け・単独                         |
| 科 目                                                                                                       |  | 教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目 |              |                                       |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項                                                                                      |  | 体育                           |              |                                       |
| 授業の到達目標及びテーマ                                                                                              |  |                              |              |                                       |
| 【目的】<br>様々な運動、ニュー・スポーツについてのルールや運動特性を理解し、実践する。                                                             |  |                              |              |                                       |
| 【達成目標】<br>様々な運動やニュー・スポーツに積極的に挑戦することができる。<br>仲間と協力し、楽しむ場を作り出すことができる。<br>生涯を通して運動やスポーツに親しむ意欲を持ち、実施することができる。 |  |                              |              |                                       |
| 授業の概要                                                                                                     |  |                              |              |                                       |
| 健康・体力の維持・増進のために日常生活に運動やスポーツを取り入れることが望まれる。本<br>授業では様々な運動やニュー・スポーツに挑戦し、生涯を通してスポーツに親しむ習慣を身に<br>つける。          |  |                              |              |                                       |
| 授業計画                                                                                                      |  |                              |              |                                       |
| 第 1 回：ガイダンス                                                                                               |  |                              |              |                                       |
| 第 2 回：ニュー・スポーツ種目（公園等で手軽にできるレクレーション形式の種目）の実施 1                                                             |  |                              |              |                                       |
| 第 3 回：ニュー・スポーツ種目（公園等でできるディスク形式の種目）の実施 2    フライング<br>ディスク                                                  |  |                              |              |                                       |
| 第 4 回：ニュー・スポーツ種目（公園等でできるディスク形式の種目）の実施 3    ディスクゴ<br>ルフ                                                    |  |                              |              |                                       |
| 第 5 回：ターゲット型のニュー・スポーツ種目の実施その 1    アキュラシー                                                                  |  |                              |              |                                       |
| 第 6 回：道具を使ったニュー・スポーツ種目の実施その 1    グラウンド・ゴルフの基礎                                                             |  |                              |              |                                       |
| 第 7 回：道具を使ったニュー・スポーツ種目の実施その 2    グラウンド・ゴルフ                                                                |  |                              |              |                                       |
| 第 8 回：道具を使ったニュー・スポーツ種目の実施その 3    スティックを使った種目                                                              |  |                              |              |                                       |
| 第 9 回：道具を使ったニュー・スポーツ種目の実施その 4    ボールを使った種目                                                                |  |                              |              |                                       |
| 第 1 0 回：ターゲット型のニュー・スポーツ種目の実施その 2    ペタンク等                                                                 |  |                              |              |                                       |
| 第 1 1 回：ネット型のニュー・スポーツ種目の実施その 1    ソフトバレーボールの基本                                                            |  |                              |              |                                       |
| 第 1 2 回：ネット型のニュー・スポーツ種目の実施その 2    ソフトバレーボールのゲーム                                                           |  |                              |              |                                       |
| 第 1 3 回：ネット型のニュー・スポーツ種目の実施その 3    その他のゲーム                                                                 |  |                              |              |                                       |
| 第 1 4 回：ターゲット型のニュー・スポーツ種目の実施その 3    ボッチャ                                                                  |  |                              |              |                                       |
| 第 1 5 回：様々なニュー・スポーツ種目の整理と新しいニュー・スポーツ種目への探究                                                                |  |                              |              |                                       |
| テキスト                                                                                                      |  |                              |              |                                       |
| なし                                                                                                        |  |                              |              |                                       |

シラバス：教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目

参考書・参考資料等

- ・「フライングディスクの指導教本」（久保和之：晃洋書房：2023年）
- ・「知っておきたい！グラウンド・ゴルフ《ルール編》」（朝井正教：ベースボール・マガジン社：2014年）

学生に対する評価

レポート20％、平常点評価80％

シラバス：教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目

|                                                                                                                                                                                                                                                                                            |                              |              |                       |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------|--------------|-----------------------|
| 授業科目名：<br>ラグビー                                                                                                                                                                                                                                                                             | 教員の免許状取得のための<br>選択科目         | 単位数：<br>1 単位 | 担当教員名：小泉佳右<br>担当形態：単独 |
| 科 目                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目 |              |                       |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項                                                                                                                                                                                                                                                                       | 体育                           |              |                       |
| 授業の到達目標及びテーマ                                                                                                                                                                                                                                                                               |                              |              |                       |
| <ul style="list-style-type: none"><li>・スポーツ活動に積極的に参加し、健康を保持増進するための身体活動量を確保する。</li><li>・集団として、練習や試合の円滑な運営に協力し、その手法や考え方を説明できる。</li><li>・基礎的な運動技能のポイントを説明でき、体得できる。</li><li>・仲間と連携し、自他の長所を生かしながらチームの目的を果たすための手段を考え、チームにおける役割を果たすことができる。</li><li>・ルールおよび戦術を学習し、それに基づいたプレーの選択ができる。</li></ul>     |                              |              |                       |
| 授業の概要                                                                                                                                                                                                                                                                                      |                              |              |                       |
| 基礎技術の修得・確認とゲームとを繰り返しながら、ラグビー型競技に必要な技術の向上を図り、動きやルールを学習してもらう。個の能力と集団としてのコンビネーションとを高める作業を経て、ラグビーならではの競技特性を提示する。一方で、体力差やラグビー競技経験の有無への配慮、怪我のリスクの低減、未経験者も十分に楽しめるように、タグラグビーのルールで実施する。未経験者や女性でも安心して受講できるように配慮しながら授業運営する（子どもの遊びの「しっぽ取り」に似た部分があります）。また、生涯にわたって身体活動やスポーツ活動をどのように確保するかについて、考えるきっかけとする。 |                              |              |                       |
| 授業計画                                                                                                                                                                                                                                                                                       |                              |              |                       |
| 第 1 回：ガイダンス（授業の進め方、履修カードの作成、フォーム入力）、ストレッチング                                                                                                                                                                                                                                                |                              |              |                       |
| 第 2 回：タグを使った遊び                                                                                                                                                                                                                                                                             |                              |              |                       |
| 第 3 回：ラインパス、ボールハンドリング                                                                                                                                                                                                                                                                      |                              |              |                       |
| 第 4 回：ゲームの進め方                                                                                                                                                                                                                                                                              |                              |              |                       |
| 第 5 回：オフサイドの理解、少人数でのゲーム                                                                                                                                                                                                                                                                    |                              |              |                       |
| 第 6 回：パスのいろいろ、徐々に人数を増やしてゲーム                                                                                                                                                                                                                                                                |                              |              |                       |
| 第 7 回：戦術を深める（攻撃）、ゲーム                                                                                                                                                                                                                                                                       |                              |              |                       |
| 第 8 回：戦術を深める（守備）、ゲーム                                                                                                                                                                                                                                                                       |                              |              |                       |
| 第 9 回：戦術を深める（発展）、ゲーム                                                                                                                                                                                                                                                                       |                              |              |                       |
| 第 1 0 回：キック技術、キックを使った戦術の理解                                                                                                                                                                                                                                                                 |                              |              |                       |
| 第 1 1 回：キックも使ってタグラグビー（基本）                                                                                                                                                                                                                                                                  |                              |              |                       |
| 第 1 2 回：キックも使ってタグラグビー（発展）                                                                                                                                                                                                                                                                  |                              |              |                       |
| 第 1 3 回：日常の身体活動量および生活リズム調査（準備と実施）                                                                                                                                                                                                                                                          |                              |              |                       |
| 第 1 4 回：日常の身体活動量および生活リズム調査（実施と結果の評価）                                                                                                                                                                                                                                                       |                              |              |                       |
| 第 1 5 回：ルール・用語・基礎戦術調べ                                                                                                                                                                                                                                                                      |                              |              |                       |
| テキスト                                                                                                                                                                                                                                                                                       |                              |              |                       |

シラバス：教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目

|                                                                                                                  |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| なし                                                                                                               |
| <p>参考書・参考資料等</p> <p>「だれでもできるタグラグビー」（鈴木秀人：小学館：2009年）</p>                                                          |
| <p>学生に対する評価</p> <p>レポート20％、平常点評価60％、その他20％（技術修得度・コンビネーションやコミュニケーションの習得度10％、円滑な準備・片付け・練習や試合運営などへの協力に対する評価10％）</p> |

シラバス：教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |                              |              |                       |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------|--------------|-----------------------|
| 授業科目名：<br>リハビリテーション・プログラム                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | 教員の免許状取得のための<br>選択科目         | 単位数：<br>1 単位 | 担当教員名：小泉佳右<br>担当形態：単独 |
| 科 目                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目 |              |                       |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 体育                           |              |                       |
| 授業の到達目標及びテーマ                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |                              |              |                       |
| ・スポーツ活動に積極的に参加し、健康を保持増進するための身体活動量を確保する。<br>・トレーニングやリハビリテーションの基礎知識を理解できる。<br>・トレーニングやリハビリテーションメニューを円滑に実施することができる。<br>・形態・体組成・運動能力等測定の測定し、その結果を客観的に解釈できる。<br>・自分自身にあったトレーニングおよびリハビリテーションメニューを立案し、実施できる。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                              |              |                       |
| 授業の概要                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                              |              |                       |
| 身体的あるいは精神的な条件により、一般的なスポーツやトレーニングが受講できない学生に対して開講する実技授業である。各自の身体状況や精神の状態にあわせて、自分にあったトレーニング方法や実施可能なスポーツについて考える。測定を行って各自のデータをまとめ考察し、生涯にわたって健康体力づくりが実施できる方法を修得する。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |                              |              |                       |
| 授業計画                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |                              |              |                       |
| 第 1 回：ガイダンス（履修カードの作成、フォーム入力、授業の進め方）、カウンセリング<br>第 2 回：形態・体組成・運動能力等測定<br>第 3 回：有酸素運動-1（生理的効果の確認）<br>第 4 回：有酸素運動-2（ウォーキング）<br>第 5 回：有酸素運動-3（ジョギング）<br>第 6 回：ストレッチング-1（生理的効果の確認）<br>第 7 回：ストレッチング-2（スタティックストレッチング、PNF ストレッチング）<br>第 8 回：筋力トレーニング-1（生理的効果の確認）<br>第 9 回：筋力トレーニング-2（自重負荷トレーニング、コアトレーニング）<br>第 1 0 回：筋力トレーニング-3（フリーウェイトトレーニング、マシントレーニング）<br>第 1 1 回：セルフトレーニング（あるいはリハビリテーション）メニューの立案<br>第 1 2 回：セルフトレーニング（あるいはリハビリテーション）メニューの実践<br>第 1 3 回：セルフトレーニング（あるいはリハビリテーション）メニューの発展<br>第 1 4 回：日常の身体活動量および生活リズム調査（準備と実施）<br>第 1 5 回：日常の身体活動量および生活リズム調査（実施と結果の評価）<br>各項目の実施時間数は受講者の数や状況によって調整する。 |                              |              |                       |
| テキスト                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |                              |              |                       |
| なし                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |                              |              |                       |
| 参考書・参考資料等                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |                              |              |                       |

シラバス：教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目

|                                           |
|-------------------------------------------|
| 「運動生理学 20 講(第 3 版)」(勝田茂・征矢英昭：朝倉書店：2015 年) |
|-------------------------------------------|

|          |
|----------|
| 学生に対する評価 |
|----------|

|                                                                     |
|---------------------------------------------------------------------|
| 平常点評価(授業への参加姿勢等) 60%、レポート 30%、円滑な準備・片付け・測定やトレーニング実践などへの協力に対する評価 10% |
|---------------------------------------------------------------------|



シラバス：教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目

|                                                                                                              |  |                      |                              |              |  |                               |  |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|----------------------|------------------------------|--------------|--|-------------------------------|--|
| 授業科目名：<br>くすりと健康                                                                                             |  | 教員の免許状取得のための<br>選択科目 |                              | 単位数：<br>1 単位 |  | 担当教員名：高野博之、小椋<br>康光、小林弥生、鈴木武博 |  |
|                                                                                                              |  |                      |                              |              |  | 担当形態：オムニバス                    |  |
| 科 目                                                                                                          |  |                      | 教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目 |              |  |                               |  |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項                                                                                         |  |                      | 体育                           |              |  |                               |  |
| 授業の到達目標及びテーマ                                                                                                 |  |                      |                              |              |  |                               |  |
| くすりと健康について、概観できる基礎知識が身につく。                                                                                   |  |                      |                              |              |  |                               |  |
| くすりの開発について一面的ではなく多面的な理解ができる考え方を理解できる。                                                                        |  |                      |                              |              |  |                               |  |
| 授業の概要                                                                                                        |  |                      |                              |              |  |                               |  |
| くすりは長い人類の歴史の中で、経験と科学知見の集積として誕生し、現在でも先端的な科学技術の粋を集めて開発が進められている。本授業では、くすりと健康について、その歴史、開発、作用、情報、臨床での使い方を含めて概説する。 |  |                      |                              |              |  |                               |  |
| 授業計画                                                                                                         |  |                      |                              |              |  |                               |  |
| 第 1 回：心臓・血管の病気とくすり（高野）                                                                                       |  |                      |                              |              |  |                               |  |
| 生命にかかわる心臓や血管の病気とくすりについて概説する。                                                                                 |  |                      |                              |              |  |                               |  |
| 第 2 回：医薬品情報を正しく読み取る（高野）                                                                                      |  |                      |                              |              |  |                               |  |
| くすりの情報の取得とその解釈について概説する。                                                                                      |  |                      |                              |              |  |                               |  |
| 第 3 回：臨床試験でくすりの効果と安全性を調べる（高野）                                                                                |  |                      |                              |              |  |                               |  |
| 人に対するくすりの効果と安全性を調べるための臨床試験について概説する。                                                                          |  |                      |                              |              |  |                               |  |
| 第 4 回：くすりと食品の間の科学（小椋）                                                                                        |  |                      |                              |              |  |                               |  |
| 医薬品、特定保健用食品、機能性表示食品、健康食品、これらの違いについて概説する。                                                                     |  |                      |                              |              |  |                               |  |
| 第 5 回：くすりと毒（小椋）                                                                                              |  |                      |                              |              |  |                               |  |
| くすりと毒の違いをリスク評価という観点から概説する。                                                                                   |  |                      |                              |              |  |                               |  |
| 第 6 回：薬毒同源 毒にも薬にもなる化学物質（小林）                                                                                  |  |                      |                              |              |  |                               |  |
| 毒と薬は紙一重。毒にも薬にもなる化学物質とその作用機序について概説する。                                                                         |  |                      |                              |              |  |                               |  |
| 第 7 回：化学物質と次世代の健康（鈴木）                                                                                        |  |                      |                              |              |  |                               |  |
| 化学物質による次世代の健康影響についてエピゲノム変化を中心に概説する。                                                                          |  |                      |                              |              |  |                               |  |
| 第 8 回：エピゲノムとくすり（鈴木）                                                                                          |  |                      |                              |              |  |                               |  |
| エピゲノム変化の疾患との関連やくすりへの応用について概説する。                                                                              |  |                      |                              |              |  |                               |  |
| テキスト                                                                                                         |  |                      |                              |              |  |                               |  |
| 特になし。                                                                                                        |  |                      |                              |              |  |                               |  |
| 参考書・参考資料等                                                                                                    |  |                      |                              |              |  |                               |  |
| ・高野博之、「高血圧臨床試験の血圧データに関する統計学的考察：VART を事例として」 日本医事新報 4618：23-29，2012.                                          |  |                      |                              |              |  |                               |  |
| ・今井浩孝、小椋康光著、「衛生薬学（改訂第 2 版）：基礎・予防・臨床」 南江堂，2018.                                                               |  |                      |                              |              |  |                               |  |
| 学生に対する評価                                                                                                     |  |                      |                              |              |  |                               |  |
| レポート（100％）で評価する。                                                                                             |  |                      |                              |              |  |                               |  |

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |                         |             |                  |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------|-------------|------------------|
| 授業科目名：<br>Interaction                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | 教員の免許状取得のための<br>選択科目    | 単位数：<br>1単位 | 担当教員名：<br>伊藤 孝一郎 |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |                         |             | 担当形態：単独          |
| 科 目                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目 |             |                  |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | 外国語コミュニケーション            |             |                  |
| 授業のテーマ及び到達目標                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                         |             |                  |
| 1) 日常的な会話を英語で行うことができる。<br>2) 身近な話題について、英語で意見交換ができる。<br>3) 協力して課題を解決することができる。<br>4) 基本的な英語を用いて、だれかの問いかけに意見を述べるができる。<br>5) 幅広い文法と語彙を修得する。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |                         |             |                  |
| 授業の概要                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                         |             |                  |
| 興味のある話題に関して学生同士または教員と学生でお互いに意見交換するなど双方向的な形態で授業を行い、コミュニケーション能力を養成する。<br>さらに、English Houseで3週に1度、Three-to-One Conversation（受講生3人とEnglish Houseの学生アシスタント1人による20分間の英会話）に参加する。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |                         |             |                  |
| 授業計画                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |                         |             |                  |
| 第1回：ガイダンス、Unit 1. Who We Are<br>第2回：Unit 1. Who We Are（第1回の続き）<br>第3回：Unit 2. So Much Stuff<br>第4回：Unit 3. Smart Moves<br>第5回：Unit 4. Think First<br>第6回：Unit 5. And Then...<br>第7回：中間テスト、Unit 6. Impact<br>第8回：Unit 7. Entertainment Us<br>第9回：Unit 7. Entertainment Us（第8回の続き）、Unit 8. Getting There<br>第10回：Unit 9. Make It Work<br>第11回：Unit 10. Why We Buy<br>第12回：Unit 11. Pushing Yourself<br>第13回：語彙テスト、Unit 12. Life's Little Lessons<br>第14回：最終口述テスト<br>第15回：Unit 12. Life's Little Lessons（第13回の続き）<br>第16回：最終口述テスト、授業の評価 |                         |             |                  |

テキスト

Evolve Level 3 Student's Book, Hendra, Leslie Anne, Mark Ibbotson, and Kathrin O'Dell, Cambridge University Press, 2019. (ISBN: 9781108405270)

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

授業への参加・課題(40%)、最終口述テスト(30%)、語彙テスト(10%)、中間テスト(10%)、English HouseでのConversation Session受講 (10%)

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |                         |             |                 |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------|-------------|-----------------|
| 授業科目名：<br>Presentation                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | 教員の免許状取得のための<br>選択科目    | 単位数：<br>1単位 | 担当教員名：<br>内藤 嘉文 |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |                         |             | 担当形態：単独         |
| 科 目                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目 |             |                 |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 外国語コミュニケーション            |             |                 |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>1) 身近な話題について記述できる。</p> <p>2) 過去と現在に関する情報を報告することができる。</p> <p>3) 様々な物事を行うための方法を説明することができる。</p> <p>4) 原因・理由の説明ができる。</p> <p>5) 自分の見解を示し、周囲の人を納得させることができる。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |                         |             |                 |
| <p>授業の概要</p> <p>身近な話題について、個人・ペア・グループ単位でプレゼンテーションを行う。発表時間は授業が進むにつれて徐々に長くしていき、最終的には現行を見ずに簡単なメモ程度でプレゼンテーションができる能力を養成する。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |                         |             |                 |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：自己紹介、プレゼンテーションの概説</p> <p>第2回：自分が賞賛している人物について説明する。ー非言語的コミュニケーション</p> <p>第3回：行ったことがある場所について説明する。</p> <p>ーブレーンストーミングとオーガナイズイングインフォメーション</p> <p>第4回：プロセスを説明する。ーアイデアをつなげて考える。</p> <p>第5回：過去のイベントについて他者に説明する。</p> <p>第6回：最近のイベントについて他者に説明する。</p> <p>第7回：原因を説明する。ー声色に変化をつける。</p> <p>第8回：自分の未来計画について説明する。ー理由付けをする。</p> <p>第9回：比較と対称 ー例を使う。</p> <p>第10回：自分の意見を支える。</p> <p>第11回：問題に対して解決策を提案する。ー証拠の発見と評価</p> <p>第12回：問題に対して解決策を提案する。ー聴衆を納得させる</p> <p>第13回：聴衆を説得する。ー統計を使う</p> <p>第14回：聴衆を説得する。ー視覚情報を使う</p> <p>第15回：情報の発見と評価</p> <p>最終プレゼンテーション</p> |                         |             |                 |

|                                                             |
|-------------------------------------------------------------|
| テキスト                                                        |
| <i>Dynamic Presentations</i> (Michael Hood) 978-4-342-54970 |
| 参考書・参考資料等                                                   |
| なし                                                          |
| 学生に対する評価                                                    |
| プレゼンテーション：(60%)、課題の完成度(20%)、担当部分の完成度(20%)                   |

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |                         |             |                          |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------|-------------|--------------------------|
| 授業科目名：<br>Discussion                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 教員の免許状取得のための<br>選択科目    | 単位数：<br>1単位 | 担当教員名：<br>DOOLEY STEPHEN |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |                         |             | 担当形態：単独                  |
| 科 目                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目 |             |                          |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 外国語コミュニケーション            |             |                          |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>1) 身近な話題について説明することができる。</p> <p>2) 情報によって自分の意見を正当化することができる。</p> <p>3) 明確化することで、議論を導き、管理することができる。</p> <p>4) 幅広い語彙や熟語を使用することができる。</p>                                                                                                                                                                                         |                         |             |                          |
| <p>授業の概要</p> <p>身近な話題について事前に準備した情報に基づき、ペアまたは少人数のグループに分かれて、自分の意見を簡単な言葉で討論する技術を養成する。</p>                                                                                                                                                                                                                                                            |                         |             |                          |
| <p>授業計画</p> <p>以下のテーマで討論を行う。</p> <p>第1回：態度について</p> <p>第2回：お金について</p> <p>第3回：健康について</p> <p>第4回：犯罪について</p> <p>第5回：環境について</p> <p>第6回：宇宙人について</p> <p>第7回：中間討論と評価</p> <p>第8回：歴史について</p> <p>第9回：社会における女性について</p> <p>第10回：発展する世界について</p> <p>第11回：暴力について</p> <p>第12回：政治について</p> <p>第13回：経済について</p> <p>第14回：幸福について</p> <p>第15回：最終討論と評価</p> <p>第16回：まとめ</p> |                         |             |                          |
| <p>テキスト</p> <p>Communication Strategies 2 David Paul</p> <p>Cengage Learning 978-981-4232-62-3</p>                                                                                                                                                                                                                                                |                         |             |                          |

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

授業への参加と課題の完成度(30%)、中間討論(10%)、宿題の完成度(10%)、  
語彙テスト(20%)、最終討論(30%)

|                                                                                                           |                         |             |                |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------|-------------|----------------|
| 授業科目名：<br>Writing                                                                                         | 教員の免許状取得のための<br>選択科目    | 単位数：<br>1単位 | 担当教員名：<br>清田 毅 |
|                                                                                                           |                         |             | 担当形態：単独        |
| 科 目                                                                                                       | 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目 |             |                |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等                                                                                     | 外国語コミュニケーション            |             |                |
| 授業のテーマ及び到達目標                                                                                              |                         |             |                |
| 一般目標                                                                                                      |                         |             |                |
| 英語語学習を通じて、思考力を鍛錬し、異文化理解を促進する。                                                                             |                         |             |                |
| その結果、豊かな人間性を身につける。                                                                                        |                         |             |                |
| 到達目標                                                                                                      |                         |             |                |
| 英語を日本語に訳さずにそのまま理解できる英語の回路を脳内に作り上げる。                                                                       |                         |             |                |
| まず、自分の意見を述べ、その後に理由と例を述べる方法を学び、自分の言いたい意見を、相手にわかりやすくまとめる練習をする。                                              |                         |             |                |
| 二項対立の概念を学び、西洋の思想の基礎を学ぶ。                                                                                   |                         |             |                |
| 単語を日本語の意味に直して覚えるのではなく、概念そのものを理解して覚える。                                                                     |                         |             |                |
| 英検準1級に受かることを目指す。                                                                                          |                         |             |                |
| 10分間で100程度の英作文を書けるようになる。                                                                                  |                         |             |                |
| 授業の概要                                                                                                     |                         |             |                |
| 学生が英語の文法の基本を学び直し、英作文の基礎の養成を目指す。                                                                           |                         |             |                |
| 授業計画                                                                                                      |                         |             |                |
| 授業ではまず教科書の英文読み、そこに使われている文法項目を理解して、定着を図ります。その際、特に日本人のよく犯す間違いを取り上げ、特に冠詞と名詞の可算不可算の問題を取り上げる。英文を読んで文法と内容を理解する。 |                         |             |                |
| ディベートの発想を導入し、一つの事柄に二つの側面があることを学ぶ。                                                                         |                         |             |                |
| 欧米の二項対立の発想に慣れる。                                                                                           |                         |             |                |
| 後半の授業では10分間で100WORDS程度の短い英作文を毎回行う。                                                                        |                         |             |                |
| 第1週 イントロダクション                                                                                             |                         |             |                |
| 第2週 冠詞                                                                                                    |                         |             |                |
| 第3週 不可算名詞                                                                                                 |                         |             |                |
| 第4週 比較表現                                                                                                  |                         |             |                |
| 第5週 前置詞                                                                                                   |                         |             |                |
| 第6週 動名詞                                                                                                   |                         |             |                |
| 第7週 不定詞                                                                                                   |                         |             |                |
| 第8週 これまでのまとめと確認                                                                                           |                         |             |                |



第 9 週 分詞形容詞

第 10 週 混同しやすい名詞

第 11 週 接続表現

第 12 週 動詞について整理

第 13 週 動詞と前置詞

第 14 週 助動詞

第 15 週 特殊構文

期末テスト

テキスト

From Paragraph to Essay (南雲堂)

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

評価は中間試験（20％）期末試験（20％）平常点（60％）による。毎授業中の積極的な発言をプラスに評価対象とする。試験内容は「身体」でいかに覚えているかを計りますので、単なる一時的記憶を問うものではありません。特に毎回の英作文は成績の対象になりますので、期末のテストだけでればいいというものではありません。

|                                                                                                                                                                                                                                     |                              |              |                           |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------|--------------|---------------------------|
| 授業科目名：<br>CALL                                                                                                                                                                                                                      | 教員の免許状取得のための<br>選択科目         | 単位数：<br>2 単位 | 担当教員名：<br>高橋秀夫<br>担当形態：単独 |
| 科 目                                                                                                                                                                                                                                 | 教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目 |              |                           |
| 施行規則に定める<br>科目区分                                                                                                                                                                                                                    | 外国語コミュニケーション                 |              |                           |
| 授業の到達目標及びテーマ                                                                                                                                                                                                                        |                              |              |                           |
| 千葉大学で独自開発された指導理論（三ラウンド・システム）に基づいて制作されたマルチメディア型 CALL 教材を「授業＋自習」の形態で使用し、英語コミュニケーションの基礎力である聴解力と語彙力を養成する。                                                                                                                               |                              |              |                           |
| 授業の概要                                                                                                                                                                                                                               |                              |              |                           |
| 聴解力養成用教材は学習者のレベルに応じた CALL 教材が割り当てられる。動画を視聴しながら主体的な問題解決作業を行い、英語のリスニング力を向上させる。語彙力養成用教材ではビジネスコミュニケーションの場面で使用される語彙とその用法を音声とともに学習する。1 週間に 9 0 分以上の自宅（自習室）での自習が必要となる。授業では家庭での学習が適切に行われているかをチェックするための各種小テスト、異文化コミュニケーションを円滑に行うための様々な指導を行う。 |                              |              |                           |
| 授業計画                                                                                                                                                                                                                                |                              |              |                           |
| 第 1 回：オリエンテーション                                                                                                                                                                                                                     |                              |              |                           |
| 第 2 回：プレースメントテストとその解説                                                                                                                                                                                                               |                              |              |                           |
| 第 3 回：CALL 教材の使用法説明、CALL 教材による自習                                                                                                                                                                                                    |                              |              |                           |
| 第 4 回：「Finding an Apartment」の動画を通した聴解力養成。語彙セットのテーマは「会議」                                                                                                                                                                             |                              |              |                           |
| 第 5 回：「Long-Term Stay Hotel」の動画を通した聴解力養成。語彙セットのテーマは「銀行・経済」                                                                                                                                                                          |                              |              |                           |
| 第 6 回：「Business Dinner」の動画を通した聴解力養成。語彙セットのテーマは「商業」                                                                                                                                                                                  |                              |              |                           |
| 第 7 回： 第 4 ～ 6 回のまとめと振り返り                                                                                                                                                                                                           |                              |              |                           |
| 第 8 回：「Etiquette」の動画を通した聴解力養成。語彙セットのテーマは「郵便」                                                                                                                                                                                        |                              |              |                           |
| 第 9 回：「Outside the Office」の動画を通した聴解力養成。語彙セットのテーマは「職業」                                                                                                                                                                               |                              |              |                           |
| 第 1 0 回：「Serving Customers」 の動画を通した聴解力養成。語彙セットのテーマは「旅行」                                                                                                                                                                             |                              |              |                           |
| 第 1 1 回： 第 8 ～ 1 0 回のまとめと振り返り                                                                                                                                                                                                       |                              |              |                           |
| 第 1 2 回：「Food & Restaurant」の動画を通した聴解力養成。語彙セットのテーマは「時間」                                                                                                                                                                              |                              |              |                           |
| 第 1 3 回：「In the Community」の動画を通した聴解力養成。語彙セットのテーマは「環境」                                                                                                                                                                               |                              |              |                           |
| 第 1 4 回：「Specialists」の動画を通した聴解力養成。語彙セットのテーマは「学問」                                                                                                                                                                                    |                              |              |                           |
| 第 1 5 回： 第 1 2 ～ 1 4 回のまとめと振り返り                                                                                                                                                                                                     |                              |              |                           |

第16回：「Introduction to UCB」の動画を通した聴解力養成。語彙セットのテーマは「健康」

第17回：「Meet the Professors」の動画を通した聴解力養成。語彙セットのテーマは「学問」

第18回：「Meet the Students」の動画を通した聴解力養成。語彙セットのテーマは「混同しやすい語」

第19回：第16～18回のまとめと振り返り

第20回：「Recreational Activities」の動画を通した聴解力養成。語彙セットのテーマは「熟語1」

第21回：「From Europe」の動画を通した聴解力養成。語彙セットのテーマは「熟語2」

第22回：「From Asia」の動画を通した聴解力養成。語彙セットのテーマは「熟語3」

第23回：第20～22回のまとめと振り返り

第24回：「From the Americas」の動画を通した聴解力養成。語彙セットのテーマは「経済」

第25回：「From Africa」の動画を通した聴解力養成。語彙セットのテーマは「組織・機関」

第26回：「From the Pacific Rim」の動画を通した聴解力養成。語彙セットのテーマは「金融・証券」

第27回：第24～26回のまとめと振り返り

第28回：「Disease & Medicine」の動画を通した聴解力養成。語彙セットのテーマは「外交」

第29回：「Health & Science」の動画を通した聴解力養成。語彙セットのテーマは「待遇」

第30回：質問紙調査の実施、効果的な自習を続けるために必要な学習理論の提示  
実力テスト

#### テキスト

聴解力養成教材：Listen to Me! シリーズのCALL教材「New York Life」「People at Work」「College Life」「News from the World」

語彙力養成教材：「Business Communication 1」

#### 参考書・参考資料等

なし

#### 学生に対する評価

語彙テスト9回（30%）、聴解テスト2回（40%）、実力テスト1回（30%）を基本とし、自習回数、授業態度も含めて総合的に評価する。

|                                                                                                                                              |                              |              |                        |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------|--------------|------------------------|
| 授業科目名：<br>Critical Thinking<br>in English                                                                                                    | 教員の免許状取得のための<br>選択科目         | 単位数：<br>1 単位 | 担当教員名：<br>Mayne Martin |
|                                                                                                                                              |                              |              | 担当形態：<br>単独            |
| 科 目                                                                                                                                          | 教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目 |              |                        |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等                                                                                                                        | 外国語コミュニケーション                 |              |                        |
| 授業のテーマ及び到達目標                                                                                                                                 |                              |              |                        |
| 授業中に紹介される様々な批判的思考スキルを習得した上で、英語を読む、聞く、そして自分の意見を主張する際、以下のスキルを適用できる。                                                                            |                              |              |                        |
| (1) 事実と意見の違いを認識できるスキル                                                                                                                        |                              |              |                        |
| (2) 信念、偏見、先入観を認識できるスキル                                                                                                                       |                              |              |                        |
| (3) 議論（理由と結論）し、評価するスキル                                                                                                                       |                              |              |                        |
| (4) 課題や自分の価値観、信念を多角的視点から捉えるスキル                                                                                                               |                              |              |                        |
| 授業の概要                                                                                                                                        |                              |              |                        |
| 毎回、国内外から発信される多様なトピックについてのリーディング、リスニング、ディスカッションやリフレクションを通じて、クリティカル・シンキングのスキルの修得を目指す。授業では、議論を認識し評価する、あるいは問題のある推論の特定など、クリティカル・シンキングの様々な側面を紹介する。 |                              |              |                        |
| 授業計画                                                                                                                                         |                              |              |                        |
| 各回の授業テーマは以下に示す通りである。毎回、次の授業回のために60分程度の予習が必要となる。予習には、教科書の練習問題、新出語彙の学習、ディスカッションの準備、批判的思考のワークシート作成などが含まれる。                                      |                              |              |                        |
| 第1回：Unit 1. 海外留学                                                                                                                             |                              |              |                        |
| 第2回：Unit 2. 原子力発電                                                                                                                            |                              |              |                        |
| 第3回：Unit 3. 移民                                                                                                                               |                              |              |                        |
| 第4回：Unit 4. セーフティネット                                                                                                                         |                              |              |                        |
| 第5回：Unit 5. 地球温暖化                                                                                                                            |                              |              |                        |
| 第6回：Unit 6. 職場の女性                                                                                                                            |                              |              |                        |
| 第7回：Unit 7. 土曜日の通学                                                                                                                           |                              |              |                        |
| 第8回：Unit 8. 食品成分表示                                                                                                                           |                              |              |                        |
| 第9回：Unit 9. デジタル時代のエチケット                                                                                                                     |                              |              |                        |
| 第10回：Unit 10. 能力給                                                                                                                            |                              |              |                        |
| 第11回：Unit 11. 在日米軍基地                                                                                                                         |                              |              |                        |
| 第12回：Unit 12. 税金                                                                                                                             |                              |              |                        |
| 第13回：Unit 13. Living Together Before Marriage                                                                                                |                              |              |                        |

第14回：Unit 14. Animal Rights

第15回：Unit 15. Hosting Olympics

テキスト

*Think Smart*

Author: Michael Hood, Publisher: 金星堂, ISBN: 978-4-7647-4043-3

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

授業への参加と課題の完成度：60%

自己の振り返りと復習活動の内容：20%

宿題の完成度：20%

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |                              |              |                                       |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------|--------------|---------------------------------------|
| 授業科目名：<br>English for<br>Specific Fields                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 教員の免許状取得のための<br>選択科目         | 単位数：<br>1 単位 | 担当教員名：<br>Daniel Jenks<br>担当形態：<br>単独 |
| 科 目                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目 |              |                                       |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 外国語コミュニケーション                 |              |                                       |
| 授業のテーマ及び到達目標<br>学術論文における引用と参照、言い換え、調査方法、批判的思考など、高度なアカデミック・ライティングの概念について、実践を通して修得する。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |                              |              |                                       |
| 授業の概要<br>この授業では、最終的に、1000 wordsで構成される学術論文を執筆する。執筆する論文には、授業で取り扱う、①トピックの背景調査、②文献レビュー、③質問紙調査等の調査の実施、④収集したデータの分析、⑤そこから導き出される結論についての議論を含める。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |                              |              |                                       |
| 授業計画<br>第1回：初回のオリエンテーション<br>第2回：アカデミック・ライティングの執筆方法に関する復習<br>第3回：「健康的なライフスタイル」というトピックの英文を用いて、ライティングの形式について修得する。<br>第4回：「薬物乱用と依存症」というトピックの英文を用いて、メモの取り方、クリティカル・シンキングについて修得する。<br>第5回：「メンタルヘルスとストレス」というトピックの英文を用いて、適切な意見の展開の仕方について修得する。<br>第6回：「予防接種と代替医療」というトピックの英文を用いて引用と参照の仕方について修得する。<br>第7回：「医療へのアクセス」というトピックの英文を用いて、パラフレイズについて修得する。<br>第8回：文献レビューと英語での調査方法について修得する。<br>第9回：質問紙調査票の作成法について修得する。<br>第10回：実験結果を収集し、分析する方法について修得する。<br>第11回：結果の成果について検討する方法について修得する。<br>第12回：論文の効果的なイントロダクションの書き方を修得する。<br>第13回：論文の結論の書き方を修得する。<br>第14回：論文全体の校正方法を修得する。<br>第15回：教員からのレビューを元に論文を改善する方法を修得する。 |                              |              |                                       |
| テキスト<br>The Japan Times ( <a href="https://www.japantimes.co.jp/">https://www.japantimes.co.jp/</a> ) に掲載される関連記事                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |                              |              |                                       |

参考書・参考資料等

担当教員が用意し、毎回配布する。

学生に対する評価

授業中及び授業外で調査した内容 30%

学術論文の草案の完成度 30%

最終的に提出される学術論文の完成度 30%

平常点 10%

|                                                                                                                                         |                              |              |                  |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------|--------------|------------------|
| 授業科目名：<br>CALL2                                                                                                                         | 教員の免許状取得のための<br>選択科目         | 単位数：<br>1 単位 | 担当教員名：<br>与那覇 信恵 |
|                                                                                                                                         |                              |              | 担当形態：<br>単独      |
| 科 目                                                                                                                                     | 教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目 |              |                  |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等                                                                                                                   | 外国語コミュニケーション                 |              |                  |
| 授業のテーマ及び到達目標                                                                                                                            |                              |              |                  |
| ( 1 ) 自然な速度で発話された英語を聞き取る力を修得する。                                                                                                         |                              |              |                  |
| ( 2 ) 学術的な英語を理解するのに必要な語彙力を修得する。                                                                                                         |                              |              |                  |
| 授業の概要                                                                                                                                   |                              |              |                  |
| 英語聴解力、語彙力を高めるための、中級～中上級英語学習者を対象とした授業である。教材としては、千葉大学で独自に開発された指導理論（三ラウンド・システム）に基づいて制作されたWeb教材を使用する。教材は、複数あるなかで学生の英語習熟レベルに合わせて使用するものを選定する。 |                              |              |                  |
| 授業計画                                                                                                                                    |                              |              |                  |
| 下記は「Canadian Ways」教材を使用する場合の計画である。他の教材を使用する場合も下記に準ずる。                                                                                   |                              |              |                  |
| 第1回：オリエンテーション                                                                                                                           |                              |              |                  |
| 第2回：リスニング教材（Nature, Unit 1-1）、語彙 Set 1（Music関連の語彙）                                                                                      |                              |              |                  |
| 第3回：リスニング教材（Nature, Unit 1-2）、語彙 Set 2（Photography関連の語彙）                                                                                |                              |              |                  |
| 第4回：リスニング教材（Nature, Unit 1-3）、語彙 Set 3（Drama関連の語彙）                                                                                      |                              |              |                  |
| 第5回：リスニング教材（History, Unit 2-1）、語彙 Set 4（Literature関連の語彙）                                                                                |                              |              |                  |
| 第6回：リスニング教材（History, Unit 2-2）、語彙 Set 5（Philosophy関連の語彙）                                                                                |                              |              |                  |
| 第7回：リスニング教材（History, Unit 2-3）、語彙 Set 6（Linguistics関連の語彙）                                                                               |                              |              |                  |
| 第8回：リスニング教材と語彙教材の復習                                                                                                                     |                              |              |                  |
| 第9回：リスニング教材（Wildlife, Unit 3-1）、語彙 Set 7（Anthropology関連の語彙）                                                                             |                              |              |                  |
| 第10回：リスニング教材（Wildlife, Unit 3-1）、語彙 Set 8（Archaeology関連の語彙）                                                                             |                              |              |                  |
| 第11回：リスニング教材（Wildlife, Unit 3-1）、語彙 Set 9（Religion関連の語彙）                                                                                |                              |              |                  |
| 第12回：リスニング教材（Sports & Camping, Unit 3-1）、語彙 Set 10（Art関連の語彙）                                                                            |                              |              |                  |
| 第13回：リスニング教材（Sports & Camping, Unit 3-1）、語彙 Set 11（History関連の語彙）                                                                        |                              |              |                  |
| 第14回：リスニング教材（Sports & Camping, Unit 3-1）、語彙 Set 12（Culture関連の語彙）                                                                        |                              |              |                  |
| 第15回：授業の振り返り                                                                                                                            |                              |              |                  |
| 実力テスト                                                                                                                                   |                              |              |                  |



テキスト

Listen to Me! シリーズのWeb教材「Canadian Ways」、「World Englishes in Australia」「American Daily Life」「A Bit of Britain」のうちのいずれか。

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

語彙テスト 40%

リスニングテスト 50%

平常点 10%

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                              |              |                                        |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------|--------------|----------------------------------------|
| 授業科目名：<br>海外研修英語（アラバ<br>マ大）                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 教員の免許状取得のための<br>選択科目         | 単位数：<br>4 単位 | 担当教員名：竹蓋順子・<br>Daniel Jenks<br>担当形態：複数 |
| 科 目                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | 教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目 |              |                                        |
| 施行規則に定める<br>科目区分                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 外国語コミュニケーション                 |              |                                        |
| 授業の到達目標及びテーマ                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |                              |              |                                        |
| 英語によるコミュニケーション能力向上、およびアメリカ文化理解を目標とした 4 週間の英語研修。教室での活動に加え、学内協力者（アラバマ大学学生）との会話演習、週末のニューオリンズ、アトランタへの研修旅行を通して、アメリカ文化を吸収するとともに、自ら英語を使ってアメリカ人とコミュニケーションを行う経験を積む。                                                                                                                                                         |                              |              |                                        |
| 授業の概要                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |                              |              |                                        |
| 学生は出発前に事前学習として、千葉大学で独自に開発されたアラバマ大学を英語で紹介したビデオ教材を使用し、アラバマ大学キャンパスについて学びながら、1 ヶ月の研修で必要なキャンパス生活に関する英語表現や知識を身に付ける。現地の授業では、主に音声コミュニケーションに焦点をあてた英語学習を進めるが、論理的な文章を英語で構成する力の養成も行う。授業外ではアラバマ大学で日本語を学ぶ学生たちに日本語を教えると同時に英語を教えてもらう活動を行い、アメリカ人学生との交流にも重点を置いている。                                                                   |                              |              |                                        |
| 授業計画                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |                              |              |                                        |
| 授業はアラバマ大学英語センターで行われる。授業科目は、Oral Presentation, Academic Writing, American Culture の 3 科目について 1 日 6 時間、毎日受講する（合計学習時間は 120 時間＝6 時間×5 日×4 週間）。授業は予習、講義、課題の 3 つからなり、最終週には Oral Presentation, Academic Writing の授業を通して 3 週間かけて取り組んできたプレゼンテーションと英文エッセイの発表を行う。またニューオリンズ、アトランタを訪問する前には特別の文化授業もあり、2 つの街の歴史、文化について十分な事前学習も行う。 |                              |              |                                        |
| テキスト                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |                              |              |                                        |
| 現地で配布される資料、テキスト（Introduction to Academic Writing Level 3, Tapestry Listening and Speaking 3, 他）                                                                                                                                                                                                                    |                              |              |                                        |
| 参考書・参考資料等                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |                              |              |                                        |
| なし                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |                              |              |                                        |
| 学生に対する評価                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |                              |              |                                        |
| 1) 事前学習における課題の理解度、2) Oral Presentation、3) Academic Writing、4) American Culture の各成績を 1：2：2：2 で重みづけし、100 点に換算して評価する。授業や事前事後研修への積極的参加態度を加味する場合もある。                                                                                                                                                                   |                              |              |                                        |

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |                              |              |                        |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------|--------------|------------------------|
| 授業科目名：<br>海外研修英語（アルバータ大）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 教員の免許状取得のための<br>選択科目         | 単位数：<br>4 単位 | 担当教員名：森川セーラ<br>担当形態：単独 |
| 科 目                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目 |              |                        |
| 施行規則に定める<br>科目区分                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 外国語コミュニケーション                 |              |                        |
| 授業の到達目標及びテーマ                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |                              |              |                        |
| 授業でリスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの力を養成するだけではなく、スポーツによる体験学習、歴史博物館訪問による文化面の学習など、多彩なプログラムを通して異文化を体験する。9 月はアルバータ大学の新学期にあたるため様々なイベントがキャンパスで開催される。カナダの大学生の生活を目の当たりにすることで、英語を使ってコミュニケーションすることの楽しさと重要性を認識する。                                                                                                                                                                                                                                                                  |                              |              |                        |
| 授業の概要                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |                              |              |                        |
| カナダ・アルバータ州の州都エドモントンにあるアルバータ大学で、ホームステイをしながら英語によるコミュニケーション能力の養成を行う。各自の英語力に応じて 1 0 レベル程度にクラス分けし、他国の学生と共に英語を学ぶ。教室外学習としては、大自然の中で乗馬、カヌー、ミニゴルフを体験するほか、多民族からなるカナダの文化に関する講義を受けたり、史跡を訪問してガイドの説明を受ける。さらに、2 泊 3 日のカナディアン・ロッキー巡りをして自然観察をするほか、アルバータ大学の授業参観、ネイティブ・スピーカーと会話を楽しむ英会話クラブも予定するなど、多面的に英語を学ぶプログラムを組んでいる。                                                                                                                                                                |                              |              |                        |
| 授業計画                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |                              |              |                        |
| 約 4 ～ 6 週間、各自の英語力に応じたレベル別クラスで、他国の学生とともに、学習者が主体的に発信する形式で 4 技能の力を養成する。合計学習時間は 120 時間である（4 週間の場合は 6 時間 × 5 日 × 4 週間、6 週間の場合は 4 時間 × 5 日 × 6 週間）。研修開始時にアルバータ大学にて英語の実力テスト（リスニング、エッセイライティング）を受けてレベルを決定する。英語の語学学習を午前 8 時から正午までの 4 時間行ったあと、午後は千葉大学担当のカナダ人モニターが引率して、文化的・歴史的に貴重な場所を訪問して英語の説明を受け、生の英語を実体験する。さらにカヌー、乗馬、スポーツのアウトドアスポーツを体験する。3 泊 4 日間のカナディアン・ロッキーへのバス旅行を行って、カナダの大自然を満喫する。補足的に 1 回 1 時間 3 0 分、計 7 回、カナダ人大学生や社会人と交流して自由な会話を楽しむ英会話クラブを開き、英語によるコミュニケーションの楽しさを実体験する。 |                              |              |                        |
| テキスト                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |                              |              |                        |
| English for Presentations at International Conferences（Springer）<br>English for Writing Research Papers（Springer）他                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                              |              |                        |
| 参考書・参考資料等                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                              |              |                        |
| なし                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                              |              |                        |

#### 学生に対する評価

研修の前と直後に自費で TOEIC 受験することを義務付け、研修中の英語力伸長を確認する。研修前に各自が計画したカナダ研究のためのプロジェクトの成果（30％）、研修態度（40％）、アルバータ大学が出す英語評定結果（30％）を総合的に判断して評価する。

|                                                                                                                                                                                                   |                              |              |                        |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------|--------------|------------------------|
| 授業科目名：<br>海外研修英語文化（アラバマ大）                                                                                                                                                                         | 教員の免許状取得のための<br>選択科目         | 単位数：<br>2 単位 | 担当教員名：高橋 秀夫<br>担当形態：単独 |
| 科 目                                                                                                                                                                                               | 教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目 |              |                        |
| 施行規則に定める<br>科目区分                                                                                                                                                                                  | 外国語コミュニケーション                 |              |                        |
| 授業の到達目標及びテーマ                                                                                                                                                                                      |                              |              |                        |
| 外国語の習得には語彙力、文法力などの基礎力や読む、書く、聞く、話すという 4 技能の養成に加え、当該言語を使用する国、地域の文化、歴史、習慣などの異文化理解に関する知識の習得が不可欠である。本研修は協定校、アラバマ大学英語センターの協力のもと、英語による講義を通じて、アメリカ南部の歴史、文化、習慣について学習するとともに、史跡、博物館を訪れ英語を使った体験学習を行うことを目標とする。 |                              |              |                        |
| 授業の概要                                                                                                                                                                                             |                              |              |                        |
| アメリカ南部の文化、歴史について現地で講義を受けるとともに、遺跡、博物館、記念公園等、文化的高い価値を有する名所を訪れ、観察、体験学習することを通して、アメリカ文化について学習しながら、英語コミュニケーション能力の向上を図る。                                                                                 |                              |              |                        |
| 授業計画                                                                                                                                                                                              |                              |              |                        |
| 出発前に事前授業、数時間分の課題、現地での講義があり、アメリカ南部の歴史、文化、習慣等について英語で学習する。さらに各種英語を使った活動を通して英語コミュニケーション能力を高める（授業時間の合計は 6 0 時間＝ 1 日 5 時間× 1 2 日）。研修は 1 6 日間で、そのうち約半分はアラバマ大学内の学生寮で宿泊し、他は訪問地のホテルに宿泊する。                   |                              |              |                        |
| テキスト                                                                                                                                                                                              |                              |              |                        |
| 現地での配布プリント。事前授業に独自開発のビデオ教材を使用する。                                                                                                                                                                  |                              |              |                        |
| 参考書・参考資料等                                                                                                                                                                                         |                              |              |                        |
| 本田創造『アメリカ黒人の歴史』岩波新書<br>ジェームズ・M・バーダマン『アメリカ南部』講談社現代新書、猿谷要『物語アメリカの歴史』中公新書                                                                                                                            |                              |              |                        |
| 学生に対する評価                                                                                                                                                                                          |                              |              |                        |
| 事前学習における課題の理解度（ 2 0 ％）、事前学習・現地学習への積極的参加度（ 4 0 ％）、および 帰国後提出する英語エッセイ（ 4 0 ％）                                                                                                                        |                              |              |                        |

|                                                                                                                                                                                                                  |                              |              |                        |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------|--------------|------------------------|
| 授業科目名：<br>海外研修英語文化（ボーンマス美術大）                                                                                                                                                                                     | 教員の免許状取得のための<br>選択科目         | 単位数：<br>2 単位 | 担当教員名：高橋 秀夫<br>担当形態：単独 |
| 科 目                                                                                                                                                                                                              | 教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目 |              |                        |
| 施行規則に定める<br>科目区分                                                                                                                                                                                                 | 外国語コミュニケーション                 |              |                        |
| 授業の到達目標及びテーマ<br>外国語の習得には語彙力、文法力などの基礎力や読む、書く、聞く、話すという 4 技能の養成に加え、当該言語を使用する国、地域の文化、歴史、習慣などの異文化理解に関する知識の習得が不可欠である。本研修は協定校、ボーンマス美術大学の協力のもと、英語による講義を通じて、イギリスの歴史、文化を特に芸術の面を中心に学習するとともに、史跡、博物館を訪れ英語を使った体験学習を行うことを目標とする。 |                              |              |                        |
| 授業の概要<br>イギリスの文化、歴史、芸術（アート、デザイン）について現地で講義を受け、課題製作等の実習を行うとともに、遺跡、博物館、記念公園等、文化的高い価値を有する名所を訪れ、観察、体験学習することを通して、イギリス文化について学習しながら、英語コミュニケーション能力の向上を図る。                                                                 |                              |              |                        |
| 授業計画<br>出発前事前授業、数時間分の課題、現地での講義があり、イギリスの歴史、文化、芸術等について英語で学習する。さらに各種英語を使った課題作成活動等を通じて英語コミュニケーション能力を高める（授業時間の合計は 6 0 時間＝ 1 日 4 時間× 1 5 日）。研修は 1 7 日間で、主にボーンマス市内にあるボーンマス美術大学の学生寮で宿泊し、他は訪問地のホテルに宿泊する。                  |                              |              |                        |
| テキスト<br>現地での配布プリント。事前授業に独自開発のビデオ教材を使用する。                                                                                                                                                                         |                              |              |                        |
| 参考書・参考資料等<br>君塚直隆『物語イギリスの歴史（上）』中公新書。君塚直隆『物語イギリスの歴史（下）』中公新書。歴史の謎を探る会編『イギリスの歴史が 2 時間でわかる本』夢文庫。                                                                                                                     |                              |              |                        |
| 学生に対する評価<br>事前学習における課題の理解度（ 2 0 ％）、事前学習・現地学習への積極的参加度（ 4 0 ％）、および 帰国後提出する英語エッセイ（ 4 0 ％）                                                                                                                           |                              |              |                        |

|                                                                                                                   |                            |      |                  |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------|------|------------------|
| 授業科目名：                                                                                                            | 教員の免許状取得のための               | 単位数： | 担当教員名：梅澤 猛、全 へい東 |
| 情報リテラシー                                                                                                           | 必修科目                       | 2 単位 | 担当形態：オムニバス       |
| 科 目                                                                                                               | 教育職員免許法施行規則第6 6 条の6 に定める科目 |      |                  |
| 施行規則に定める                                                                                                          | 情報機器の操作                    |      |                  |
| 科目区分又は事項等                                                                                                         |                            |      |                  |
| 授業のテーマ及び到達目標                                                                                                      |                            |      |                  |
| 講義を通じて次の事項を理解し、重要な用語や概念を説明／記述できることを目標にする。                                                                         |                            |      |                  |
| (a) 情報とコミュニケーション (b) コンピュータとインターネットの仕組み                                                                           |                            |      |                  |
| (c) 情報の表現 (d) 情報倫理と情報セキュリティ                                                                                       |                            |      |                  |
| また実習ではプログラミングの初歩、文書作成などの技能を身につける。                                                                                 |                            |      |                  |
| 授業の概要                                                                                                             |                            |      |                  |
| 現代社会のあらゆる場面で情報技術が利用されている。情報リテラシーは情報や情報技術を活用するための必須の素養であり能力である。この授業は大学生にふさわしい情報リテラシーを学ぶ。授業は講義と技能を身につけるための実習の両方を含む。 |                            |      |                  |
| 授業計画                                                                                                              |                            |      |                  |
| 第1回：【実習】科目ガイダンス                                                                                                   |                            |      |                  |
| ＜アカウント配布と設定、学内情報システムの使い方（学生ポータル、千葉大学Moodle、G suite、学内無線LAN、Office365）＞（担当教員：梅澤猛）                                  |                            |      |                  |
| 第2回： 情報とコミュニケーション                                                                                                 |                            |      |                  |
| ＜コミュニケーションモデル、人と機械のインタフェース＞（担当教員：全へい東）                                                                            |                            |      |                  |
| 第3回：コンピュータの仕組み（1）                                                                                                 |                            |      |                  |
| ＜コンピュータの構成、ハードウェアとソフトウェアの構成＞（担当教員：全へい東）                                                                           |                            |      |                  |
| 第4回：コンピュータの仕組み（2）                                                                                                 |                            |      |                  |
| ＜コンピュータの動作原理、アルゴリズムとプログラム＞（担当教員：全へい東）                                                                             |                            |      |                  |
| 第5回：情報の表現（1）＜符号化の原理、数値の符号化＞（担当教員：全へい東）                                                                            |                            |      |                  |
| 第6回：情報の表現（2）＜文字の符号化＞（担当教員：全へい東）                                                                                   |                            |      |                  |
| 第7回：情報の表現（3）＜アナログ情報のデジタル化＞（担当教員：全へい東）                                                                             |                            |      |                  |
| 第8回：【実習】Linuxの操作と文書作成（1）                                                                                          |                            |      |                  |
| ＜CUI操作（基礎、ファイル操作）＞（担当教員：梅澤猛）                                                                                      |                            |      |                  |
| 第9回：【実習】Linuxの操作と文書作成（2）                                                                                          |                            |      |                  |
| ＜CUI操作（ファイル処理、シェル）、TeXによる文書作成（基礎）＞（担当教員：梅澤猛）                                                                      |                            |      |                  |
| 第10回：【実習】Linuxの操作と文書作成（3）                                                                                         |                            |      |                  |
| ＜CUI操作（コマンドによる簡易データ処理）、TeXによる文書作成（図表の作成）＞（担当教員：梅澤猛）                                                               |                            |      |                  |

第11回：情報ネットワーク（1）

＜情報ネットワークの構成、インターネットの仕組み＞（担当教員：全へい東）

第12回：情報ネットワーク（2）

＜LANとWAN、MACアドレス、IPアドレス、経路制御、DNS＞（担当教員：全へい東）

第13回：情報ネットワーク（3）

＜WWW、FQDN、電子証明書、クッキー＞（担当教員：全へい東）

第14回：情報倫理とセキュリティ（1）

＜インターネット社会の問題、情報セキュリティと対策＞（担当教員：全へい東）

第15回：情報倫理とセキュリティ（2）＜SNSと倫理、プライバシー＞（担当教員：全へい東）

テキスト

テキストをMoodleで配付する。

参考書・参考資料等

- (1) 駒谷編, 「情報と社会」 (IT Text 一般教育シリーズ), オーム社, 平成17年
- (2) 千葉大学情報処理教科書編集委員会編, 「新しい大学情報リテラシー」, オーム社, 平成18年
- (3) 井上 他著, 「マスタリングTCP/IP 入門編 (第6版)」, オーム社, 2019年
- (4) 独立行政法人情報処理推進機構著, 「情報セキュリティ読本 六訂版」, 実教出版株式会社, 2022年
- (5) 独立行政法人情報処理推進機構, 「映像で知る情報セキュリティ」 (映像コンテンツ)  
<https://www.ipa.go.jp/security/keihatsu/videos/>

学生に対する評価

レポート（40％）・・・TeXによって作成されたレポートを課す。テーマやフォーマットについては実習にて指定する内容に従うこと。

その他（60％）・・・講義の理解度を確認する小テストをMoodle上で6回実施する。講義の小テストを60%, 実習の課題を40%として素点を合計し、成績を評価する。



|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |  |                      |             |                                        |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|----------------------|-------------|----------------------------------------|
| 授業科目名：<br>教育基礎論                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |  | 教員の免許状取得のための<br>必修科目 | 単位数：<br>1単位 | 担当教員名：<br>岸本 智典、深田 愛乃<br>担当形態：クラス分け・単独 |
| 科 目                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |  | 教育の基礎的理解に関する科目       |             |                                        |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |  | 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 |             |                                        |
| 授業のテーマ及び到達目標<br>〔授業のテーマ〕<br>「教育」の概念、教育学の諸理論、教育史・教育思想史の基礎<br>〔到達目標〕<br>①教育に関する理論と歴史を学び、それを教育の諸現象と関係づけられるようになることができる。<br>②自分が受けてきた教育や自らの教育的関心を相対化することで、教育者としての資質を養うことができる。<br>③日常的教育現象の分析を通じて、教育学的に思考し、教育に関する自身の意見をグループワークや文章等で表現できるようになることができる。                                                                                                                                                                                                                                                                 |  |                      |             |                                        |
| 授業の概要<br>「教育基礎論」は、これまでの教育および学校の営みがどのように捉えられ変遷してきたのかを学ぶことで教育に関する基礎的・全般的理解の修得を目指す。本授業は、教育学に関する理論や歴史を学び、今日の教育が直面する現代的諸課題を批判的・多角的に理解することを目的にする。受講者は、自分が受けてきた教育を相対化することで、自らの教育的関心や基盤を知り、それを教育の歴史や諸理論に結びつけて考えることができるようになることが期待される。                                                                                                                                                                                                                                                                                   |  |                      |             |                                        |
| 授業計画<br>第1回：ガイダンス——本授業の出発点から到達点までの概要<br>第2回：「教育」ということば——定義と意味、「教育」が成立する諸条件<br>第3回：「誰が」「誰に」教えるのか？——理想の教師像、子ども観のさまざま、教育観との関連<br>第4回：「何を」「どのように」教えるのがよいか？——カリキュラム・教育目的・教育方法という考え方の基礎<br>第5回：教育思想の伝統とその継承——教育史・教育思想史を学ぶ意味、古代の教育思想、先駆的な「学校」の登場、中世における教養と学び、その現代への継承<br>第6回：ルネサンスの衝撃から近代教育思想の成立まで——理想的人間像の探求、コメニウスと「教科書」の誕生、啓蒙主義と「理性」の時代、市民社会と教育、公教育思想の誕生<br>第7回：近・現代公教育の前提——「人間形成論」の構築、ペスタロッチとフレーベル、教育における「家庭」、ヘルバルト哲学とヘルバルト派教育思想の展開<br>第8回：20世紀以降の教育思想——科学の進展・変容と心理的・社会的現象としての教育、現代の教育についての「子ども」・「家庭」・「社会」・「学校」の意義 |  |                      |             |                                        |
| テキスト<br>島田和幸・高宮正貴編著『教育原理（よくわかる！教職エクササイズ）』ミネルヴァ書房、2018年。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |  |                      |             |                                        |
| 参考書・参考資料等<br>井藤元編著『ワークで学ぶ教職概論』ナカニシヤ出版、2017年。<br>眞壁宏幹編著『西洋教育思想史』第2版、慶應義塾大学出版会、2020年。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |  |                      |             |                                        |
| 学生に対する評価 最終レポート（70点）、授業内小レポート（30点）。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |  |                      |             |                                        |

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                                     |             |                 |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------|-------------|-----------------|
| 授業科目名：<br>現代教職論                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | 教員の免許状取得のための<br>必修科目                | 単位数：<br>2単位 | 担当教員名：<br>植草 伸之 |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                                     |             | 担当形態：<br>単独     |
| 科 目                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | 教育の基礎的理解に関する科目                      |             |                 |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | ・教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。） |             |                 |
| <p>《授業のテーマ》教員に求められる役割や資質・能力、職務等に関する基礎的内容を学ぶ。</p> <p>《到達目標》</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・教員の役割や求められる資質能力、職務内容等を理解するとともに、教員となるために自分自身にとって学び身に付けるべきことは何かを明確に意識することができる。</li><li>・学校教育や教員、教育活動を巡る今日的課題について多面的・多角的に捉え、自分の考えを述べることができる。</li><li>・グループワーク等に積極的に参加し自分の知識の枠組みを広げるとともに、教員にとって必要とされる豊かな人間性を高めていくことができる。</li></ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                           |                                     |             |                 |
| <p>授業の概要</p> <p>毎回の授業の到達点を明確にした上で、基本的にはアクティブ・ラーニングにより学びを進めていく。理論的なことだけでなく、学校教育の現状や課題に即して講義を進める。また、自らの被教育体験を振り返り、それと結びつけて課題を考えるグループワークなども取り入れていく。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |                                     |             |                 |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：教職とは何か（ガイダンス、教員の役割、使命、子ども・教員の実態）</p> <p>第2回：学習指導要領と教育改革（学習指導要領の変遷と教育改革、教育法規）</p> <p>第3回：学力調査から見た日本の学力（国際調査PISAとTIMSS、学力学習状況調査）</p> <p>第4回：学級経営の実際①（学級づくりの基本、子ども理解）</p> <p>第5回：学級経営の実際②演習（リフレーミング、構成的エンカウンター、アサーション）</p> <p>第6回：生徒指導の実際（生徒指導の意義、子どもの健全育成、問題行動への対応）</p> <p>第7回：いじめ問題への対応（いじめの構造、早期発見と早期対応、重大事案への対応）</p> <p>第8回：教育現場の実際（教育現場の現状と課題、特別支援教育の推進）</p> <p>第9回：学習指導の基本①（わかる授業とは何か、授業スキル）</p> <p>第10回：学習指導の基本②演習（言語活動の大切さ、Schemaの変化）</p> <p>第11回：教師と授業①（道徳教育の変遷と課題）</p> <p>第12回：教師と授業②演習（アクティブ・ラーニング）</p> <p>第13回：新しい学校運営とチーム学校（職員の身分と職務、教育委員会、PTA活動）</p> <p>第14回：保護者との信頼関係の築き方（保護者との連携、保護者対応の実際）</p> |                                     |             |                 |

|                                       |                                                                           |
|---------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------|
| 第15回：学級編成と現代的課題（学級編成基準、合理的配慮、子どもとの関係） |                                                                           |
| 定期試験                                  |                                                                           |
| テキスト                                  | なし                                                                        |
| 参考書・参考資料等                             |                                                                           |
| 『中学校学習指導要領』（平成29年3月告示 文部科学省）          |                                                                           |
| 『高等学校学習指導要領』（平成30年7月 文部科学省）           |                                                                           |
| 学生に対する評価                              | レポート(30%)、リフレクションノート(30%)、試験(40%)<br>グループワーク、プレゼンテーション等授業参画度を含めて総合的に評価する。 |

|                                                                                                      |                                               |             |                    |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------|-------------|--------------------|
| 授業科目名：教育制度論                                                                                          | 教員の免許状取得のための<br>必修科目                          | 単位数：<br>2単位 | 担当教員名：<br>澤里（渡邊） 翼 |
|                                                                                                      |                                               |             | 担当形態：単独            |
| 科 目                                                                                                  | 教育の基礎的理解に関する科目                                |             |                    |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等                                                                                | 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。） |             |                    |
| 授業のテーマ及び到達目標                                                                                         |                                               |             |                    |
| 現代公教育制度の意義・原理・構造について理解し、法的・制度的仕組みに関する基礎的知識を身に付けます。 またそこに内在する諸課題について、知識や他者の意見を踏まえながら論理的に考えていく態度を養います。 |                                               |             |                    |
| 授業の概要                                                                                                |                                               |             |                    |
| 前半では現代の公教育制度の歴史や構造など基礎的な知識について講義を行います。後半では教育制度に関わるいくつかのテーマを通して、受講生と一緒にそこに内在する課題について考えていきます。          |                                               |             |                    |
| 授業計画                                                                                                 |                                               |             |                    |
| 第1回：イントロダクション                                                                                        |                                               |             |                    |
| 第2回：西欧の教育制度とその歴史                                                                                     |                                               |             |                    |
| 第3回：日本の学校教育の成立                                                                                       |                                               |             |                    |
| 第4回：戦後日本の教育制度                                                                                        |                                               |             |                    |
| 第5回：世界の教育制度                                                                                          |                                               |             |                    |
| 第6回：【教育行政の理念と仕組み】教育内容を決めるべきは、国？教師？親？                                                                 |                                               |             |                    |
| 第7回：【教育行政の基本構造】教育費、国の負担はどこまで？                                                                        |                                               |             |                    |
| 第8回：中間テスト及びレポートの書き方                                                                                  |                                               |             |                    |
| 第9回：【教育制度をめぐる課題①】教育制度で貧困は克服できるか？                                                                     |                                               |             |                    |
| 第10回：【教育制度をめぐる課題②】学校は監獄か？                                                                            |                                               |             |                    |
| 第11回：【学校と地域の関係】学校は選択するもの？参加するもの？                                                                     |                                               |             |                    |
| 第12回：【教師の働き方と学校経営】忙しすぎる？学校の先生。                                                                       |                                               |             |                    |
| 第13回：【学校安全】学校事故、だれの責任どう防ぐ？                                                                           |                                               |             |                    |
| 第14回：【現代の教育問題】教育問題、どうしたらよくなる？                                                                        |                                               |             |                    |
| 第15回：まとめ                                                                                             |                                               |             |                    |
| テキスト 特になし。                                                                                           |                                               |             |                    |
| 参考書・参考資料等 授業中に適宜指示します。                                                                               |                                               |             |                    |
| 学生に対する評価                                                                                             | 授業への貢献度（コメント、発表など）<br>中間テスト 10%<br>期末レポート 60% |             | 30%                |

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |  |                        |             |                                       |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|------------------------|-------------|---------------------------------------|
| 授業科目名：教育心理学                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |  | 教員の免許状取得のための<br>必修科目   | 単位数：<br>2単位 | 担当教員名：<br>原 英樹、伊藤嘉奈子<br>担当形態：クラス分け・単独 |
| 科 目                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |  | 教育の基礎的理解に関する科目         |             |                                       |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |  | 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程 |             |                                       |
| 授業のテーマ及び到達目標<br>テーマ：教育に携わる者として知っておくべき幼児・児童・生徒の心身の発達と学習の基本的な概念、そのメカニズム、および、その学校教育での応用可能性について教育心理学的な立場から扱う。<br>到達目標：幼児・児童・生徒の心身の発達と学習について、教育心理学的な知見にもとづきながらそれらの概念を理解し、それらのメカニズム、学校教育での応用などについての基本的な知識を身に着ける。さらに、それらの知識を学習指導、生徒指導などにおいて役に立てることができるようにする。                                                                                                                                                                                                              |  |                        |             |                                       |
| 授業の概要<br>はじめに教育心理学について、発達と学習の概念を中心に概観しながら講義する。そして、発達と学習との基本的なメカニズムについて、行動か認知かといったいくつかの視点を提示しその理解を深める。さらに、発達については、幼児期から青年期に至る各段階での発達について、認知、言語、社会性、コミュニケーション、対人関係などの各側面から検討する。また、学習については、教授・学習過程の諸問題をとりあげ、それに加え、学習を支える動機づけや、学業に関する不適応や意欲低下、クラスの目標、人間関係と動機づけなどの問題にも触れてゆく。                                                                                                                                                                                            |  |                        |             |                                       |
| 授業計画<br>第1回：教育心理学の基本的方向性―発達と学習―その学問的背景<br>第2回：行動論からの学習理解：条件づけとその応用<br>第3回：認知論からの学習理解：記憶 知識獲得 理解<br>第4回：学習と教授法（1）：プログラム学習、完全習得学習<br>第5回：学習と教授法（2）：スキーマと教材の構成<br>第6回：学習と教授法（3）：教授学習過程と教育評価<br>第7回：学業に関する不適応：その要因を探る<br>第8回：発達とは何か：発達についての考え方、エリクソンの発達段階<br>第9回：発達の規定因：遺伝か環境か<br>第10回：愛着の発達：心的発達を支えるコミュニケーション<br>第11回：認知発達：ピアジェ以降の認知発達理論<br>第12回：社会性の発達：友人関係、遊び、道徳性<br>第13回：学習と動機づけ：学習意欲とは何か<br>第14回：動機づけの規定因（1）：意欲とその低下、無気力<br>第15回：動機づけの規定因（2）：学級集団の目標、人間関係<br>定期試験 |  |                        |             |                                       |
| テキスト 小山義徳（編著） 「基礎から学ぶ教育心理学」 サイエンス社                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |  |                        |             |                                       |
| 参考書・参考資料等 補助資料（プリント）を適宜配布する                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |  |                        |             |                                       |
| 学生に対する評価 毎回の授業終了時に実施する小レポート（20％）、定期試験（80％）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |  |                        |             |                                       |

|                                                                                                                                                                                                                                 |                               |         |             |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------|---------|-------------|
| 授業科目名：特別支援教育の理論と方法                                                                                                                                                                                                              | 教員の免許状取得のための必修科目              | 単位数：2単位 | 担当教員名：野澤 純子 |
|                                                                                                                                                                                                                                 |                               |         | 担当形態：単独     |
| 科 目                                                                                                                                                                                                                             | 教育の基礎的理解に関する科目                |         |             |
| 施行規則に定める科目区分又は事項等                                                                                                                                                                                                               | 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解    |         |             |
| 授業のテーマ及び到達目標                                                                                                                                                                                                                    |                               |         |             |
| 授業のテーマ:特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対応するための知識や支援方法を理解する。                                                                                                                                                               |                               |         |             |
| 到達目標:                                                                                                                                                                                                                           |                               |         |             |
| (1)特別支援教育の教育法制度の基礎的事項を説明できる。                                                                                                                                                                                                    |                               |         |             |
| (2)特別支援教育の対象となる障害児および特別の教育的ニーズ児の特性と基礎的事項を列挙できる。                                                                                                                                                                                 |                               |         |             |
| (3)特別支援教育の教育課程、指導法に関する基礎的な知識を述べることができる。                                                                                                                                                                                         |                               |         |             |
| (4)家庭との連携や関連機関連携について基礎的事項を説明できる。                                                                                                                                                                                                |                               |         |             |
| 授業の概要                                                                                                                                                                                                                           |                               |         |             |
| 特別支援教育は、特別の支援を必要とする幼児児童生徒が在籍する全ての学校において実施される。本科目では、特別支援教育の基礎となる、特別支援教育の目標・理念、特別支援教育が目指すべき教育制度・実践について解説する。また、それぞれの障害特性や心理的特性の基本を理解し、その特性に適した教育の場や指導の方法や内容に関する基礎的な知識を習得する。さらに早期からの一貫した支援と関連諸機関との連携や家族支援について学び、理解を深めることができるよう教授する。 |                               |         |             |
| 授業計画                                                                                                                                                                                                                            |                               |         |             |
| 第1回：特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒と特別支援教育                                                                                                                                                                                                 |                               |         |             |
| 第2回：特別支援教育に関連する法律、教育制度、インクルーシブ教育システム                                                                                                                                                                                            |                               |         |             |
| 第3回：特別支援学校、特別支援学級における教育課程と指導の実際                                                                                                                                                                                                 |                               |         |             |
| 第4回：通級指導教室および通常の学級における教育課程と指導の実際                                                                                                                                                                                                |                               |         |             |
| 第5回：個別の指導計画及び個別の教育支援計画の作成と活用                                                                                                                                                                                                    |                               |         |             |
| 第6回：知的障害の特性と特別支援教育                                                                                                                                                                                                              |                               |         |             |
| 第7回：ADHDの特性と特別支援教育                                                                                                                                                                                                              |                               |         |             |
| 第8回：学習障害の特性と特別支援教育                                                                                                                                                                                                              |                               |         |             |
| 第9回：自閉スペクトラム症の特性と特別支援教育                                                                                                                                                                                                         |                               |         |             |
| 第10回：肢体不自由の特性と特別支援教育                                                                                                                                                                                                            |                               |         |             |
| 第11回：聴覚障害、視覚障害の特性と特別支援教育                                                                                                                                                                                                        |                               |         |             |
| 第12回：病弱、重度重複障害の基礎と特別支援教育                                                                                                                                                                                                        |                               |         |             |
| 第13回：特別の教育的ニーズのある子どもの理解と指導の実際（外国人児童生徒、貧困等）                                                                                                                                                                                      |                               |         |             |
| 第14回：家庭、関係機関、および特別支援教育コーディネーターとの連携                                                                                                                                                                                              |                               |         |             |
| 第15回：授業のまとめ                                                                                                                                                                                                                     |                               |         |             |
| テキスト                                                                                                                                                                                                                            | 石部元雄編著「よくわかる障害児教育」第4版、ミネルヴァ書房 |         |             |
| 参考書・参考資料等                                                                                                                                                                                                                       | なし                            |         |             |
| 学生に対する評価                                                                                                                                                                                                                        | 期末レポート60％、ミニレポート20％、平常点20％    |         |             |

|                                                                                                                                                                                        |  |                                       |              |                     |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|---------------------------------------|--------------|---------------------|
| 授業科目名：教育課程論                                                                                                                                                                            |  | 教員の免許状取得のための<br>必修科目                  | 単位数：<br>1 単位 | 担当教員名：<br>宮野祥子、高木 啓 |
|                                                                                                                                                                                        |  |                                       |              | 担当形態：クラス分け・オムニバス    |
| 科 目                                                                                                                                                                                    |  | 教育の基礎的理解に関する科目                        |              |                     |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等                                                                                                                                                                  |  | 教育課程の意義及び編成の方法<br>(カリキュラム・マネジメントを含む。) |              |                     |
| 授業のテーマ及び到達目標                                                                                                                                                                           |  |                                       |              |                     |
| 今日の教育改革、教育課程改革の動向や教育問題を分析しながら、その内容を理解するとともに、それらが持つ問題や課題を把握できるようにする。そこから、教育課程（カリキュラム）編成の意義およびその目的と編成の方法及びその主体、カリキュラム・マネジメントのあり方を理解できるようにする。また、日本社会が抱える諸問題から、日本の教育、教育課程について再考することを目的とする。 |  |                                       |              |                     |
| 授業の概要                                                                                                                                                                                  |  |                                       |              |                     |
| 教育課程編成に関わる現代的教育課題を検討しながら、教育課程（カリキュラム）編成の意義およびその目的と編成の方法およびその主体について考える。その際、グループでの話し合いやワークショップなども取り込んで授業を進める。                                                                            |  |                                       |              |                     |
| 授業計画                                                                                                                                                                                   |  |                                       |              |                     |
| 第1回：ガイダンス～現在の教育課程改革の概観（高木）                                                                                                                                                             |  |                                       |              |                     |
| 第2回：カリキュラム編成の方法と類型（宮野）                                                                                                                                                                 |  |                                       |              |                     |
| 第3回：日本の「授業づくり」における教育課程のあり方（宮野）                                                                                                                                                         |  |                                       |              |                     |
| 第4回：カリキュラム・マネジメントの重要性と課題（宮野）                                                                                                                                                           |  |                                       |              |                     |
| 第5回：社会の変化と教育課程編成（宮野）                                                                                                                                                                   |  |                                       |              |                     |
| 第6回：学校と社会をつなぐ教育課程（1）：若者論と教育課程（宮野）                                                                                                                                                      |  |                                       |              |                     |
| 第7回：学校と社会をつなぐ教育課程（2）：学習指導要領の変遷（宮野）                                                                                                                                                     |  |                                       |              |                     |
| 第8回：カリキュラム改善につながるカリキュラム評価の概念（宮野）                                                                                                                                                       |  |                                       |              |                     |
| 定期試験（宮野）                                                                                                                                                                               |  |                                       |              |                     |
| テキスト                                                                                                                                                                                   |  | 指定なし。授業中に資料を配付する。                     |              |                     |
| 参考書・参考資料等                                                                                                                                                                              |  |                                       |              |                     |
| 中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）、高等学校学習指導要領（平成30年予定 文部科学省）、中学校学習指導要領解説（平成29年7月 文部科学省）、高等学校学習指導要領解説（平成30年予定 文部科学省）                                                                            |  |                                       |              |                     |
| その他、授業中に指示する。                                                                                                                                                                          |  |                                       |              |                     |
| 学生に対する評価                                                                                                                                                                               |  | 授業の目的・目標にそって定期試験の成績によって判定する。(100%)    |              |                     |

|                                                                                                                                                                                                                                                    |  |                                    |          |               |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|------------------------------------|----------|---------------|
| 授業科目名：総合的な学習の時間の指導法                                                                                                                                                                                                                                |  | 教員の免許状取得のための必修科目                   | 単位数：1 単位 | 担当教員名：明石萌子    |
|                                                                                                                                                                                                                                                    |  |                                    |          | 担当形態：クラス分け・単独 |
| 科 目                                                                                                                                                                                                                                                |  | 道徳、総合的な学習の時間の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 |          |               |
| 施行規則に定める科目区分又は事項等                                                                                                                                                                                                                                  |  | 総合的な学習の時間の指導法                      |          |               |
| 授業のテーマ及び到達目標                                                                                                                                                                                                                                       |  |                                    |          |               |
| (授業のテーマ) 新学習指導要領をふまえて、総合的な学習の時間の指導についての理論及び単元構成、授業づくりの実践について理解することができる。                                                                                                                                                                            |  |                                    |          |               |
| (到達目標)                                                                                                                                                                                                                                             |  |                                    |          |               |
| <ul style="list-style-type: none"><li>・ 新学習指導要領をふまえ、総合的な学習の時間の意義と役割を知ることができる。</li><li>・ 総合的な学習の時間の特徴的な授業構造を知り、単元を構成するために基礎的な知見を得ることができる。</li><li>・ 総合的な学習の時間の評価と実践する際の教材研究と授業の展開方法を知ることができる。</li><li>・ 総合的な学習の時間が基盤とする子どもの学びを理解することができる。</li></ul> |  |                                    |          |               |
| 授業の概要                                                                                                                                                                                                                                              |  |                                    |          |               |
| 総合的な学習の時間の指導に必要な、授業構造並びに単元構成、授業展開と評価、子どもの学び等について、教育実践を基盤として理解することができる。                                                                                                                                                                             |  |                                    |          |               |
| 授業計画                                                                                                                                                                                                                                               |  |                                    |          |               |
| 第1回：中・高等学校における総合的な学習の教育課程上の位置(総合的な学習の時間の意義と役割)                                                                                                                                                                                                     |  |                                    |          |               |
| 第2回：学習指導要領における総合的な学習の時間の目標と内容の設定について                                                                                                                                                                                                               |  |                                    |          |               |
| 第3回：各学校・学年・学級での総合的な学習の時間の目標・内容設定の考え方の留意点                                                                                                                                                                                                           |  |                                    |          |               |
| 第4回：総合的な学習の授業づくりのための準備①(実践事例検討 教材の選定と年間指導計画の作成)                                                                                                                                                                                                    |  |                                    |          |               |
| 第5回：総合的な学習の授業づくりのための準備②(実践事例検討 生徒の学びと単元計画の作成)                                                                                                                                                                                                      |  |                                    |          |               |
| 第6回：総合的な学習において主体的・対話的で深い学びを実現するための具体的な手だて                                                                                                                                                                                                          |  |                                    |          |               |
| 第7回：総合的な学習の時間における指導と子どもの豊かな学習状況に関する評価                                                                                                                                                                                                              |  |                                    |          |               |
| 第8回：総合的な学習の時間を創造するための実務                                                                                                                                                                                                                            |  |                                    |          |               |
| テキスト                                                                                                                                                                                                                                               |  |                                    |          |               |
| 中学校学習指導要領(平成29年3月告示 文部科学省)                                                                                                                                                                                                                         |  |                                    |          |               |
| 高等学校学習指導要領(平成30年告示 文部科学省)                                                                                                                                                                                                                          |  |                                    |          |               |
| 総合的な学習の時間の指導法Making of 総合的な学習(一藝社)2018 鈴木隆司ほか                                                                                                                                                                                                      |  |                                    |          |               |
| 参考書・参考資料等                                                                                                                                                                                                                                          |  |                                    |          |               |
| 子どもの遊びと手の労働研究会会報                                                                                                                                                                                                                                   |  |                                    |          |               |
| 学生に対する評価 毎回の授業時に提示するミニレポート(70%)並びに授業におけるパフォーマンス(30%)を総合して評価する。レポートでは各回の講義で何を学んだかを明確に示すことを要求する。                                                                                                                                                     |  |                                    |          |               |



|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                                     |              |                |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------|--------------|----------------|
| 授業科目名：<br>特別活動                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | 教員の免許状取得のための<br>必修科目                | 単位数：<br>1 単位 | 担当教員名：<br>高原史朗 |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                                     |              | 担当形態：<br>単独    |
| 科 目                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 |              |                |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 特別活動の指導法                            |              |                |
| 授業の到達目標及びテーマ                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |                                     |              |                |
| <p>特別活動は、学校における様々な構成の集団での活動を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して様々に行われる活動の総体です。「学校教育全体における特別活動の意義を理解し、『人間関係形成』・『社会参画』・『自己実現』の三つの視点や『チームとしての学校』の視点を持つとともに、学年の違いによる活動の変化、各教科等との往還的な関連、地域住民や他校の教職員と連携した組織的な対応等の特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付け、説明できること」を全体目標とします。具体的には、下記の学習目標を意識して、授業に参加して下さい。</p> <p>1) 特別活動の意義、目標及び内容を理解し、説明できること。</p> <p>2) 特別活動の指導の在り方を理解し、説明できること。</p> |                                     |              |                |
| 授業の概要                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |                                     |              |                |
| <p>「特別活動」は「教科」「総合的な学習の時間」とともに教育課程を構成している3領域の一つです。「特別活動」と聞いてピンとこない人も、入学式や卒業式、文化祭、修学旅行などの学校行事や、学級活動などが一例であると聞けば、学校教育にとっていかに重要な領域か分かるのではないのでしょうか。本講義では「特別活動」の特質や教育効果等について学ぶとともに、指導・評価の在り方について具体的に検討していきます。</p>                                                                                                                                                        |                                     |              |                |
| 授業計画                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |                                     |              |                |
| 第1回：特別活動論への招待                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 特別活動の体験共有、目標と内容、教育課程上の位置づけ          |              |                |
| 第2回：学級活動 1)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 学級活動の実践例                            |              |                |
| 第3回：学級活動 2)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 学級活動の特質、集団活動の意義                     |              |                |
| 第4回：学校行事 1)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 学校行事とは何か 学校行事の特質、指導と評価、学外連携         |              |                |
| 第5回：学校行事 2)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 文化祭と体育祭 特質、合意形成、指導と評価、学外連携          |              |                |
| 第6回：生徒会活動                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 生徒会活動の特質、生徒会選挙の意義、保護者会との連携          |              |                |
| 第7回：特別活動と部活動                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 部活動の特質、特別活動との共通性と差異、学外連携            |              |                |
| 第8回：総括                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 各領域の特質、指導と評価、顕在的效果と潜在的効果            |              |                |
| テキスト                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |                                     |              |                |
| 高原史朗『中学生を担任するということ』高文研、2017年                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |                                     |              |                |
| 参考書・参考資料等                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |                                     |              |                |
| 文部科学省『中学校学習指導要領』（平成29年3月告示 文部科学省）。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |                                     |              |                |
| 文部科学省『中学校学習指導要領解説 特別活動編』（平成29年7月 文部科学省）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |                                     |              |                |
| 文部科学省『高等学校学習指導要領』（平成30年予定 文部科学省）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |                                     |              |                |
| 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 特別活動編』（平成30年予定 文部科学省）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |                                     |              |                |
| 佐々木正昭〔編著〕『入門 特別活動—理論と実践で学ぶ学級・ホームルーム担任の仕事』学事出版、2014年。                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |                                     |              |                |
| 学生に対する評価                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |                                     |              |                |
| 授業への出席を前提として、平常点（グループ活動での班への貢献、コメントペーパー50%）、期末レポート（50%）を総合して評価します。                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |                                     |              |                |

|                                                                                                                                          |  |                                     |              |                     |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|-------------------------------------|--------------|---------------------|
| 授業科目名：<br>教育方法・技術                                                                                                                        |  | 教員の免許状取得のための<br>必修科目                | 単位数：<br>1 単位 | 担当教員名：<br>伊藤晃一、小牧 瞳 |
|                                                                                                                                          |  |                                     |              | 担当形態：<br>クラス分け・複数   |
| 科 目                                                                                                                                      |  | 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 |              |                     |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等                                                                                                                    |  | 教育の方法及び技術                           |              |                     |
| 授業のテーマ及び到達目標                                                                                                                             |  |                                     |              |                     |
| 教育の方法及び技術に関することについて、歴史的・社会的背景、理念、具体的な実践例、ICT活用など、様々な面から考えていく。本講義をとおして、中学校・高等学校における授業・教材づくりの基礎を養うことをねらいとする。                               |  |                                     |              |                     |
| 授業の概要                                                                                                                                    |  |                                     |              |                     |
| 毎回、多様な観点から教育の方法及び技術に関する話題を取り上げる。それらについて受講者らで批判的に検討をしたり、実際に何かを調査したりすることをとおして、授業・教材づくりのあり方について認識を深めてもらう。講義形式を基本とするが、毎回グループワークやディスカッションを行う。 |  |                                     |              |                     |
| 授業計画                                                                                                                                     |  |                                     |              |                     |
| 第1回：導入：授業における「分かること」と「楽しさ」との関係、教育方法と子ども観、授業研究とその方法                                                                                       |  |                                     |              |                     |
| 第2回：授業づくりの基礎①：授業記録の分析、授業の構成要素、インストラクショナル・デザイン                                                                                            |  |                                     |              |                     |
| 第3回：授業づくりの基礎②：具体的な教育技術、指示・発問の論理、教材づくりの手法                                                                                                 |  |                                     |              |                     |
| 第4回：教育方法の歴史的変遷：1950年代から2000年代まで                                                                                                          |  |                                     |              |                     |
| 第5回：教育方法の最新事情①：ICT活用 アクティブラーニング ゲーミフィケーション                                                                                               |  |                                     |              |                     |
| 第6回：教育方法の最新事情②：情報モラル教育 キャリア教育 学校外との連携                                                                                                    |  |                                     |              |                     |
| 第7回：実践：学習指導案および授業記録の分析と評価                                                                                                                |  |                                     |              |                     |
| 第8回：まとめ：これまでの授業内容を振り返る、教育方法の基礎を問い直す                                                                                                      |  |                                     |              |                     |
| テキスト                                                                                                                                     |  |                                     |              |                     |
| 特になし。毎回プリントを配布する。                                                                                                                        |  |                                     |              |                     |
| 参考書・参考資料等                                                                                                                                |  |                                     |              |                     |
| 阿部学・伊藤晃一『授業づくりをまなびほぐす：ここからはじめるクリエイティブ授業論』静岡学術出版                                                                                          |  |                                     |              |                     |
| 『中学校学習指導要領』（平成29年3月告示 文部科学省）                                                                                                             |  |                                     |              |                     |
| 『高等学校学習指導要領』（平成30年3月告示 文部科学省）                                                                                                            |  |                                     |              |                     |
| 『中学校学習指導要領解説』（平成29年7月 文部科学省）                                                                                                             |  |                                     |              |                     |

『高等学校学習指導要領解説』（平成30年7月 文部科学省）

その他、毎回のテーマに応じた文献・資料を紹介していく。

学生に対する評価

授業中の取組状況・小レポート（50%） 最終レポート（50%）

|                                                                                                                                                                                                                                                                                          |                                     |              |                        |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------|--------------|------------------------|
| 授業科目名<br>ICT活用教育の理論と方法                                                                                                                                                                                                                                                                   | 教員の免許状取得のための<br>必修科目                | 単位数：<br>1 単位 | 担当教員名：八木澤 史子、<br>竹内 正樹 |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                          |                                     |              | 担当形態：クラス分け・単独          |
| 科 目                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 |              |                        |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等                                                                                                                                                                                                                                                                    | 情報通信技術を活用した教育の理論及び方法                |              |                        |
| 授業のテーマ及び到達目標<br><br>(授業のテーマ) ICT (情報通信技術) を効果的に活用した学習指導・校務のあり方、児童・生徒に情報活用能力を育成するための基礎的な知識・技能を習得する。<br><br>(到達目標)<br><ul style="list-style-type: none"><li>・ 教育におけるICT活用の意義と理論を理解する。</li><li>・ ICTを効果的に活用した学習指導や校務の推進のあり方について理解する。</li><li>・ 児童・生徒に情報活用能力を育成するための基礎的な指導法を身に付ける。</li></ul> |                                     |              |                        |
| 授業の概要<br><br>授業の中で実際にICTを活用しながら、ICT (情報通信技術) を効果的に活用した学習指導・校務のあり方、児童・生徒に情報活用能力を育成するための基礎的な知識・技能を習得する。                                                                                                                                                                                    |                                     |              |                        |
| 授業計画<br><br>第1回：教育におけるICT活用の意義と社会的背景<br>第2回：「教育の情報化」の歴史とICTを活用した指導事例・校務事例<br>第3回：各教科等における情報活用能力育成のあり方<br>第4回：児童生徒のインターネット利用上の課題と情報モラル教育<br>第5回：特別支援教育とICT活用<br>第6回：プログラミングの思考とプログラミング教育のあり方<br>第7回：教育データの活用と教育情報セキュリティ<br>第8回：個別最適な学びと協働的な学びにおけるICT活用、遠隔・オンライン教育の指導法                     |                                     |              |                        |
| テキスト 千葉大学教育学部附属小学校『オンライン学習でできること、できないこと』明治図書出版<br><br>藤川大祐『教師が知らない「子どものスマホ・SNS」新常識』教育開発研究所                                                                                                                                                                                               |                                     |              |                        |
| 参考書・参考資料等 特になし                                                                                                                                                                                                                                                                           |                                     |              |                        |
| 学生に対する評価 各回において学習支援システムを通じて提出される課題 (40%) 及び最終レポート (60%) によって評価する。最終レポートでは、授業の理解度や具体的な問題への応用力等を評価する。                                                                                                                                                                                      |                                     |              |                        |

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |                                                                             |             |                                          |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------|-------------|------------------------------------------|
| 授業科目名：<br>生徒指導・教育相談・<br>進路指導Ⅰ                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 教員の免許状取得のための<br>必修科目                                                        | 単位数：<br>2単位 | 担当教員名：<br>生稲 勇、富樫春人<br>担当形態：<br>クラス分け・単独 |
| 科 目                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目                                         |             |                                          |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | ・生徒指導の理論及び方法<br>・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法<br>・進路指導及びキャリア教育の理論及び方法 |             |                                          |
| 授業のテーマ及び到達目標<br>・ 学校では、生徒指導、教育相談及び進路指導の理解を深めることは、子どもの健全育成のためには欠かせない。本講座では、生徒指導・教育相談・進路指導の理論と具体的事例をもとに実践力を育成する。また、児童生徒や保護者への具体的な対応についても学ぶ。                                                                                                                                                                                                                                                     |                                                                             |             |                                          |
| 授業の概要<br>1) 生徒指導・教育相談・進路指導の理論を具体的場面に当てはめてイメージすることができる。<br>2) 子どもの発達課題を理解し、不登校、いじめ、非行等の不適応行動への対応策を自ら考えることができる。<br>3) 振り返りの課題を通して、自己理解を深めることができる。<br>4) 人間関係づくりのワークを通して、自らの新しい対人関係を構築することができる。また、生徒の対人関係構築を促すことができる。                                                                                                                                                                            |                                                                             |             |                                          |
| 授業計画<br>第1回 ガイダンスー信頼される教師とはー<br>第2回 生徒指導の意義と在り方ー教師と生徒の関係性ー<br>第3回 教育相談の意義と心理学の基礎的な理論<br>第4回 学校教育におけるカウンセリングの技法<br>第5回 授業に生かすカウンセリングマインド<br>第6回 思春期の発達と発達課題<br>第7回 不登校の理解、その対応と課題<br>第8回 いじめ、問題行動の理解、その対応と課題<br>第9回 発達障害、学力問題の理解、その対応と課題<br>第10回 貧困・虐待・性の多様性の理解、その対応と課題<br>第11回 保護者への対応と連携<br>第12回 進路指導・キャリア教育の意義と移行支援<br>第13回 人間関係づくりと自己理解・他者理解<br>第14回 特別活動の意義と役割<br>第15回 まとめ、レポート作成<br>定期試験 |                                                                             |             |                                          |
| テキスト                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | なし                                                                          |             |                                          |
| 参考書・参考資料等 毎回の授業で提示予定<br>『生徒指導提要』（平成22年3月 文部科学省）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |                                                                             |             |                                          |
| 学生に対する評価<br>評価基準：授業への取り組み（出席・態度・レポート）と期末試験を総合的に評価する。<br>評価方法：授業への取り組み（60%）、期末試験（40%）                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |                                                                             |             |                                          |

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |                                                                                |             |                               |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------|-------------|-------------------------------|
| 授業科目名：<br>生徒指導・教育相談・<br>進路指導Ⅱ                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | 教員の免許状取得のための<br>必修科目                                                           | 単位数：<br>2単位 | 担当教員名：<br>生稲 勇<br>担当形態：<br>単独 |
| 科 目                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目                                            |             |                               |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | ・ 生徒指導の理論及び方法<br>・ 教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法<br>・ 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法 |             |                               |
| 授業のテーマ及び到達目標<br>・ 学校では、生徒指導、教育相談及び進路指導の理解を深めることは、子どもの健全育成のためには欠かせない。本講座では、生徒指導・教育相談・進路指導Ⅰの内容を踏襲し、児童生徒・保護者対応について具体的事例を中心に実践力を育成する。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                |             |                               |
| 授業の概要<br>1) 生徒指導・教育相談・進路指導の理論を具体的場面に当てはめてイメージすることができる。<br>2) 子どもの発達課題を理解し、不登校、いじめ、非行等の不適応行動への対応策を自ら考えることができる。<br>3) 振り返りの課題を通して、自己理解を深めることができる。<br>4) グループワークを通して、自らの新しい対人関係を構築することができる。また、生徒の対人関係構築を促すことができる。                                                                                                                                                                                                                                   |                                                                                |             |                               |
| 授業計画<br>第1回 ガイダンス<br>第2回 生徒指導の意義と特別指導 ー懲戒・体罰の違いー<br>第3回 教育相談の意義と心理学の理論と方法<br>第4回 学校教育における心理学の技法<br>第5回 授業に生かす発達障害、学力問題の理解と対応<br>第6回 思春期の発達課題ー虐待・貧困をもとにー<br>第7回 仲間関係の発達課題ーいじめ・性の多様性をもとにー<br>第8回 不登校の理解、その対応と課題ー事例から考えるー<br>第9回 発達障害、学力問題の理解ー事例から考えるー<br>第10回 保護者対応と連携スクールカウンセラーとの連携をもとにー<br>第11回 外部専門機関との連携ースクールソーシャルワーカーとの連携をもとにー<br>第12回 進路指導・キャリア教育の意義と移行支援ー中退・転学への配慮も含むー<br>第13回 ソーシャルスキルトレーニング<br>第14回 教師のメンタルヘルス<br>第15回 まとめ、レポート作成<br>定期試験 |                                                                                |             |                               |
| テキスト                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | なし                                                                             |             |                               |
| 参考書・参考資料等 毎回の授業で提示予定<br>『生徒指導提要』（平成22年3月 文部科学省）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |                                                                                |             |                               |
| 学生に対する評価<br>評価基準：授業への取り組み（出席・態度・レポート）と期末試験を総合的に評価する。<br>評価方法：授業への取り組み（60%）、期末試験（40%）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |                                                                                |             |                               |

|                                                                                                                                               |                                                     |             |                     |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------|-------------|---------------------|
| 授業科目名:<br>生徒指導・教育相談の<br>理論と実際                                                                                                                 | 教員の免許状取得のための<br>必修科目                                | 単位数:<br>1単位 | 担当教員名:<br>笠井孝久、生稲 勇 |
|                                                                                                                                               |                                                     |             | 担当形態:クラス分け・単独       |
| 科 目                                                                                                                                           | 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目                 |             |                     |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等                                                                                                                         | ・生徒指導の理論及び方法<br>・教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法 |             |                     |
| 授業のテーマ及び到達目標                                                                                                                                  |                                                     |             |                     |
| 社会の変化に伴って、児童生徒の抱える課題も多様化、複雑化、困難化してきており、教師には様な状態像の子ども達に対する発達・適応促進的な関わりが求められている。本講義では、何らかの課題を抱えた児童生徒の理解、支援の視点と方法を学び、支援者としての教師の資質を身につけることを目的とする。 |                                                     |             |                     |
| ＜到達目標＞                                                                                                                                        |                                                     |             |                     |
| ・児童生徒の抱える困難の実態と困難を生じさせる要因を理解する。                                                                                                               |                                                     |             |                     |
| ・児童生徒の抱える困難を見立てる力と具体的な支援の方法を身につける。                                                                                                            |                                                     |             |                     |
| ・学校体制や関連機関の役割を知り、児童生徒への支援に活用する方法を学ぶ。                                                                                                          |                                                     |             |                     |
| 授業の概要                                                                                                                                         |                                                     |             |                     |
| この授業では、子どもの抱える課題の実態とそれに影響を及ぼす要因を理解し、課題を抱える子どもを支援する機関の働きと活用の仕方を学ぶ。                                                                             |                                                     |             |                     |
| 授業計画                                                                                                                                          |                                                     |             |                     |
| 第1回:ガイダンス 授業の狙い、進め方の説明                                                                                                                        |                                                     |             |                     |
| 第2回:児童生徒の抱える困難の実態と理解の視点                                                                                                                       |                                                     |             |                     |
| 第3回:児童生徒を支援する視点(生徒指導と教育相談)                                                                                                                    |                                                     |             |                     |
| 第4回:児童生徒支援の方法(カウンセリングの理論と方法)                                                                                                                  |                                                     |             |                     |
| 第5回:学校の生徒指導・教育相談体制と関係機関との連携                                                                                                                   |                                                     |             |                     |
| 第6回:課題を抱える子どもへの支援の実際(事例研究)                                                                                                                    |                                                     |             |                     |
| 第7回:教師の自己理解と保護者支援                                                                                                                             |                                                     |             |                     |
| 第8回:まとめと最終課題                                                                                                                                  |                                                     |             |                     |
| テキスト                                                                                                                                          |                                                     |             |                     |
| ・関連する資料等を授業中に適宜配布する。                                                                                                                          |                                                     |             |                     |
| 参考書・参考資料等                                                                                                                                     |                                                     |             |                     |
| 『生徒指導提要』(平成22年3月 文部科学省)                                                                                                                       |                                                     |             |                     |
| 学生に対する評価                                                                                                                                      |                                                     |             |                     |
| ・毎回の授業への取り組み(グループワーク、小レポート等) 60%                                                                                                              |                                                     |             |                     |
| 最終課題(レポートまたはテスト) 40%                                                                                                                          |                                                     |             |                     |

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |        |            |   |            |   |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------|------------|---|------------|---|
| 教職実践演習                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |        | 単位数：2単位    |   | 担当教員名：富樫春人 |   |
| 科 目                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |        | 教育実践に関する科目 |   |            |   |
| 履修時期                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 4 年次後期 | 履修履歴の把握    | ○ | 学校現場の意見聴取  | ○ |
| 受講者数 25人                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |        |            |   |            |   |
| <b>教員の連携・協力体制</b><br>授業の実施に於いて、必要に応じ教育学部教員養成開発センター教員が協力を行う。加えて、県内高等学校の現職若手教員がゲストスピーカーとして参加する。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |        |            |   |            |   |
| <b>授業のテーマ及び到達目標</b><br>授業や教育実習などこれまでの教職課程での学習や体験を総括し、教員としてさらに必要な学習課題を明らかにする。教育実習で自分自身がおこなった授業や学級指導を再分析し、GIGAスクールに対応した学級経営や授業の指導案を作成できる実践力をつける。また、教員免許状取得のために必要な知識・技能を修得するとともに、将来社会人として自立するために必要な資質能力を高める。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |        |            |   |            |   |
| <b>授業の概要</b><br>教員免許状取得の必修科目（他学部向け）。<br>履修履歴や教育実習での体験をふりかえって課題を明らかにし、教職の意義や子ども理解、学級経営等に関する理解をより深めるとともに、模擬授業を通してその課題を追求する。アフターコロナやGIGAスクール（ICT活用）、コミュニティスクールなど最新の課題にも対して、ディスカッションを行う。その中で、これまでに身につけてきた資質能力を発展、活用させながら対応し、必要に応じて不足している知識や技能等を補い、その定着を図る。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |        |            |   |            |   |
| <b>授業計画</b><br>第1回：全体ガイダンス・グループ分け<br>第2回：教員になるための学習と課題 -これまでの学習の振り返りと継続-<br>第3回：教員の仕事の実際① 校務支援パソコンの活用 GIGAスクール（ICT活用）への対応<br>第4回：教員の仕事の実際② コミュニティスクールへの対応<br>第5回：アフターコロナの学級づくり 人間関係づくりのための開発的な教育相談<br>第6回：防災教育 命を守る学習指導 災害時のメンタルヘルス<br>第7回：「信頼する（される）」ことの難しさと重要性①（ゲストティーチャー）<br>第8回：「信頼する（される）」ことの難しさと重要性②（ゲストティーチャー）<br>第9回：模擬授業検討会① チーム課題の設定<br>第10回：模擬授業検討会② 課題に迫るための工夫 アクティブラーニングやICTの活用法<br>第11回：模擬授業① アクティブラーニングやICTを活用した授業の展開<br>第12回：模擬授業② ふりかえりを実施して、新たな課題を設定する。<br>第13回：若手教員との交流 現場の課題や教師のやりがい学ぶ（ゲストスピーカー）<br>第14回：メンタルヘルスの理解と実践 教員の心と体が元気であるために<br>第15回：教職実践演習のまとめ |        |            |   |            |   |
| <b>テキスト</b><br>特に使用しない、教育学部で独自に作成した資料集を適宜使用する                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |        |            |   |            |   |
| <b>参考書・参考資料等</b><br>適宜紹介する                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |        |            |   |            |   |
| <b>学生に対する評価</b><br>グループワークや話し合い等への取り組みの様子（30％）、各回の授業の記録（30％）、まとめのレポート提出（40％）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |        |            |   |            |   |